

消 防 年 報

第 21 号
令和 7 年版



加賀市消防本部

令和 8 年刊行

— は し が き —

この消防年報は、加賀市の消防現勢及び消防業務に関する事項を収録し、消防事情を紹介するために編集したものです。

内容は、令和８年中（度）をもって作成されております。

なお、それによらないものについては、それぞれに記載した年月日現在により作成したものです。

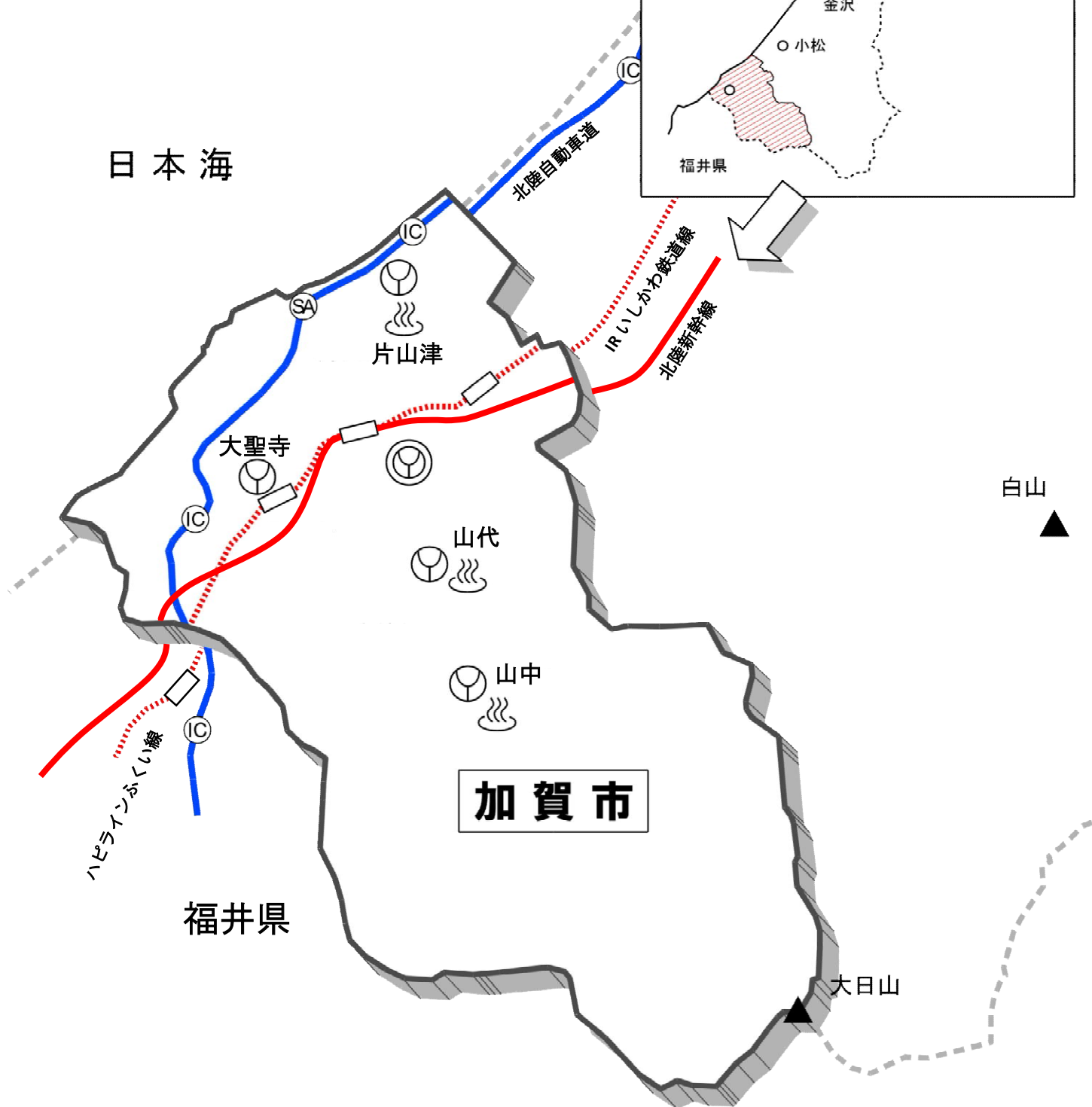
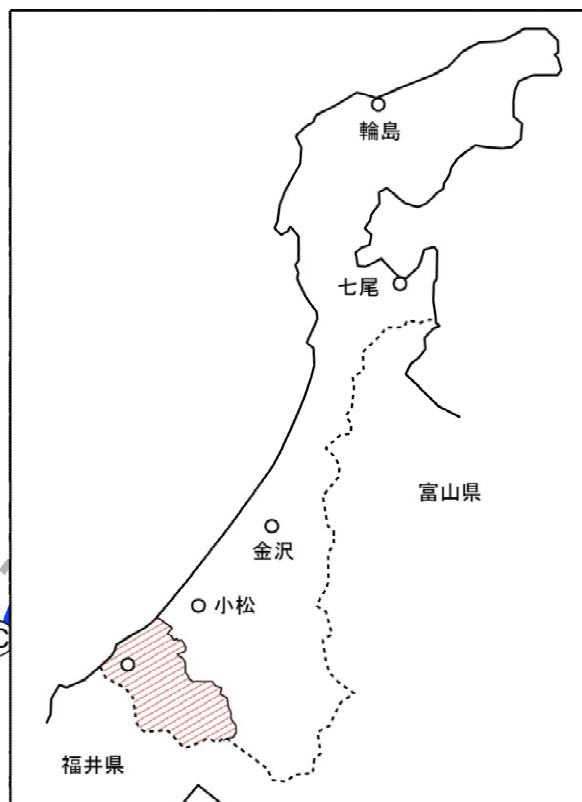
本書がいささかでもお役に立つことができれば幸いに存じます。

令和８年８月

加賀市消防本部

加賀市略図

-  ... 消防本部・消防署所在地
-  ... 分署所在地
-  ... 温泉地



目 次

加賀市の概要	1
消防の配置	3
加賀市消防のあゆみ	4

I 総 務

1 消防組織	
(1) 機構	9
(2) 消防本部事務分掌	10
(3) 消防署事務分掌	11
2 職員	
(1) 職員配置状況	12
(2) 勤続年数状況	12
(3) 年齢別職員数	13
(4) 教育・訓練等派遣状況	13
(5) 免許資格等取得状況	14
3 予算	
(1) 令和8年度消防費当初予算比較表	15
(2) 令和8年度消防費当初予算額	17
(3) 消防費の市民負担状況	17
(4) 一般会計と消防費の比較	17
4 消防力	
(1) 装備の配置	18
(2) 単位比較表	19
(3) 消防応援協定等締結状況	20

II 消 防

1 予防	
(1) 火災予防査察及び消防用設備等 設置検査月別実施状況	21
(2) 防火管理者を必要とする防火対象物	22
(3) 月別消防用設備等着工届出状況	23
(4) 月別消防用設備等設置届出状況	23
(5) 中高層建築物実態	24
(6) 建築同意事務処理件数	
ア 用途別	25
イ 工事別	26
(7) 過去5年間の建築確認 同意等事務処理件数	26
(8) 危険物倍数別、類別状況 (完成検査済証交付施設)	27
(9) 危険物事務処理件数	28
(10) 消防本部への5か年度の諸届出件数	28
(11) 女性防火クラブの現況	
ア クラブの現況	29
イ 年間行事	30
ウ 主な表彰等	30

(12) 幼年・子ども消防クラブの現況	
ア 幼年消防クラブの現況	32
イ 子ども消防クラブの現況	32
ウ 年間行事	33
エ 主な表彰等	33
オ 主な寄贈等	34

2 火災

(1) 火災概要	35
(2) 前年との火災概要比較	36
(3) -1 令和6年中の出火原因	37
(3) -2 令和7年中の出火原因	37
(4) 過去5年間の火災比較	37
(5) -1 火災一覧	38
(5) -2 火災原因一覧	39
(6) 月別火災状況	40
(7) 月／時間別火災件数	41
(8) 曜日／月別火災件数	42
(9) 用途別火災状況	42
(10) 出火原因別火災状況	43
(11) 分団別火災状況	44
(12) 過去5年間の分団別火災状況	45
(13) 消防隊火災出動状況	46
(14) 過去10年間の火災件数	47
(15) 過去10年間の火災損害額	47
(16) 昭和33年以降の主な火災 (焼損床面積1,000㎡以上)	48

3 救急

(1) 救急概要	49
(2) 前年との救急概要比較	50
(3) 事故種別搬送人員	
ア 年齢別	51
イ 管内管外別	51
ウ 傷病程度別	51
エ 発生場所別	52
オ 医療機関収容所要時間別	52
カ 転送回数別	52
(4) 医療機関別搬送人員	53
(5) 事故種別出動件数	
ア 月・曜日・時間別	54
イ 現場到着所要時間別	55
ウ 北陸自動車道	55
エ 理由別不搬送件数	55
(6) 方面別出動状況	56
(7) 1日あたりの出動件数	56
(8) 救急隊員の行った応急処置件数	57
(9) ドクターヘリ要請状況	58
(10) ドクターカー要請状況	58
(11) 救急支援出動状況(PA連携)	58

(12)	救急出動等の5年間比	
ア	年齢別搬送人員	58
イ	出動状況	59
ウ	救急講習実施状況	59
(13)	過去10年間の救急出動状況	60
(14)	過去10年間の救急出動種別	61

4 救助

(1)	救助概要	63
(2)	事故種別出動件数	64
(3)	発生場所別出動件数	65
(4)	月別出動件数	66
(5)	曜日・時間別出動件数	67
(6)	救助活動人員	67
(7)	過去5年間の救助出動状況	68

Ⅲ 装備施設

1 装備

(1)	消防自動車保有状況	69
(2)	地域自衛消防隊 小型動力ポンプ保有状況	70

2 水利

(1)	地区別消防水利状況一覧表	73
(2)	基準水利状況一覧表	74

3 通信・気象

	高機能消防指令システム系統図	75
	無線通信系統図	76
(1)	高機能指令システム機器概要	77
(2)	覚知別通報受信状況	78
(3)	119番月別通報受信状況	78
(4)	令和7年月別気象通報発令状況	79
(5)	令和7年月別気象状況	79

Ⅳ 消防団

(1)	消防団組織一覧表	81
(2)	年齢別消防団員数	82
(3)	在職年数別消防団員数	82
(4)	報酬等	83
(5)	退職団員在職年数	83
(6)	退職報償金支給状況	83
(7)	分団車庫一覧表	84
(8)	消防ポンプ車保有状況	85
(9)	消防団出動状況	85

参考

旧加賀市消防と旧山中町消防の沿革

	旧加賀市消防のあゆみ	87
	旧加賀市の歴代消防長・団長	93
	旧山中町消防のあゆみ	94
	旧山中町の歴代消防長・団長	97

加 賀 市 の 概 要

＜新しい加賀市の発足＞

平成１７年１０月１日に旧加賀市と旧山中町が合併し、新しい加賀市として発足しました。

新加賀市は、石川県の最南端に位置し、西には荒波寄せる日本海と美しい緑の松並み木が織りなす海岸線は、越前加賀海岸国定公園に指定されています。また、東には霊峰白山を仰ぎ、南には大日山をはじめとする自然豊かな山々が連なっております。

その大日山に源を発する大聖寺川と動橋川の流域に開け、山間部や丘陵部、平野部、海岸部といった源流から河口にかけて、美しい溪谷や湧き出る温泉、潟、湿地、砂浜などの変化に富んだ自然が凝縮されています。

これら豊かな自然を背景に、城下町や温泉街、港町、農山村集落などが立地しており、風土色豊かな生活のもと、偉大な先人達は多様な文化を築いてきました。

山中温泉、山代温泉、片山津温泉をはじめ、古九谷や北前船、山中漆器など、全国に誇る地域の宝が今も脈々と受け継がれています。

＜加賀市のシンボル・位置・面積＞



加賀市の市章

加賀市の頭文字「K」を基調に、お湯が湧き上がる姿をイメージし、未来に向けて飛躍する都市を表現したものです。3つの図形で構成し、左から広大な日本海、緑豊かな大地、そして温泉を表し、市民が互いに思いやり、支えあえるようにとの願いが込められています。

〔所在地〕 石川県加賀市大聖寺南町ニ 4 1 番地（市役所）
東経 1 3 6 度 1 8 分 5 4 秒 北緯 3 6 度 1 8 分 1 0 秒

〔面 積〕 3 0 5 . 8 7 k m²

東西間	2 2 . 8 k m
南北間	2 7 . 5 k m
周 囲	9 8 . 5 k m
海岸線	1 6 . 5 k m

＜加賀市の人口＞

年 次	世帯数	人 口			備 考
		総数	男	女	
令和 8 年 4 月 1 日	28,801	60,538	28,975	31,563	加賀市 HP

＜消防本部・署の所在地及び施設詳細＞

	所 在 地	TEL・FAX (0761)	種 別	構 造	面積(m ²)	建築年月
加賀市消防本部 加賀市消防署	〒922-0422 加賀市弓波町 257	72-0119	庁 舎	RC 3 階建	2,660.0	昭和 55 年 9 月
		73-0382	訓練棟	S 5 階建	125.0	
大聖寺分署	〒922-0811 加賀市大聖寺南町ニ 41	73-0119	庁 舎	市役所別館併設	342.1	平成 2 年 9 月
		73-1340				
片山津分署	〒922-0404 加賀市源平町 51	74-0119	庁 舎	RC 2 階建	372.3	昭和 53 年 5 月
		74-1135				
山代分署	〒922-0243 加賀市山代温泉北部 1 丁目 94	77-0119	庁 舎	RC 2 階建	439.5	昭和 49 年 3 月
		76-1159	機械室	CB 平屋建	16.0	
山中分署	〒922-0112 加賀市山中温泉西桂木町ヌ 17-2	78-0119	庁 舎	RC 3 階建	1,168.0	昭和 58 年 2 月
		78-2012	訓練塔	S 造 (2 棟)	75.0	平成 8 年 3 月

＜歴代消防長＞

歴 代	氏 名	就任年月日	退任年月日	備 考
初 代	松村 勇一	平成 17 年 10 月 1 日	平成 20 年 9 月 30 日	
二 代	末 一夫	平成 20 年 10 月 1 日	平成 23 年 3 月 31 日	
三 代	嶽野 賢一	平成 23 年 4 月 1 日	平成 24 年 3 月 31 日	
四 代	山下 秀男	平成 24 年 4 月 1 日	平成 27 年 3 月 31 日	
五 代	西谷外喜男	平成 27 年 4 月 1 日	平成 29 年 3 月 31 日	
六 代	山根 真一	平成 29 年 4 月 1 日	平成 31 年 3 月 31 日	
七 代	苗代 修	平成 31 年 4 月 1 日	令和 2 年 3 月 31 日	
八 代	市村 公一	令和 2 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日	
九 代	大和 克幸	令和 6 年 4 月 1 日	現 在	

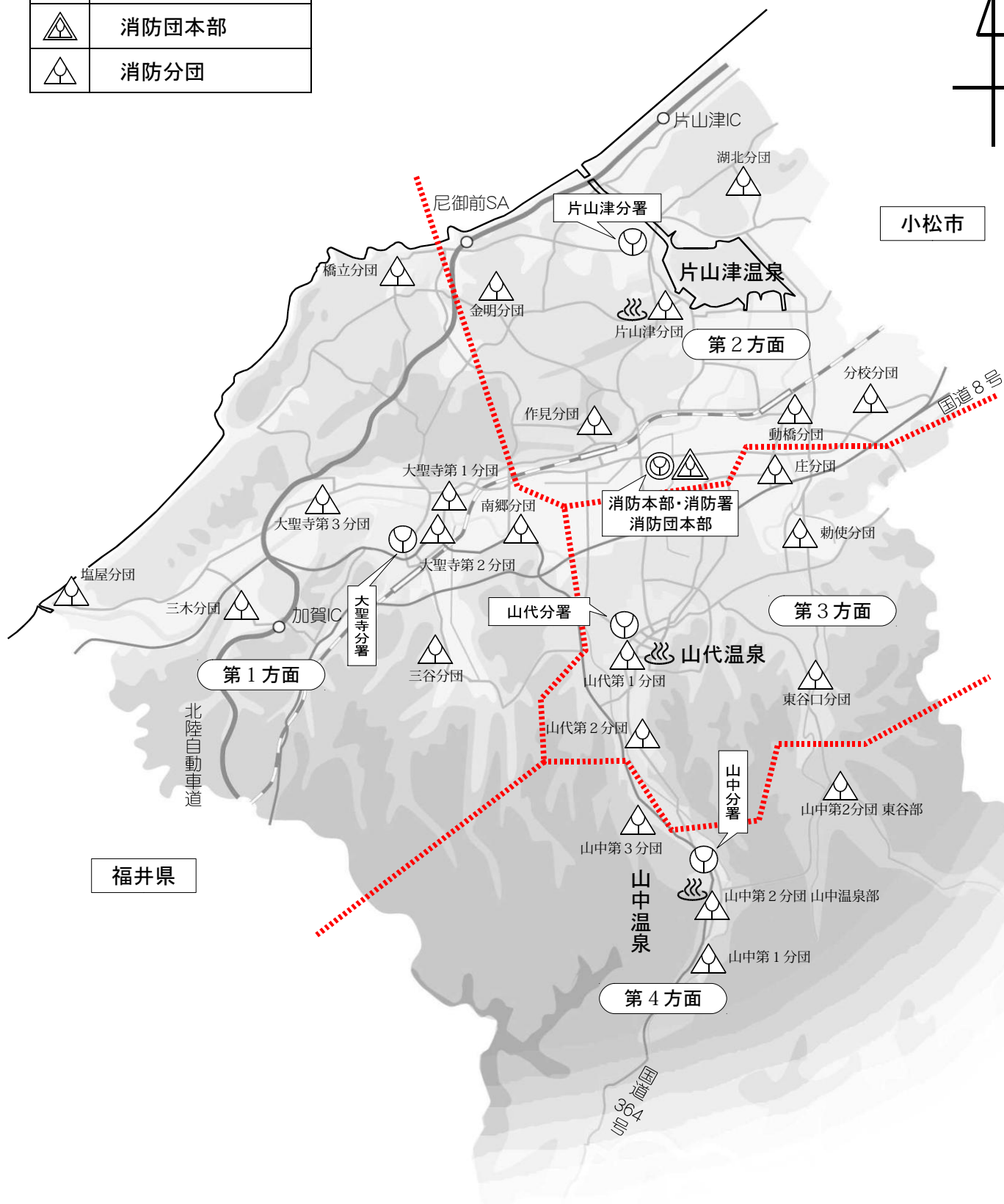
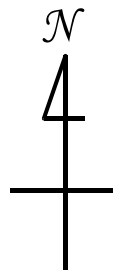
＜歴代消防団長＞

歴 代	氏 名	就任年月日	退任年月日	備 考
初 代	川下 勉	平成 17 年 10 月 1 日	平成 23 年 3 月 31 日	
二 代	山下 勇	平成 23 年 4 月 1 日	平成 23 年 12 月 1 日	
三 代	山下 敏雄	平成 23 年 12 月 2 日	平成 27 年 3 月 31 日	
四 代	日根 悟司	平成 27 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 31 日	
五 代	木田 充則	令和 5 年 4 月 1 日	現 在	

消 防 の 配 置

凡 例

	消防本部・消防署
	消防分署
	消防団本部
	消防分団



加賀市消防のあゆみ

元禄9年（1696）大聖寺藩では、幕命により江戸において定火消を設け、幕府の重要建造物の守りを命じられたのが、大聖寺藩消防の始まりである。

この3年前の元禄6年7月17日に大火が発生し、城下を焼き尽くし、藩邸も一棟残らず焼失したものであるが、この中に2間×3間の「火消道具置処」と言う独立した建物も含まれており、専従の火消役人が存在していたかは定かではないが、火消しに従事していたことは確かである。

また、元禄9年よりそう遅くない時代に起こったと思われるが、幕政を見習い大聖寺藩内村々に対して駆付人足制度を設けた。城下火災のときは、藩の重要建物である実性院・敷地天神宮・那谷寺や福田の塩蔵、永町・瀬越・山中・串の米蔵、そして、当然のことだが火元詰などの火消人足を命じ、重役級の火消役人の指揮により消防に当たっていた。

享保3年（1718）7月、大聖寺藩火消役が大井市正が定火消役を任ぜられると始めて記録に登場する。始めは20名から30名を一組とし数組があったが、文政9年（1827）頃には一組40名前後で幾組も組織されていた。

当然ながら町火消が存在していたことは確かであるが、何時頃組織され幾組あったかは明らかではなく、大聖寺藩では、城下において火災が発生したならば、「定火消・町火消・火消人足」がともに消防に当たっていたこの制度も明治維新とともに廃止され消滅したようだ。しかし、町火消や火消人足制度が廃止されたからといって、対岸の火事と放っておくわけにいかず大聖寺町では「大聖寺町鳶」、動橋村では「動橋火消組」が組織された。また、山中村では慶応元年（1865）村火消しが起こったとあり、絶つこと無く継承された村もあった。

このように大半の村では藩政時代名残の火消制度が廃止されたが、明治22年4月、消防組の設置義務を課した消防組規則が公布されると郡内の大半の村や集落では私設ではあるが消防組が組織されていった。町村制が施行され江沼郡1町134村が1町24村に統合した年であった。

その5年後の明治27年5月、山代村に郡内では最初の公設消防組が創設され、これを皮切りに町や村々の消防組は私設から公設へと改組されていったが、昭和14年の戦時下における警防団令の施行により、郡内すべての消防組は解散し警防団に改編された。大聖寺町警防団ではこれを機に常備部を設置し、県下では金沢市、小松市、七尾市に次ぐ四番目の常備部設置であった。

この警防団も昭和22年4月、消防団令の制定公布により廃止され郡内すべての警防団は組織変更され改称して消防団が発足した。

その翌年3月、消防組織法が施行され明治以来の消防組、戦時下の警防団、戦後の消防団と変遷を経た消防は、明治27年から50余年間にわたる警察行政管理下から分離独立し自治体消防としてスタートした。

同法の施行により各自治体は消防本部・消防署を設置できることとなったが、郡内4町（大聖寺、片山津、山代、山中）の消防団常備部や常備員配置地区ではその様な動きはなかった。しかし、山中町は昭和30年4月、3村と合併し、いち早く旧山中町消防本部・同消防署を発足させた。署長以下9名であった。

その3年後の昭和33年1月、旧山中町を除く郡内の3町6村が合併して旧加賀市が誕生し、同年4月、旧加賀市消防本部を創設した。また、大聖寺・山代・片山津の各消防団常備部を消防署とし、1本部3消防署、消防長以下35名の体制で発足した。

これにより藩政時代から火災鎮圧を唯一の職務とした消防は、火消し消防から脱皮し、予防消防へと移行した。更に、自治体消防として発足した両消防本部はそれぞれの環境のもと従来の警防業務に加え救急・救助・危険物行政等と業務を拡大し、災害の複雑多様化・生活様式の変化による消防行政需要の増加に伴い消防ポンプ車はもとより高規格救急車・はしご車・救助工作車等の施設整備や消防力の充実強化を図り、消防環境の変化に応じた体制の整備を進めていった。

そして、平成17年10月1日、旧加賀市・旧山中町の合併により新・加賀市消防本部が誕生した。

沿革史	
年次	内 容
平成 17 年 10 月 1 日	加賀市制施行 (市町村合併に伴い旧加賀市、旧山中町を廃し、その区域を以って加賀市とする) 消防組織は 1 本部 (1 課)、1 消防署、4 分署 (大聖寺分署、片山津分署、山代分署、山中分署) 体制となる。職員定数は 118 人 (実員 111 人) 初代消防長に松村勇一氏が就任する。 初代消防団長に川下勉氏が就任する。
平成 19 年 2 月 27 日	平成 2 年度配備のはしご付消防自動車を 30m 級はしご付消防自動車に更新整備する。 (モリタ製 防衛施設補助事業 整備費 146,790 千円)
平成 19 年 4 月 1 日	消防職員 2 名を採用する。(実員 108 名)
平成 20 年 2 月 29 日	平成 9 年度配備の高規格救急車を更新整備する。(防衛施設補助事業 整備費 27,705 千円)
平成 20 年 4 月 1 日	消防職員 3 名を採用する。(実員 107 名)
平成 20 年 10 月 1 日	第二代消防長に末 一夫氏が就任する。
平成 21 年 4 月 1 日	消防職員 5 名を採用する。(実員 106 名)
平成 21 年 4 月 29 日	元消防団長 川下 勉氏が藍綬褒章を受章する。 元加賀市消防本部消防長 山下 忠信氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元山中町消防本部消防長 細野 晋治氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元加賀市消防団大聖寺第 2 分団長 丹羽豊光氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 21 年 10 月 30 日	山代分署に耐震補強・改修工事を施す。 (地域活性化・生活対策臨時交付金 事業費 31,209 千円)
平成 21 年 11 月 3 日	元加賀市消防団消防副団長 寺尾 一彦氏が藍綬褒章を受章する。 元加賀市消防本部消防長 谷本 直人氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元加賀市消防団湖北分団長 鹿野 洋一氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 22 年 2 月 24 日	平成 4 年度配備の大聖寺第 2 分団車、昭和 60 年度配備の分校分団車を更新整備する。 (地域活性化・経済危機対策臨時交付金 整備費 9,660 千円×2 台)
平成 22 年 4 月 1 日	消防職員 5 名を採用する。(実員 109 名) 消防課 (総務係)、予防課 (予防係・消防係) の 2 課制とする。
平成 22 年 4 月 22 日	平成 4 年度配備の普通救急車を高規格化更新整備し、救急車 4 台運用とする。 (緊急消防援助隊施設整備費補助事業 整備費 27,405 千円)
平成 22 年 4 月 29 日	元加賀市消防本部消防次長 藤野 博氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 22 年 9 月 30 日	大聖寺分署に改修工事を施す。 (地域活性化・きめ細かな臨時交付金 事業費 4,673 千円)
平成 22 年 10 月 1 日	大聖寺分署に高規格救急車 1 台を配備する。 (救急業務を消防署 2 台、大聖寺分署 1 台、山中分署 1 台の体制とする)
平成 22 年 11 月 3 日	元山中町消防本部消防長 石蔵 博敏氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元加賀市消防団大聖寺第 1 分団長 荻田 正郎氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 23 年 3 月 11 日	昭和 61 年度配備の金明分団車を更新整備する。(再編交付金事業 整備費 9,849 千円) 昭和 62 年度配備の三谷分団車を更新整備する。 (特定防衛施設周辺整備調整交付金 整備費 10,216 千円)
平成 23 年 3 月 25 日	平成 14 年度配備の高規格救急車を J A 共済連寄贈車に更新し、消防署に配備する。
平成 23 年 4 月 1 日	第三代消防長に嶽野 賢一氏が就任する。 第二代消防団長に山下 勇氏が就任する。 消防職員 4 名を採用する。(実員 109 名)
平成 23 年 4 月 29 日	元山中町消防団第 5 分団長 下出 宏氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。 元加賀市消防団橋立分団長 安宅 忍氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。 元加賀市消防本部予防課長 濱谷一雄氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 23 年 11 月 3 日	元山中町消防本部消防長 出口 数夫氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 23 年 12 月 2 日	第三代消防団長に山下 敏雄氏が就任する。
平成 24 年 3 月 29 日	昭和 63 年度配備の橋立分団車を更新整備する。 (特定防衛施設周辺整備調整交付金 整備費 10,427 千円)
平成 24 年 3 月 30 日	大聖寺第 2 分団格納庫 (統合) を整備する。大聖寺南町地内 (合併特例債 事業費 47,073 千円) 大聖寺第 2 分団に人員兼資機材搬送車を整備する。(整備費 3,425 千円)

年 次	内 容
平成 24 年 4 月 1 日	消防団再編計画に基づき、大聖寺第 2、大聖寺第 4 分団が統合し、大聖寺第 2 分団となる。第四
平成 24 年 4 月 1 日	代消防長に山下 秀男氏が就任する。 消防職員 2 名を採用する。(実員 110 名)
平成 24 年 4 月 29 日	元加賀市消防署消防署長 秋田 昭弘氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。 元加賀市消防団片山津第 1 分団長 坂口 健氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 24 年 9 月 28 日	消防本部庁舎に耐震補強・改修工事を施す。 (社会資本整備総合交付金及び合併特例債 事業費 186,071 千円)
平成 24 年 12 月 26 日	平成 7 年度配備の火災調査車を廃車し、防火広報兼火災調査車に更新整備する。 (再編交付金事業 整備費 4,220 千円)
平成 25 年 3 月 6 日	後方支援車を消防署に配備する。(総務省消防庁貸与)
平成 25 年 3 月 22 日	平成元年度配備の湖北分団車を更新整備する。(再編交付金事業 整備費 10,070 千円)
平成 25 年 3 月 28 日	山中第 3 分団に人員兼資機材搬送車を整備する。(過疎対策事業債 整備費 4,148 千円) 作見分団格納庫を更新整備する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金 事業費 12,305 千円)
平成 25 年 4 月 1 日	消防団再編計画に基づき、山中第 3、山中第 4 分団が統合し、山中第 3 分団となる。 山中第 5 分団を山中第 4 分団に改名する。 消防職員 5 名を採用する。(実員 113 名)
平成 25 年 5 月 17 日	山中第 3 分団格納庫(統合)を整備する。山中温泉宮の杜 1 丁目 5 (過疎対策事業債 事業費 37,236 千円)
平成 25 年 11 月 3 日	元加賀市消防署片山津分署長 田中 利秋氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 26 年 2 月 18 日	平成 10 年度配備の高規格救急車を更新整備し、山中分署に配備する。 (過疎対策事業債 整備費 27,510 千円)
平成 26 年 2 月 20 日	片山津分団に人員兼資機材搬送車を整備する。(合併特例債 整備費 3,276 千円)
平成 26 年 2 月 21 日	平成 2 年度配備の水槽付消防ポンプ自動車を更新整備し、大聖寺分署に配備する。 (緊急消防援助隊施設整備費補助事業 整備費 34,755 千円)
平成 26 年 3 月 17 日	平成 11 年度整備の消防緊急通信指令システムを高機能消防指令センターに更新整備する。 (NEC ネットエスアイ 防衛施設周辺消防施設整備事業 事業費 205,485 千円) 消防救急デジタル無線を整備する。 (協和エクシオ 緊急消防援助隊施設整備費補助事業 事業費 282,975 千円)
平成 26 年 3 月 27 日	片山津分団格納庫(統合)を整備する。片山津温泉七 1-32 (再編交付金事業 事業費 26,408 千円)
平成 26 年 4 月 1 日	消防団再編計画に基づき、片山津第 1、片山津第 2 分団が統合し、片山津分団となる。 消防課を消防総務課、予防課消防係を予防課警防係、消防署通信指令室を予防課通信係とする。消防職員 4 名を採用する。(実員 112 名)
平成 26 年 4 月 29 日	加賀市消防団消防副団長 村谷 勇一氏が藍綬褒章を受章する。
平成 26 年 10 月 1 日	消防職員 1 名を採用する。(実員 113 名)
平成 26 年 10 月 15 日	平成 2 年度配備の山中第 1 分団車を更新整備する。(過疎対策事業債 整備費 10,908 千円)
平成 26 年 11 月 3 日	元加賀市消防本部消防課長 宮竹 節氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章をする。
平成 26 年 11 月 17 日	平成 2 年度配備の大聖寺第 3 分団車、平成 4 年配備の庄分団車を更新整備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 10,908 千円×2 台)
平成 26 年 12 月 11 日	30m 級はしご付消防自動車を分解整備(オーバーホール)する。(整備費 36,396 千円)
平成 27 年 2 月 9 日	昭和 58 年度配備の小型動力ポンプ付水槽車を水槽付消防ポンプ自動車に更新整備し、山代分署に配備する。(再編交付金事業 整備費 32,184 千円)
平成 27 年 2 月 24 日	山代第 1 分団に人員兼資機材搬送車を整備する。(緊急防災・減災事業債 整備費 3,482 千円)
平成 27 年 3 月 4 日	平成 3 年度配備の化学消防ポンプ自動車を更新整備し、片山津分署に配備する。 (防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 40,932 千円)
平成 27 年 3 月 31 日	山代第 1 分団格納庫(統合)を整備する。山代温泉桔梗丘 3 丁目 47-2 の一部 (緊急防災・減災事業債 事業費 29,506 千円) 資機材搭載多機能車を消防署に配備する(総務省消防庁貸与)
平成 27 年 4 月 1 日	消防団再編計画に基づき、山代第 1、山代第 2 分団が統合し、山代第 1 分団となる。 山代第 3 分団を山代第 2 分団に改名する。 第五代消防長に西谷 外喜男氏が就任する。 第四代消防団長に日根 悟司氏が就任する。 消防職員 6 名を採用する。(実員 116 名)

年 次	内 容
平成 27 年 5 月 31 日	国道 8 号線拡幅工事に伴い、庄分団格納庫を移転整備する。西島町カ 148 番地
平成 27 年 11 月 11 日	(移転補償費 事業費 16,729 千円)
平成 27 年 11 月 12 日	元消防長 松村 勇一氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。
平成 27 年 12 月 14 日	元加賀市消防団片山津第 1 分団長 竹野 勇氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 28 年 1 月 12 日	平成 3 年度配備の大聖寺第 1 分団車を更新整備する。
平成 28 年 1 月 15 日	(緊急防災・減災事業債 整備費 11,988 千円)
平成 28 年 3 月 11 日	平成 7 年度配備の広報車を日本消防協会寄贈車に更新し、片山津分署に配備する。
平成 28 年 4 月 1 日	平成 3 年度、平成 4 年度配備の広報車 2 台を更新整備し、大聖寺分署、山代分署に配備する。
平成 28 年 5 月 13 日	(再編交付金事業 整備費 2,484 千円×2 台)
平成 28 年 5 月 31 日	平成 7 年度配備の消防ポンプ自動車を更新整備し、消防署に配備する。
平成 28 年 11 月 10 日	(防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 35,316 千円)
平成 29 年 1 月 17 日	湖北分団格納庫を更新整備する。(再編交付金事業 事業費 15,628 千円)
平成 29 年 1 月 26 日	消防職員 5 名を採用する。(実員 116 名)
平成 29 年 2 月 22 日	元加賀市消防団大聖寺第 3 分団長 高澤 邦夫氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 29 年 4 月 1 日	消防団長 日根 悟司氏が石川県消防協会長に就任する。(任期 2 年)
平成 29 年 4 月 29 日	元加賀市消防本部消防司令 坂上 勉氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 29 年 11 月 3 日	昭和 63 年度配備の山中第 4 分団車を更新整備する。
平成 29 年 12 月 3 日	(緊急防災・減災事業債 整備費 11,772 千円)
平成 30 年 2 月 27 日	平成 3 年度配備の山代第 2 分団車を更新整備する。
平成 30 年 3 月 8 日	(緊急防災・減災事業債 整備費 11,750 千円)
平成 30 年 3 月 29 日	平成 9 年度配備の救助工作車を更新整備する。
平成 30 年 4 月 1 日	(防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 88,128 千円)
平成 30 年 11 月 12 日	第六代消防長に山根 真一氏が就任する。
平成 30 年 12 月 14 日	警防課を新設し、予防課警防係を警防課警防係、予防課通信係を警防課通信係とする。
平成 31 年 2 月 26 日	消防職員 5 名を採用する。(実員 115 名)
平成 31 年 3 月 13 日	元加賀市消防団消防副団長 寺尾 一彦氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
平成 31 年 3 月 15 日	元消防長 末 一夫氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。
平成 31 年 4 月 1 日	平成 4 年度配備の南郷分団車を更新整備する。(緊急防災・減災事業債 整備費 11,988 千円)
令和元年 11 月 13 日	平成 7 年度配備の防火広報兼資機材搬送車を更新整備し、消防署に配備する。
令和 2 年 2 月 18 日	(小松飛行場関連再編関連特別事業 整備費 7,873 千円)
令和 2 年 3 月 25 日	平成 12 年度配備の予防査察車を更新整備し、消防本部に配備する。
令和 2 年 3 月 27 日	(特定防衛施設周辺整備調整交付金 整備費 3,164 千円)
	平成 6 年度配備の動橋分団車を更新整備する。
	(特定防衛施設周辺整備調整交付金 整備費 14,472 千円)
	消防職員 3 名を採用する。(実員 114 名)
	元加賀市消防団湖北分団長 宮崎 真弘氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
	平成 7 年度配備の水槽付消防ポンプ自動車を更新整備し、山中分署に配備する。
	(過疎対策事業債 整備費 40,608 千円)
	平成 19 年度配備の高規格救急自動車を更新整備し、大聖寺分署に配備する。
	(防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 31,092 千円)
	平成 5 年度配備の三木分団車を更新整備する。(緊急防災・減災事業債 整備費 13,932 千円)
	片山津分署に耐震補強・改修工事を施す。(合併特例債 事業費 103,151 千円)
	第七代消防長に苗代 修氏が就任する。
	消防職員 3 名を採用する。(実員 113 名)
	消防団長 日根 悟司氏が藍綬褒章を受章する。
	元加賀市消防団橋立分団長 氷見山 敏男氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。
	第 24 回全国女性消防操法大会に加賀市女性消防隊が出場し、第 7 位優良賞を受賞する。
	平成 6 年度配備の東谷口分団車、平成 9 年度配備の山中第 3 分団車更新整備する。
	(緊急防災・減災事業債 整備費 16,170 千円×2 台)
	動橋分団に格納庫を移転整備する。動橋町ワ 36-1
	(緊急防災・減災事業債 事業費 21,945 千円)
	平成 13 年度配備の消防ポンプ自動車を更新整備し、大聖寺分署に配備する。
	(緊急防災・減災事業債 整備費 31,680 千円)

年 次	内 容
令和 2 年 3 月 31 日 令和 2 年 4 月 1 日	三木分団格納庫を更新整備する。(緊急防災・減災事業債 事業費 23,650 千円) 第八代消防長に市村 公一氏が就任する。 消防職員 4 名を採用する。(実員 114 名) 平成 22 年度配備の高規格救急自動車を更新整備し、消防署に配備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 33,374 千円)
令和 2 年 10 月 30 日 令和 3 年 1 月 28 日	平成 9 年度配備の塩屋分団車を更新整備する。(緊急防災・減災事業債 整備費 16,500 千円) 平成 23 年度配備の高規格救急自動車を更新整備し、消防署に配備する。 (防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 32,549 千円)
令和 3 年 2 月 9 日 令和 3 年 3 月 9 日	平成 7 年度配備の勅使分団車を更新整備する。(緊急防災・減災事業債 整備費 16,500 千円) 平成 15 年度配備の予防査察車を更新整備し、消防署に配備する。 (再編交付金事業 整備費 2,860 千円)
令和 3 年 4 月 1 日 令和 3 年 4 月 29 日 令和 3 年 5 月 19 日 令和 3 年 6 月 1 日 令和 3 年 9 月 7 日	消防職員 4 名を採用する。(実員 117 名) 元消防長 山下 秀男氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 30m 級はしご付消防自動車を分解整備(オーバーホール)する。(整備費 34,100 千円) 元山中町消防団山中第 6 分団長 宮本 作多朗氏が高齢者叙勲、瑞宝単光章を受章する。 平成 9 年度配備の山中第 2 分団車を更新整備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 17,600 千円)
令和 3 年 11 月 3 日 令和 4 年 2 月 3 日 令和 4 年 4 月 1 日 令和 4 年 8 月 29 日	元加賀市消防団消防副団長 上野 茂男氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。 平成 12 年度配備の広報車を日本消防協会寄贈車に更新し、山中分署に配備する。 消防職員 2 名を採用する。(実員 117 名) 平成 10 年度配備の作見分団車を更新整備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 17,600 千円)
令和 4 年 11 月 3 日 令和 4 年 12 月 26 日	元加賀市消防団消防副団長 林 外治氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。 平成 15 年度配備の消防ポンプ自動車を更新整備し、片山津分署に配備する。 (防衛施設周辺消防施設整備事業 整備費 38,940 千円)
令和 5 年 2 月 8 日 令和 5 年 4 月 1 日	救助用資機材搭載型消防ポンプ自動車を片山津分団に配備する。(総務省消防庁貸与) 第五代消防団長に木田 充則氏が就任する。 消防職員 2 名を採用する。(実員 119 名)
令和 5 年 4 月 29 日 令和 5 年 11 月 3 日 令和 6 年 3 月 8 日	元予防課長 紺谷 博氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元加賀市消防団消防分団長 松山 昭治氏が春秋叙勲、瑞宝単光章を受章する。 令和 5 年度消防デジタル無線 管理監視制御装置等を更新整備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 14,850 千円)
令和 6 年 2 月 13 日	平成 15 年度配備の消防ポンプ自動車を整備更新し、山代分署に配備する。 (緊急防災・減災事業債 整備費 41,800 千円)
令和 6 年 4 月 1 日	第九代消防長に大和 克幸氏が就任する。 消防職員 1 名を採用する。(実員 117 名)
令和 6 年 4 月 29 日 令和 6 年 10 月 15 日 令和 6 年 11 月 3 日 令和 6 年 12 月 5 日	元消防署長 高野 久一氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 平成 25 年度配備の高規格救急車を塩浜節子氏寄贈車に更新し、山中分署に配備する。 元消防長 西谷 外喜男氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 平成 11 年度配備の山代第 1 分団車を更新整備する。 (総務省消防庁貸与 整備費 29,800 千円)
令和 7 年 2 月 17 日	平成 17 年度配備の消防ポンプ自動車を整備更新し、山中分署に配備する。 (緊急消防援助隊施設整備費補助事業/過疎対策事業債 整備費 42,680 千円)
令和 7 年 4 月 1 日 令和 7 年 4 月 29 日 令和 7 年 11 月 3 日 令和 7 年 10 月 1 日	消防職員 5 名を採用する。(実員 121 名) 元消防次長 西出 透氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 元消防署長 前田 祐司氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝双光章を受章する。 平成 26 年度整備の消防緊急通信指令システムを高機能消防指令システムに更新整備する。 (NEC ネットエスアイ 防衛施設周辺消防施設整備事業 事業費 351,461 千円)
令和 8 年 4 月 1 日	消防団再編計画に基づき、山中第 2、山中第 4 分団が再編し、山中第 2 分団に改名するとともに新たに部制の導入に伴い、山中温泉部及び東谷部を新設する。

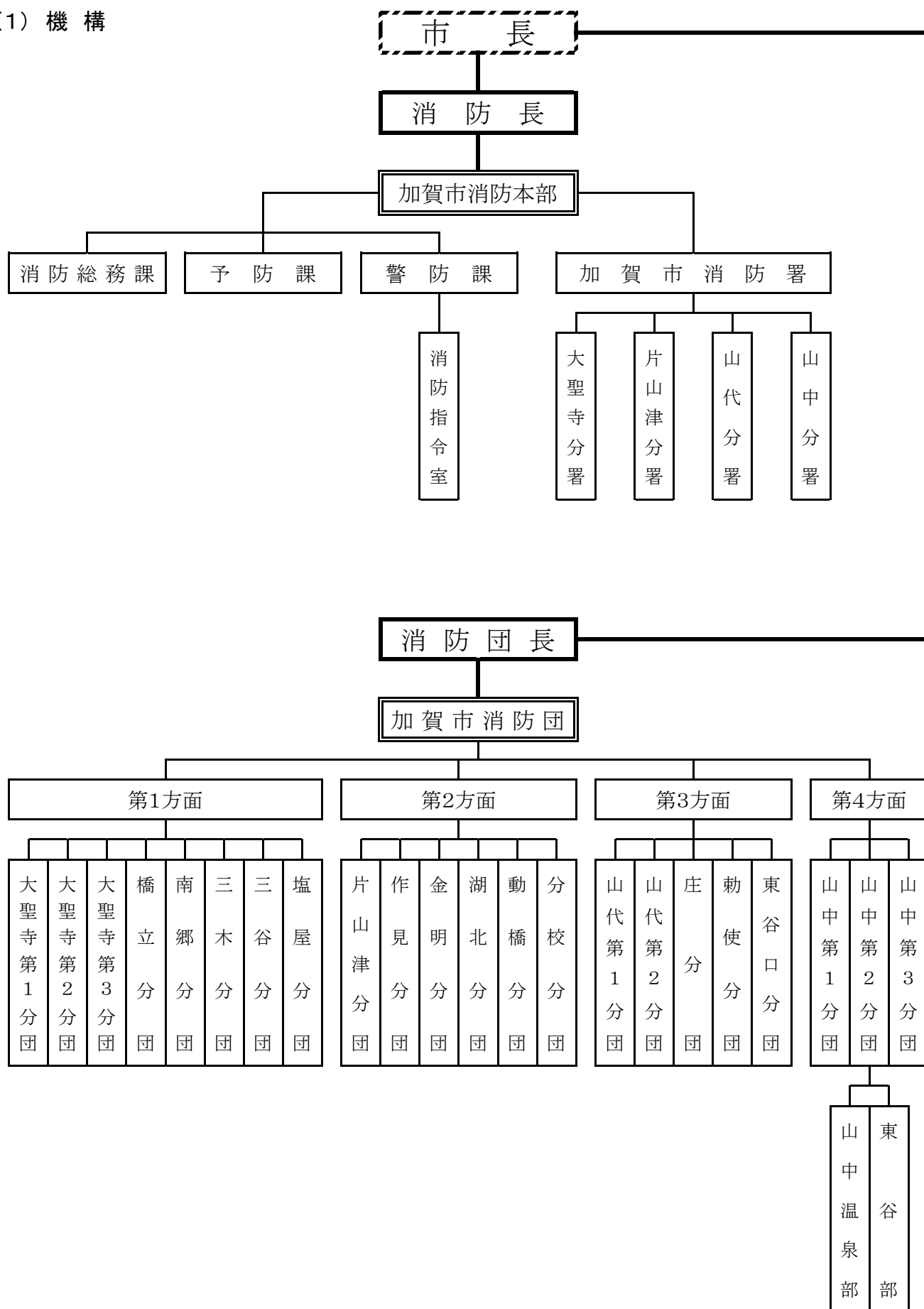
I 総務



消防本部庁舎

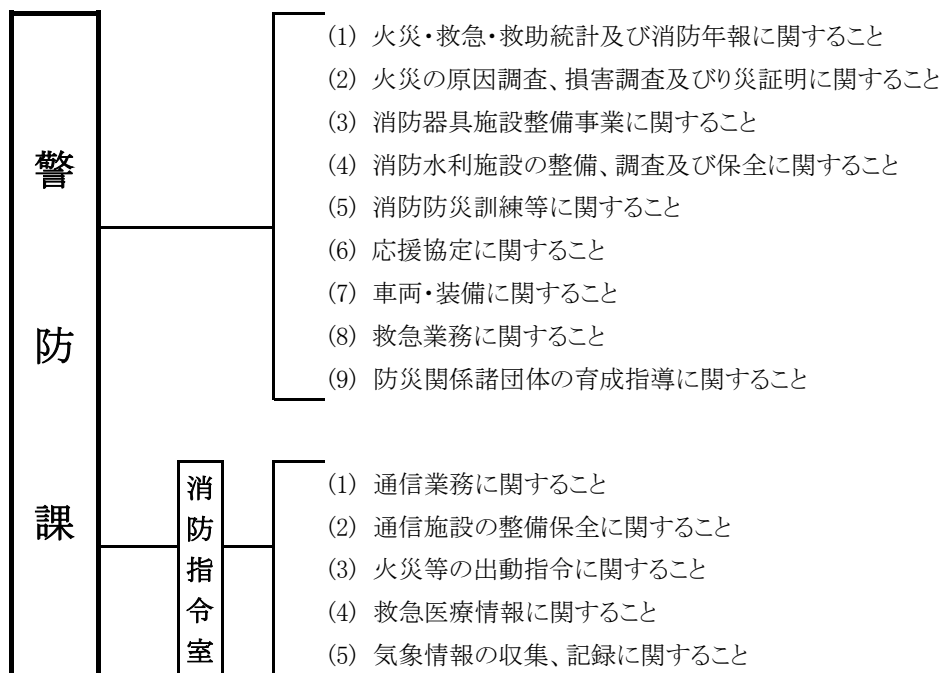
1 消防組織

(1) 機構

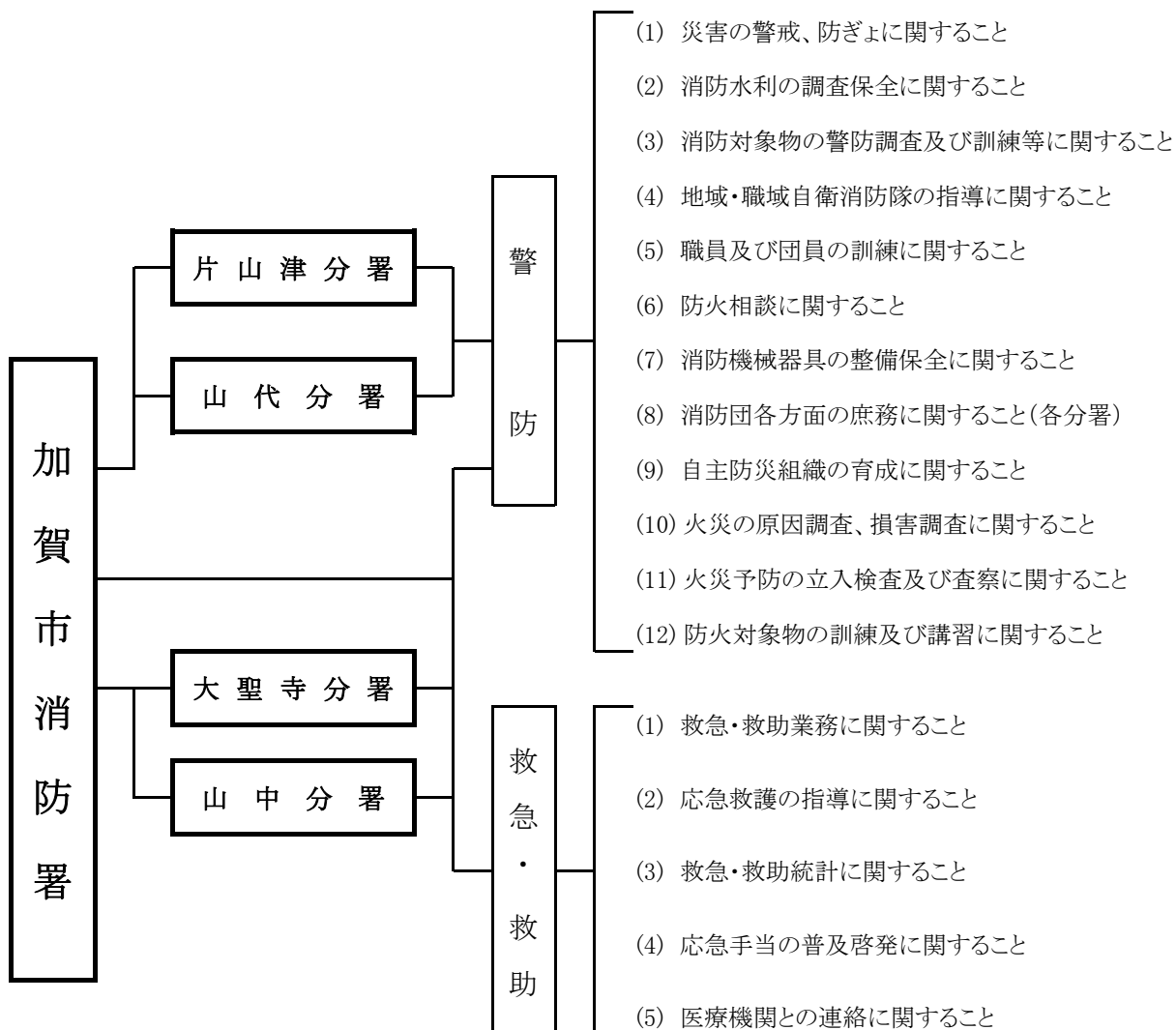


(2) 消防本部事務分掌

消 防 総 務 課	(1) 公印の管守に関する事 (2) 例規に関する事 (3) 職員の人事、給与、勤務時間その他勤務条件に関する事 (4) 職員の任免、分限、懲戒、身分及び表彰等に関する事 (5) 職員の福利厚生及び保健衛生に関する事 (6) 消防職員委員会に関する事 (7) 職員及び団員の公務災害に関する事 (8) 予算に関する事 (9) 消防財産の管理に関する事 (10) 消防力整備計画策定に関する事 (11) 文書の収受、発送に関する事 (12) 消防用機械器具の整備保全に関する事 (13) 職員及び団員の教養研修に関する事 (14) 消防団に関する事
予 防 課	(1) 火災予防に関する事 (2) 火災予防の立入検査及び査察に関する事 (3) 防火管理者に関する事 (4) 防火に関する指導、相談及び諸届出に関する事 (5) 防火関係諸団体に関する事 (6) 建築物の確認同意事務に関する事 (7) 消防用設備等の設置指導及び検査に関する事 (8) 防火対象物の訓練及び講習に関する事 (9) 危険物の規制取締及び指導に関する事 (10) 危険物施設に係る許認可及び検査等に関する事 (11) 危険物施設の管理者等の指導に関する事 (12) 危険物災害の調査に関する事 (13) 煙火の消費に関する事 (14) 液化石油ガス取締りに関する事 (15) 電気用品販売事業者に係る立入検査及び報告の徴収に関する事



(3) 消防署事務分掌



2 職 員

(1) 職員配置状況

令和8年4月1日現在

階 級 所 属		消 防 監	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	合 計
消 防 長		1							1
消 防 総 務 課			1	2	1	1			5
(県 航 空 消 防 防 災 室 派 遣)									0
(県 消 防 学 校 派 遣)						1			1
予 防 課			1	3	1	2			7
警 防 課			1	3					4
(消 防 指 令 室)				5	2	2	2		11
消 防 署	消 防 署		1	8	4	10	3	7	33
	大 聖 寺 分 署			5	1	6	3	2	17
	片 山 津 分 署			5	2	2		2	11
	山 代 分 署			5		4		2	11
	山 中 分 署			6	3	2	2	4	17
合 計		1	4	42	14	30	10	17	118

(2) 勤続年数状況

令和8年4月1日現在

勤 続 年 数	階 級	消 防 監	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	合 計
5 年 未 満							1	9	10
5年以上 ～ 10年未満						3	7	8	18
10年以上 ～ 15年未満						15	2		17
15年以上 ～ 20年未満					3	11			14
20年以上 ～ 25年未満					5	1			6
25年以上 ～ 30年未満				7	5				12
30 年 以 上		1	4	35	1				41
合 計		1	4	42	14	30	10	17	118

(3) 年齢別職員数

令和8年4月1日現在

階 級 年 齢 区 分		消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
18 歳	～ 20 歳							3	3
21 歳	～ 25 歳							15	15
26 歳	～ 30 歳					7	10	3	20
31 歳	～ 35 歳					10			10
36 歳	～ 40 歳					12			12
41 歳	～ 45 歳				9				9
46 歳	～ 50 歳			17	2				19
51 歳	～ 55 歳		1	18	1				20
56 歳	～ 60 歳	1	3	6					10
61 歳 以上				3					3
合 計		1	4	42	14	30	10	17	118
平 均 年 齢		58.0	56.5	53.1	45.0	34.3	27.3	23.2	40.3

(4) 教育・訓練等派遣状況

令和7年4月1日～令和8年3月31日

階 級 研 修 等 種 別		消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
消 防 学 校	初 任 教 育							5	5
	初 級 幹 部 科					2			2
	火 災 調 査 科				1	1			2
	警 防 科					2			2
	救 急 科							2	2
	指 導 救 命 士 養 成 講 習								
	救 命 士 生 涯 教 育 講 習						1		1
	兼 任 救 急 隊 員 教 育 講 習					2			2
消 防 大 学									
東 近 畿 支 部	予 防 業 務 研 究 会			1					1
	違 反 是 正 発 表 会					1			1
	火 災 科 学 研 修 会			1					1
	救 急 業 務 研 究 会								
	救助技術指導会審査員等研修会								
そ の 他	救 助 技 術 指 導 会					3	1		4
	小型移動式クレーン運転技能講習会					1	1		2
	玉 掛 技 能 講 習 会					1	1		2
	大 型 自 動 車 免 許						2	1	3
	大型車両系建設機械資格講習					1			1
	小型車両系建設機械資格講習						1	1	2
	小 型 船 舶 免 許 講 習					1			1
	テールゲートリフターによる荷役作業特別教育						1		1
	潜 水 技 能 認 定 講 習					1		1	2
合 計	山 岳 遭 難 救 助 研 修					1			1
				2	1	17	8	10	38

(5) 免許資格等取得状況

令和8年4月1日現在

区分または種別		消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
救命士	救急救命士	1		11	4	8	4	4	32
	気管挿管資格認定			4	2	6			12
	薬剤投与資格認定			5	3	8	2	2	20
	二処置(心肺停止前輸液・ブドウ糖投与)資格認定			5	3	8	2	2	20
救急Ⅱ・標準課程(救命士除く)			4	33	8	19	8	11	83
運転免許	普通自動車免許	1	4	44	12	29	11	20	121
	中型自動車免許	1	4	44	12	29	10	7	107
	大型自動車免許	1	3	43	12	29	10	1	99
	大型特殊		2	12	1	3			18
車両系建設機械(小型含む)		1	2	23	5	21	3		55
第1級陸上特殊無線技士				1		1			2
第2級陸上特殊無線技士		1	4	43	12	28	11	14	113
消防設備士	消防設備士甲1			1					1
	消防設備士甲2								0
	消防設備士甲3								0
	消防設備士甲4			1	1				2
	消防設備士甲5				1				1
	消防設備士乙1				1				1
	消防設備士乙4				3				3
	消防設備士乙5				1				1
	消防設備士乙6	1	2	15	8	10	8	6	50
	消防設備士乙7								0
危険物	甲種危険物取扱者				1				1
	乙種危険物取扱者		3	27	11	19	7	10	77
	丙種危険物取扱者	1	2	12	1				16
予防技術検定	防火査察資格者	1		9	4	14	1	5	34
	消防用設備等資格者	1	1	5	2	6			15
	危険物資格者			7	2	5			14
小型船舶操縦				19	3	6			28
ガス溶接技能講習		1	4	30	5	12	1		53
酸素欠乏・硫化水素危険作業		1	2	31	8	3			45
小型移動式クレーン資格		1	4	29	4	14			52
玉掛技能資格		1	4	25	4	14			48
スキューバダイビングライセンス(1・2・3級ダイバー)			2	19	6	15	7	3	52
潜水士(労働安全衛生法による免許証)			2	21	8	16	8	6	61

3 予 算

(1) 令和8年度消防費当初予算比較表

歳 入

(単位:千円)

科 目	当初予算額	前年度予算額	比 較
負 担 金	0	0	0
使 用 料	37	37	0
手 数 料	655	655	0
国 庫 支 出 金	0	113,067	-113,067
県 支 出 金	8,376	26,905	-18,529
雑 入	22,698	22,131	567
消 防 債	83,700	225,800	-142,100
計	115,466	388,595	-273,129

歳 出

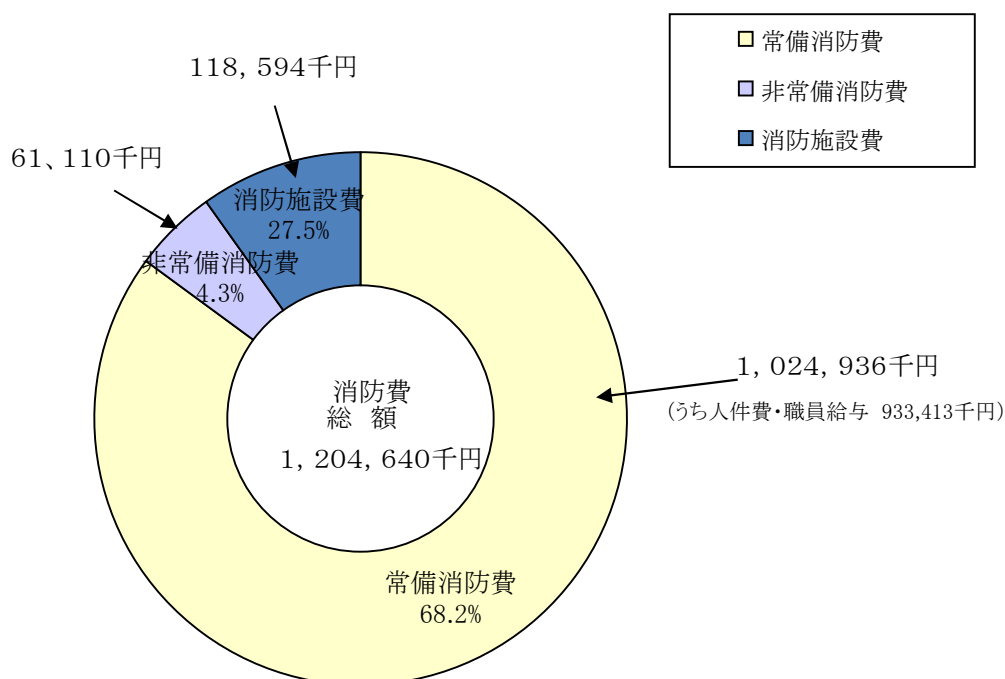
科 目		当初予算額	前年度予算額	比 較
常 				

(単位:千円)

科 目		当初予算額	前年度予算額	比 較
非 常 備 消 防 費	報 酬	35,476	35,380	96
	災 害 補 償 費	1,200	1,200	0
	報 償 費	10,030	9,540	490
	旅 費	0	0	0
	交 際 費	18	18	0
	需 用 費	1,434	3,127	-1,693
	役 務 費	0	0	0
	使 用 料 及 び 賃 借 料	0	0	0
	備 品 購 入 費	1,200	0	1,200
	負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	11,752	11,736	16
	公 課 費	0	0	0
	計	61,110	61,001	109
消 防 施 設 費	旅 費	1,800	159	1,641
	需 用 費	6,943	6,605	338
	役 務 費	588	560	28
	委 託 費	19,643	15,568	4,075
	使 用 料 及 び 賃 借 料	0	0	0
	工 事 請 負 費	67,300	21,900	45,400
	原 材 料 費	0	0	0
	公 有 財 産 購 入 費	0	0	0
	備 品 購 入 費	0	319,791	-319,791
	負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	21,753	24,354	-2,601
	公 課 費	567	416	151
	計	118,594	389,353	-270,759
消 防 費 合 計		1,204,640	1,415,190	-210,550

※水防費、災害対策費を除く。

(2) 令和8年度消防費当初予算額



(3) 消防費の市民負担状況

年 度	決算額(千円)	一世帯当り(円)	一人当たり(円)
令 和 4 年	1,075,227	37,410	16,845
令 和 5 年	1,104,526	38,248	17,501
令 和 6 年	1,353,315	46,830	21,768
令 和 7 年	1,468,143	50,975	23,958
令 和 8 年	1,204,640	41,683	19,899

※ 令和8年度は当初予算額

(4) 一般会計と消防費の比較

(単位:千円)

区 分 年 度 別	一 般 会 計		消 防 費		一般会計決算 に対する割合 (%)
	当初予算額	決算額	当初予算額	決算額	
令 和 4 年	34,624,000	35,987,441	1,084,445	1,075,227	3.0
令 和 5 年	33,986,000	36,657,428	1,101,985	1,104,526	3.0
令 和 6 年	34,281,000	38,430,248	1,155,717	1,353,315	3.5
令 和 7 年	41,727,000	41,783,459	1,425,590	1,468,143	3.5
令 和 8 年	36,705,000		1,204,640		

※水防費、災害対策費は除く

4 消防力

(1) 装備の配置

令和8年4月1日現在

所 属	車 両 名	基 準 数	現 有 数						不 足 数	充 足 率 (%)
			市 街 地				準 合 計			
			大 聖 寺 地 区	片 山 津 地 区	山 代 地 区	山 中 地 区				
消 防 署	消 防 ポ ン プ 車	8	1	2	1	1		5		100
	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 車		1		1	1		3		
	は し ご 自 動 車	1		1				1		100
	化 学 消 防 ポ ン プ 車	1		1				1		100
	小 型 ポ ン プ 付 水 槽 車			1				1		
	救 助 工 作 車	1		1				1		100
	指 揮 車	1		1				1		100
	救 急 車	4	1	2		1		4		100
消 防 団	消 防 ポ ン プ 車	23	3	3	2	4	11	23		100
	小 型 動 力 ポ ン プ	28	1	2	2	1	22	28	28	

(2) 単位比較表

令和8年4月1日現在

消 防 職 員	職 員 一 人 当 た り に 対 す る		
	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯 (世帯)
118人	2.59	513.03	244.92

消 防 団 員	団 員 一 人 当 た り に 対 す る		
	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯 (世帯)
371人	0.82	163.18	77.90

常備消防ポンプ自動車	消 防 車 一 台 当 た り に 対 す る		
	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯 (世帯)
8台	38.23	7,567.25	3,612.50

非常備消防ポンプ自動車	消 防 車 一 台 当 た り に 対 す る		
	面 積 (km)	人 口 (人)	世 帯 (世帯)
23台	13.3	2,632.09	1,256.52

(3) 消防応援協定等締結状況

No	協定名	協定先	協定年月日	協定内容	常 備 非常備	備考
1	石川県消防広域応援協定	県内各市町	平成3年8月1日	全災害	常 備	文書
2	消防相互応援協定	小松市	平成17年11月1日	全災害	常 備 非常備	文書
3	高速自動車国道北陸自動車道 における消防及び救急業務応 援協定	金沢市・白山野々市 広域事務組合・能美 市・小松市	平成17年2月1日	火 災 救 急 救 助	常 備	文書
4	消防相互応援協定	嶺北消防組合	平成17年11月1日	全災害	常 備 非常備	文書
5	高速自動車国道北陸自動車道 における消防相互応援協定	嶺北消防組合	平成18年3月20日	火 災 救 急 救 助	常 備	文書
6	石川県消防防災ヘリコプター 支援協定	県内各市町	平成26年4月1日	全災害	常 備 非常備	文書
7	加賀市消防本部と山中山岳会 における応援協定	山中山岳会	平成17年11月1日	全災害	常 備 非常備	文書
8	ガス漏れ及び爆発事故等の防 災対策に関する申し合わせ	石川県LPガス協会 加南支部	平成17年11月1日	その他	常 備	文書
9	加賀市消防本部と加賀山岳会 における応援協定	加賀山岳会	平成21年7月31日	全災害	常 備 非常備	文書

Ⅱ 消 防

1 予 防



令和7年度 防火防災図画・ポスター優秀作品

1 予 防

(1) 火災予防査察及び消防用設備等設置検査月別実施状況

令和7年4月1日～令和8年3月31日

防 火 対 象 物 の 別			月 総数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
1	イ	劇場・演芸場又は観覧場	3													
	ロ	公会堂又は集会場	143	2						1	1					4
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ														
	ロ	遊技場又はダンスホール	5	1			1									2
	ハ	性風俗関連特殊営業を含む店舗														
	ニ	カラオケボックス等個室店舗	1													
3	イ	待 合 ・ 料 理 店														
	ロ	飲 食 店	60				1	1	2							4
4		百貨店・店舗又は展示場	109			1		6	4	1	1					13
5	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	102	2	1	3	3	2	3	40	20	4	34	2	15	129
	ロ	寄 宿 舎 ・ 共 同 住 宅	521	1		1		5	17	9	5			3	4	45
6	イ	(1) 特定診療科名を有する病院等	4						1	1		1				3
		(2) 特定診療科名を有する有床診療所等	3							1						1
		(3) (1)、(2)以外の病院及び有床診療所等	7													
		(4) 無床診療所又は無床助産所	24	1				1				1		1		4
	ロ	(1) 老人入所施設・養護老人ホーム等	34	4		1		1	4	1	2				1	14
		(2) 救 護 施 設														
		(3) 乳 児 院														
		(4) 障 害 児 入 所 施 設														
		(5) 障 害 者 支 援 施 設	4	1			1									2
	ハ	(1) 老 人 通 所 施 設 等	17	5				1	2							8
		(2) 更 生 施 設														
		(3) 助 産 施 設 ・ 保 育 所 等	26													
		(4) 児 童 発 達 支 援 セ ン タ ー 等														
		(5) 身体障害者福祉センター等	19		1			1								2
	ニ	幼稚園・特別支援学校	3													
7		小・中・高等学校・他学校	44										1			1
8		図書館・博物館・美術館	11				3		1		1	1	3		1	10
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場	7										3		1	4
	ロ	イ以外の公衆浴場	5										1			1
10		車両の停車場	3													
11		神社・寺院・教会	57						1				2		1	4
12	イ	工場又は作業場	622	5	7	4	4	4	2	23	2	11	23	24	27	136
	ロ	映画スタジオ														
13	イ	自動車車庫又は駐車場	22								1			2	1	4
	ロ	回転翼航空機の格納庫														
14		倉 庫	325	2		1	2	4	1	6		17		6	13	52
15		前各項に該当しない事業所	323	2	1	2	3	10	7	9	4	26	13	3	11	91
16	イ	特定複合用途防火対象物	373	1	1	2	1	6	11	10	1	1	5	4	2	45
	ロ	イ以外の複合防火対象物	318	1	2		2	10	17	5	5	4	12	9	5	72
17		重 要 文 化 財	14										8			8
合 計			3,209	28	13	15	21	52	73	107	43	66	105	54	82	659

(2) 防火管理者を必要とする防火対象物

令和8年4月1日現在

防火対象物の別			地 区 別					大聖寺地区	片山津地区	山代地区	山中地区	合 計
1	イ	劇 場 ・ 演 芸 場 又 は 観 覧 場								1		1
	ロ	公 会 堂 又 は 集 会 場		70	45	41	18					174
2	イ	キ ャ バ レ ー ・ ナ イ ト ク ラ ブ										
	ロ	遊 技 場 又 は ダ ン ス ホ ー ル		3	1	1						5
	ハ	性 風 俗 関 連 特 殊 営 業 を 含 む 店 舗										
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 店 舗					1					1
3	イ	待 合 ・ 料 理 店										
	ロ	飲 食 店		13	20	17	5					55
4		百 貨 店 ・ 店 舗 又 は 展 示 場		19	22	19	7					67
5	イ	旅 館 ・ ホ テ ル 又 は 宿 泊 所		2	16	21	19					58
	ロ	寄 宿 舎 ・ 共 同 住 宅		4	5	6	2					17
6	イ	(1)	特 定 診 療 科 名 を 有 す る 病 院 等		1	1						2
		(2)	特 定 診 療 科 名 を 有 す る 有 床 診 療 所 等					1	1			2
		(3)	(1)、(2) 以 外 の 病 院 及 び 有 床 診 療 所 等									0
		(4)	無 床 診 療 所 又 は 無 床 助 産 所		2	2	1					5
	ロ	(1)	老 人 入 所 施 設 ・ 養 護 老 人 ホ ー ム 等		10	9	5	3				27
		(2)	救 護 施 設									
		(3)	乳 児 院									
		(4)	障 害 児 入 所 施 設									
		(5)	障 害 者 支 援 施 設					1				1
	ハ	(1)	老 人 通 所 施 設 等		2	5		1				8
		(2)	更 生 施 設									
		(3)	助 産 施 設 ・ 保 育 所 等		6	4	4	3				17
		(4)	児 童 発 達 支 援 セ ン タ ー 等									
		(5)	身 体 障 害 者 福 祉 セ ン タ ー 等		4	1	1					6
	ニ		幼 稚 園 ・ 特 別 支 援 学 校		2							2
7		小 ・ 中 ・ 高 等 学 校 ・ 他 学 校		8	9	5	3				25	
8		図 書 館 ・ 博 物 館 ・ 美 術 館		2	1	1	2				6	
9	イ	蒸 気 浴 場 ・ 熱 気 浴 場			4		2				6	
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			1	2	1				4	
10		車 両 の 停 車 場			1							
11		神 社 ・ 寺 院 ・ 教 会		7	7	5	4				23	
12	イ	工 場 又 は 作 業 場		4	8	2					14	
	ロ	映 画 ス タ ジ オ										
13	イ	自 動 車 車 庫 又 は 駐 車 場										
	ロ	回 転 翼 航 空 機 の 格 納 庫										
14		倉 庫										
15		前 各 項 に 該 当 し な い 事 業 所		24	4	7	5				40	
16	イ	特 定 複 合 用 途 防 火 対 象 物		33	46	37	19				135	
	ロ	イ 以 外 の 複 合 防 火 対 象 物		22	12	7	4				45	
17		重 要 文 化 財		2		1					3	
合 計					240	224	187	99			750	

(3) 月別消防用設備等着工届出状況

令和7年4月1日～令和8年3月31日

月 別 設 備 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
屋 内 消 火 栓 設 備			1						1				2
ス プ リ ン ク ラ ー 設 備		1		3	2						1	1	8
特 殊 消 火 設 備													
屋 外 消 火 栓 設 備													
自 動 火 災 報 知 設 備	1		2	3	3	8	1	2	4	4	2	1	31
火 災 通 報 装 置		1	1		1	1	2	2	2		3		13
避 難 器 具													
必要とされる防火安全 性能を有する設備等			1								1		2
特 殊 消 防 用 設 備 等													
合 計	1	2	5	6	6	9	3	4	7	4	7	2	56

(4) 月別消防用設備等設置届出状況

令和7年4月1日～令和8年3月31日

月 別 設 備 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
消 火 器	3			5	1	2	4	3	5	1	1	5	30
屋 内 消 火 栓 設 備				2	1					1		1	5
ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	1				4		2					2	9
特 殊 消 火 設 備													
屋 外 消 火 栓 設 備													
自 動 火 災 報 知 設 備	7	1		3	6	5	7	5	5	6	2	7	54
火 災 通 報 装 置				1		1	3	2	1	1		3	12
漏 電 火 災 警 報 器													
非 常 警 報 設 備		1		1			1		4		3	3	13
避 難 器 具													
誘 導 灯 ・ 誘 導 標 識	1			1	3	1	3	2	2	3	1	3	20
消 防 用 水													
連 結 送 水 管													
動 力 消 防 ポ ン プ 設 備	1			1					1		1		4
必要とされる防火安全 性能を有する設備等				1								1	2
特 殊 消 防 用 設 備 等													
合 計	13	2		15	15	9	20	12	18	12	8	25	149

(5) 中高層建築物実態

令和8年4月1日現在

[illegible]

(6) 建築同意事務処理件数

ア 用途別

令和7年4月1日～令和8年3月31日

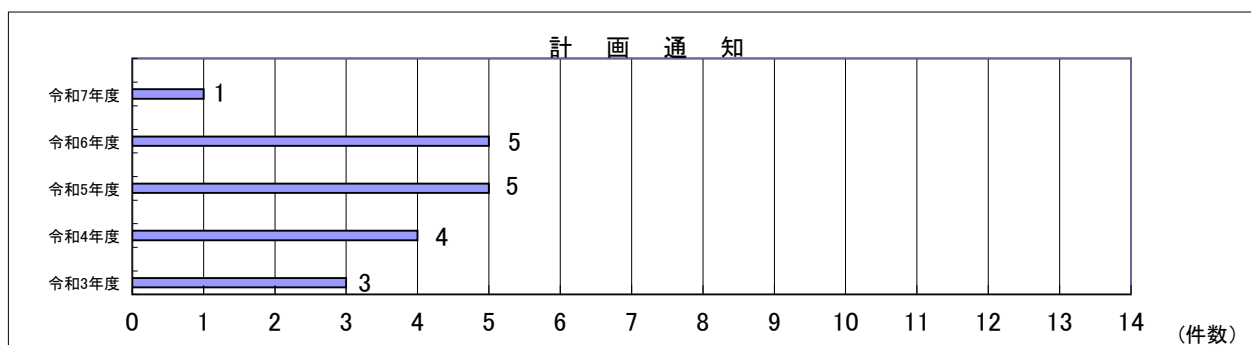
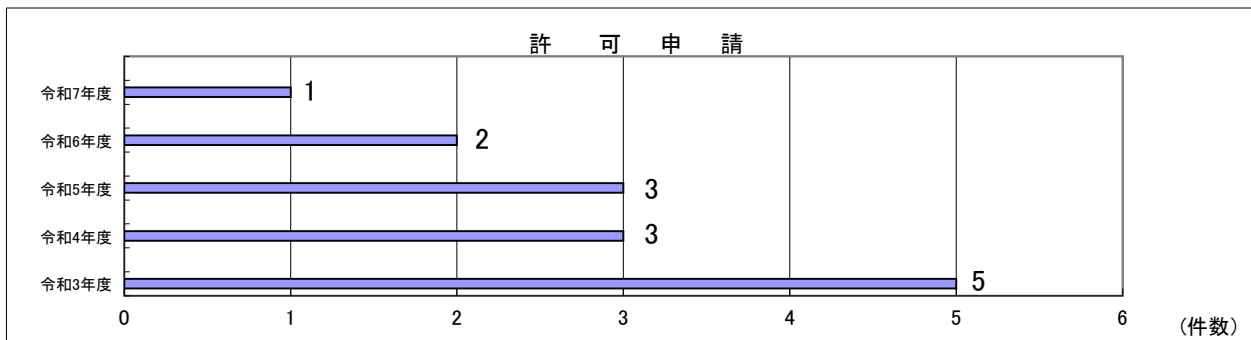
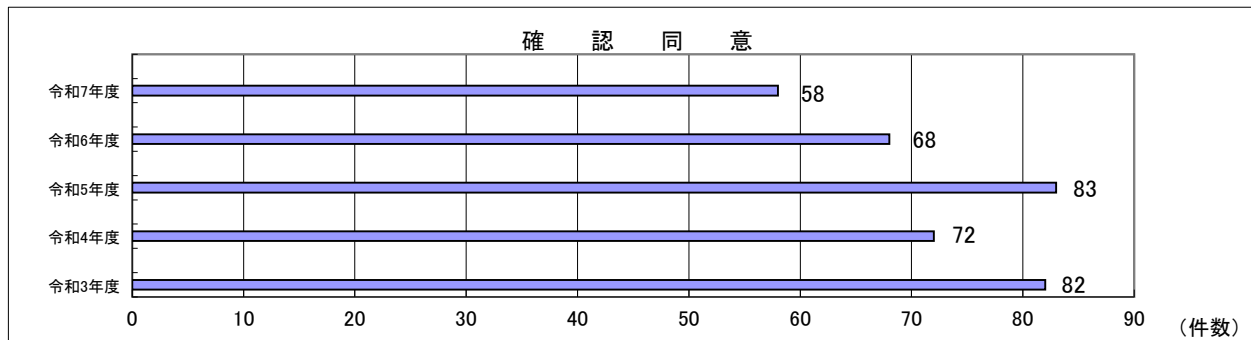
月 別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
防火対象物の別			月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
1	イ	劇場・演芸場又は観覧場													
	ロ	公会堂又は集会場													
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ													
	ロ	遊技場又はダンスホール													
	ハ	性風俗関連特殊営業を含む店舗													
	ニ	カラオケボックス等個室店舗													
3	イ	待合・料理店													
	ロ	飲食店													
4		百貨店・店舗又は展示場				1						1			2
5	イ	旅館・ホテル又は宿泊所			1										1
	ロ	寄宿舎・共同住宅					1			1					2
6	イ	(1) 特定診療科名を有する病院等													
		(2) 特定診療科名を有する有床診療所等													
		(3) (1)、(2)以外の病院及び有床診療所等													
		(4) 無床診療所又は無床助産所													
	ロ	(1) 老人入所施設・養護老人ホーム等													
		(2) 救護施設													
		(3) 乳児院													
		(4) 障害児入所施設													
		(5) 障害者支援施設													
	ハ	(1) 老人通所施設等													
		(2) 更生施設													
		(3) 助産施設・保育所等													
		(4) 児童発達支援センター等													
		(5) 身体障害者福祉センター等	1				1								2
	ニ	幼稚園・特別支援学校													
7		小・中・高等学校・他学校													
8		図書館・博物館・美術館													
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場						2							2
	ロ	イ以外の公衆浴場													
10		車両の停車場													
11		神社・寺院・教会													
12	イ	工場又は作業場	3	1	2	1			2		1		2		12
	ロ	映画スタジオ													
13	イ	自動車車庫又は駐車場													
	ロ	回転翼航空機の格納庫													
14		倉庫		1				1			1	2			5
15		前各項に該当しない事業所		2	3				1	2	1				9
16	イ	特定複合用途防火対象物													
	ロ	イ以外の複合防火対象物					1	1		2			1		5
17		重要文化財													
住 宅					1						2	1		1	5
そ の 他				4	4			1	1	1	1	1			13
合 計			4	8	11	2	3	5	4	6	6	5	3	1	58

イ 工事別

令和7年4月1日～令和8年3月31日

工事別 \ 月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
新 築	3	8	10	2	3	5	2	6	6	5	3	1	54
増 築	1		1				1						3
改 築							1						1
移 転													
用 途 変 更													
大 規 模 改 修													
合 計	4	8	11	2	3	5	4	6	6	5	3	1	58

(7) 過去5年間の建築確認同意等事務処理件数



(8) 危険物倍数別、類別状況(完成検査済証交付施設)

令和8年4月1日現在

製造所等の別 区分		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
合 計		347	1	28	34	13	137		36	2	46		2	48
倍 数 別	5 倍 以 下	166		15	9	11	75		31		6			19
	5 倍 を 超 え 1 0 倍 以 下	83		9	7	2	42			2	5			16
	1 0 倍 を 超 え 5 0 倍 以 下	62		2	17		17		1		10		2	13
	5 0 倍 を 超 え 1 0 0 倍 以 下	9	1	1	1		2				4			
	1 0 0 倍 を 超 え 1 5 0 倍 以 下	9		1					4		4			
	1 5 0 倍 を 超 え 2 0 0 倍 以 下	6									6			
	2 0 0 倍 を 超 え 1 , 0 0 0 倍 以 下	12					1				11			
類 別	第 1 類													
	第 2 類	1		1										
	第 3 類													
	第 4 類	345	1	26	34	13	137		36	2	46		2	48
	第 5 類													
	第 6 類													
	混 在	1		1										

(9) 危険物事務処理件数

令和7年4月1日～令和8年3月31日

製造所等の別 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
設 置 許 可	5		3	2									
変 更 許 可	11	1								8			2
他許可行政庁に転出(常置場所変更)													
他許可行政庁から転入(常置場所変更許可)													
設 置 完 成 検 査	4		2	2									
変 更 完 成 検 査	13	1	2							8			2
他許可行政庁から転入(完成)													
仮 使 用 承 認	8									7			1
廃 止 届	4			2		1							1
再 交 付 申 請													
品名数量倍数の変更届	3					1							2
譲 渡 引 渡 届													

(10) 消防本部への5か年度の諸届出件数

届 出 区 分	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
防 火 対 象 物 使 用 開 始 届	59	63	62	49	33
消 防 用 設 備 等 着 工 届	56	81	61	80	46
消 防 用 設 備 等 設 置 届	149	220	235	184	142
ボ イ ラ ー 等 設 置 届	21	9	10	7	14
発 電 設 備 設 置 届	4	6	4	4	2
変 電 設 備 設 置 届	15	9	13	25	11
蓄 電 池 設 備 設 置 届	3	2	2	7	7
気 球 設 置 届					
火 薬 類 煙 火 消 費 許 可 申 請	2	2	3	2	1
火 災 と 紛 ら わ し い 煙 等 の 行 為 届	190	158	160	146	161
煙 火 打 ち 上 げ 届	5	3	15	16	2
催 物 開 催 届					
露 店 等 の 開 設 届 出 書	41	11	5	24	8
少量危険物・指定可燃物貯蔵取扱届	45	24	39	31	17
圧縮アセチレンガス等の貯蔵届	18	13	28	14	23
防火管理者選任解任届出書	146	162	150	178	167
消防計画作成変更届出書	170	171	172	224	159
喫 煙 等 承 認 申 請 書					
消 防 訓 練 実 施 結 果 報 告 書	652	603	533	543	510
防火安全性に関する意見書交付申請					
消 防 用 設 備 等 点 検 結 果 報 告 書	1,346	1,273	1,311	1,137	1,079
合 計	2,922	2,810	2,803	2,671	2,382

(11) 女性防火クラブの現況

ア クラブの現況

令和8年4月1日現在

番号	ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月	クラブ員数
1	高 塚 町 女性防火クラブ	昭和59年11月	2名
2	分 校 町 女性防火クラブ	昭和59年12月	6名
3	箱 宮 町 女性防火クラブ	昭和59年12月	2名
4	上 河 崎 町 女性防火クラブ	昭和60年 3月	5名
5	打 越 町 女性防火クラブ	昭和61年 5月	6名
6	三 谷 地 区 女性防火クラブ	昭和61年11月	12名
7	大聖寺婦人会 女性防火クラブ	平成 元年 6月	7名
8	黒 瀬 町 女性防火クラブ	平成 2年11月	4名
9	田 尻 町 女性防火クラブ	平成10年 6月	15名
10	作 見 地 区 女性防火クラブ	平成14年10月	9名
合 計		10 ク ラ ブ	68名

イ 年間行事

三谷地区消火栓放水競技大会参加	5月
市内小型動力ポンプ放水競技大会出席・参加	7月
大聖寺地区消火栓放水競技大会参加	9月
秋期研修会開催	9月
市内こども園、保育園防火教育指導巡回	11月
火災予防運動期間中における街頭広報	11月
加賀市消防出初式出席・参加	1月
文化財防火デー火災防ぎょ訓練参加	1月

ウ 主な表彰等

石川県少年婦人防火委員会会長表彰（加賀市婦人防火クラブ）	昭和57年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（市村役員）	昭和58年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（四十九院町婦人防火クラブ）	昭和59年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（久藤会長、篠原町婦人防火クラブ）	昭和61年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（藪内副会長、庄町婦人防火クラブ）	昭和62年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（上河崎町婦人防火クラブ）	平成元年11月
自治大臣表彰（久藤会長）	平成2年8月
日本防火協会理事長表彰（加賀市婦人防火クラブ連絡協議会）	平成2年8月
石川県知事表彰（加賀市婦人防火クラブ連絡協議会）	平成2年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（三谷地区婦人防火クラブ）	平成2年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（分校町婦人防火クラブ）	平成3年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（伊切町婦人防火クラブ）	平成4年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（大聖寺永町婦人防火クラブ）	平成5年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（山代温泉19区婦人防火クラブ）	平成6年11月
石川県知事表彰（伊切町婦人消防隊）	平成7年11月
日本消防協会会長表彰（伊切町婦人消防隊）	平成9年2月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（丸山町婦人防火クラブ）	平成9年11月
自治体消防50周年記念表彰（伊切町婦人防火クラブ）	平成10年5月
石川県知事表彰（四十九院町婦人防火クラブ）	平成10年5月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（黒瀬町婦人防火クラブ）	平成10年11月
日本防火協会会長特別表彰（加賀市婦人防火クラブ）	平成10年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（高塚町婦人防火クラブ）	平成11年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（加美谷台婦人防火クラブ）	平成11年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（東出副会長、分校町婦人防火クラブ）	平成12年12月
日本防火協会特別表彰（藪内副会長、妙蓮会婦人防火クラブ）	平成12年12月
石川県知事表彰（大聖寺永町婦人消防隊）	平成13年11月
石川県少年婦人防火委員会会長表彰（箱宮町婦人防火クラブ）	平成13年11月

石川県少年婦人防火委員会会長表彰（打越町婦人防火クラブ）・・・・・・・・平成14年11月
 石川県少年女性防火委員会会長表彰（林副会長）・・・・・・・・平成15年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（田尻町女性防火クラブ）・・・・・・・・平成16年11月
 日本消防協会会長表彰（上河崎町女性防火クラブ）・・・・・・・・平成18年 2月
 石川県女性防火クラブ結成25年記念大会特別表彰（篠原町女性防火クラブ）平成20年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（河南町女性防火クラブ）・・・・・・・・平成23年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（作見地区女性防火クラブ）・・・・・・・・平成23年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（妙蓮会女性防火クラブ）・・・・・・・・平成23年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（塩浦副会長）・・・・・・・・平成23年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（山本役員）・・・・・・・・平成24年12月
 石川県女性防火クラブ連絡協議会長表彰（高塚町女性防火クラブ）・・・・平成25年11月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（大杉役員）・・・・・・・・平成25年12月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（田中役員）・・・・・・・・平成26年11月
 総務大臣表彰（加賀市女性防火クラブ連絡協議会）・・・・・・・・平成27年 7月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（北中役員、坂本役員）・・・・・・・・平成27年11月
 石川県知事表彰（篠原町女性防火クラブ）・・・・・・・・平成27年12月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（中出役員）・・・・・・・・平成28年12月
 石川県知事表彰（上河崎町女性防火クラブ）・・・・・・・・平成28年12月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（長尾役員）・・・・・・・・平成29年12月
 内閣総理大臣表彰（加賀市女性防火クラブ連絡協議会）・・・・・・・・平成30年 7月
 石川県知事表彰（作見地区女性防火クラブ、林副会長、東出副会長）・・・・平成30年12月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（徳田副会長）・・・・・・・・令和元年12月
 石川県知事表彰（妙蓮会女性防火クラブ）・・・・・・・・令和元年12月
 石川県知事表彰（三谷地区女性防火クラブ）・・・・・・・・令和5年12月
 石川県知事表彰（田尻町女性防火クラブ）・・・・・・・・令和6年12月
 石川県子ども女性防火委員会会長表彰（大聖寺婦人会女性防火クラブ）・・・・令和7年11月
 石川県知事表彰（加賀市女性防火クラブ 徳田副会長）・・・・・・・・令和7年12月

(12) 幼年・子ども消防クラブの現況

ア 幼年消防クラブの現況

令和8年4月1日現在

番号	ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月	クラブ員数	指導員数
1	か が 幼 稚 園 幼年消防クラブ	昭和57年10月	19名	2名
2	新 生 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和57年10月	39名	3名
3	山 中 中 央 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和58年10月	13名	2名
4	河 南 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和58年10月	16名	2名
5	松 が 丘 こども園 幼年消防クラブ	昭和59年 4月	33名	3名
6	清 心 こども園 幼年消防クラブ	昭和59年 4月	23名	2名
7	わかたけこども園 幼年消防クラブ	昭和59年 4月	44名	5名
8	薬 王 園 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和59年 6月	24名	1名
9	清 和 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和60年 4月	38名	6名
10	開 陽 保 育 園 幼年消防クラブ	昭和62年 4月	21名	1名
11	キッズランドいなみえん 幼年消防クラブ	平成10年 4月	27名	2名
12	たちばなこども園 幼年消防クラブ	平成12年 4月	26名	2名
13	聖 光 保 育 園 幼年消防クラブ	平成12年 4月	42名	3名
合 計		13 クラブ	365名	34名

イ 子ども消防クラブの現況

令和8年4月1日現在

番号	ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月	クラブ員数	指導員数
1	高 塚 町 子ども消防クラブ	昭和55年10月	4名	1名
2	箱 宮 町 子ども消防クラブ	昭和61年 5月	12名	1名
3	丸 山 町 子ども消防クラブ	平成 5年 5月	9名	1名
合 計		3クラブ	25名	3名

ウ 年間行事

子ども消防学校（1 日入校）	7 月
夏期研修（防災施設見学）	8 月
防火・防災図画・ポスターコンクール	9 月

エ 主な表彰等

石川県少年婦人防火委員会長表彰	昭和 5 8 年度	大聖寺錦町 B・F・C
石川県少年婦人防火委員会長表彰	昭和 5 9 年度	南郷小 B・F・C
〃		立野副会長・大聖寺錦町 吉野指導員
石川県少年婦人防火委員会長表彰	昭和 6 3 年度	三木小 B・F・C
日本防火協会長表彰	平成元年度	南郷小 B・F・C
自治体消防 40 周年記念表彰	平成元年度	大聖寺錦町少年消防クラブ
石川県少年婦人防火委員会長表彰	平成元年度	分校町 B・F・C
〃		〃 上原漆器団地 B・F・C
〃		〃 南郷小 滝野指導員
石川県少年婦人防火委員会長表彰	平成 3 年度	箱宮町 B・F・C
石川県少年婦人防火委員会長表彰	平成 5 年度	分校町 村井指導員
日本防火協会長表彰	平成 1 1 年度	立野副会長
石川県少年婦人防火委員会長表彰	平成 1 1 年度	大聖寺錦町 中川指導員
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 1 6 年度	丸山町 桶田指導員
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 1 7 年度	高塚町 B・F・C
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 1 9 年度	向出副会長
自治体消防 60 周年記念表彰	平成 2 0 年度	キッズランド いなみえん 幼年消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 2 1 年度	丸山町子ども消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 2 3 年度	かが幼稚園幼年消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 2 3 年度	わかたけ保育園幼年消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 2 3 年度	聖光保育園幼年消防クラブ
石川県知事表彰	平成 2 6 年度	南郷小学校子ども消防クラブ
石川県知事表彰	平成 2 7 年度	丸山町子ども消防クラブ
石川県知事表彰	平成 2 8 年度	大聖寺錦町子ども消防クラブ
消防庁長官表彰	平成 2 8 年度	南郷小学校子ども消防クラブ
石川県知事表彰	平成 2 9 年度	分校町子ども消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 3 0 年度	打越町子ども消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	平成 3 0 年度	東野会長・中野副会長
石川県知事表彰	平成 3 0 年度	箱宮町子ども消防クラブ
石川県子ども女性防火委員会長表彰	令和元年度	キッズランド いなみえん 幼年消防クラブ
石川県知事表彰	令和元年度	三木町子ども消防クラブ
石川県知事表彰	令和 5 年度	山中温泉漆器団地子ども消防クラブ

オ 主な寄贈等

日本防火協会より鼓笛隊セット寄贈・・・昭和57年度 南郷小学校子ども消防クラブ
日本防火協会よりビデオセット寄贈・・・昭和59年度 新生保育園幼年消防クラブ
日本防火協会より鼓笛隊セット寄贈・・・昭和59年度 かが幼稚園幼年消防クラブ
日本防火協会よりビデオセット寄贈・・・昭和60年度 松が丘保育園幼年消防クラブ
日本防火協会よりビデオセット寄贈・・・昭和61年度 薬王園保育園幼年消防クラブ
日本防火協会よりビデオセット寄贈・・・平成6年度 開陽保育園幼年消防クラブ
日本防火協会より液晶プロジェクター寄贈・・・平成7年度 加賀市少年婦人防火委員会
日本防火協会より鼓笛隊セット寄贈・・・平成17年度 わかたけ保育園幼年消防クラブ

これらクラブの育成強化を行うために、子ども女性防火委員会・子ども消防クラブ連絡協議会・女性防火クラブ連絡協議会が組織されています。

2 火 災



火災防ぎょ訓練（福井鋳螺株式会社：片山津工場）

令和7年中 火災概要

(1) 火災概要

ア 出火件数

令和7年中における出火件数は15件で、前年比7件の減少である。

イ 火災種別

出火件数15件の火災種別は、建物火災8件、車両火災1件、林野火災1件、その他の火災が5件である。

建物火災は全体の約53.3%、車両火災が6.7%、林野火災が6.7%、その他の火災が33.3%を占めている。

ウ 物的・人的被害

火災による損害額は26,662千円で、前年比2,583千円の減少である。

人的被害については、死者0人（前年1人）、負傷者は0人（前年3人）である。

また、り災人員は27人で、前年比13人の増加、り災世帯については、9世帯で、前年比1世帯の増加となっている。

エ 出火原因

出火件数15件の原因別では、たばこ、たき火が各2件、ガスこんろ、排気管、電灯・電話等の配線、電気機器、放火および不明が各1件、その他が5件である。

オ 建物の焼損面積

建物焼損床面積は472㎡で、前年比124㎡の増加であり、焼損表面積は42㎡で、前年比17㎡の増加である。

(2)前年との火災概要比較

年 区 分			令和7年	令和6年	増 減
		(単位)	(A)	(B)	(C) ((A)-(B))
出 火 件 数 (うち爆発) (うち北陸道)		(件)	15	22	△ 7
			1		1
	建 物		8	12	△ 4
	林 野		1		1
	車 両		1	3	△ 2
	船 舶・航空機				－
	そ の 他		5	7	△ 2
※ 出 火 率		-	2.4	3.5	△ 1.1
焼 損 棟 数		(棟)	15	15	0
	全 焼		4	3	1
	半 焼		1	1	0
	部 分 焼		8	8	0
	ぼ や		2	3	△ 1
焼 損 状 況	建物焼損床面積	(㎡)	472	348	124
	建物焼損表面積		42	25	17
	林野焼損面積	(a)	412		412
	焼損車両台数	(台)	2	3	△ 1
死 傷 者	死 者	(人)		1	△ 1
	負 傷 者			3	△ 3
	3 0 日 死 者				－
損 害 状 況	り 災 世 帯	(世帯)	9	8	1
	全 損		2		2
	半 損				0
	小 損		7	8	△ 1
	り 災 人 員	(人)	27	14	13
	損 害 額	(千円)	26,662	29,245	△ 2,583

※出火率(%)＝出火件数÷令和7年1月現在住民基本台帳による人口×10,000(四捨五入) (△は減少)

(3)－1 令和6年中の出火原因

種別 出火原因	合計	建物	林野	車両	船舶	その他
たばこ	2	1				1
ストーブ	2	2				
電灯・電話等 の配線	2	1				1
こんろ	1	1				
電気機器	1			1		
配線器具	1	1				
放火	1					1
その他	11	5		2		4
不明	1	1				
合計	22	12		3		7

(3)－2 令和7年中の出火原因

種別 出火原因	合計	建物	林野	車両	船舶	その他
たばこ	2	1	1			
たき火	2					2
電灯・電話等 の配線	1	1				
こんろ	1	1				
電気機器	1	1				
排気管	1			1		
放火	1	1				
その他	5	2				3
不明	1	1				
合計	15	8	1	1		5

(4) 過去5年間の火災比較

区 分		年 別	単 位	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
火 災 件 数			(件)	15	22	18	23	15
	内 高速道路火災件数(金津～小松間)			1			1	
焼 損 状 況	建 物 焼 損 床 面 積		(㎡)	472	348	241	1,811	717
	建 物 焼 損 表 面 積			42	25	8	364	6
	林 野 焼 損 面 積		(a)	412			1	
	焼 損 車 両 台 数		(台)	2	3	1	4	1
	焼 損 棟 数		(棟)	15	15	10	31	11
	り 災 世 帯 数		(世帯)	9	8	6	24	6
	り 災 人 員 数		(人)	27	14	13	66	12
	損 害 額		(千円)	26,662	29,245	11,455	164,045	45,312
	建 物 火 災			26,185	27,429	11,221	158,799	43,221
	林 野 火 災							
	車 両 火 災			477	1,816	160	4,931	1,321
	そ の 他 の 火 災					74	315	770
死 傷 者	死 者		(人)		1	1	1	
	負 傷 者				3	2	5	
	3 0 日 死 者							
出 火 率 (人口一万人当りの出火件数)			加賀市	2.4	3.5	2.8	3.6	2.3
			石川県	2.1	2.2	2.4	2.1	1.9
			全 国	3.3	3.0	3.1	2.9	2.8

(5) - 1 火 災 - 覧

番 号	月 日	時 刻	出 火 場 所	用 途
1	2月3日	11時40分	山代温泉	共同住宅
2	2月24日	8時05分	塩浜町	物置
3	3月7日	6時30分	作見町	作業場
4	3月25日	9時16分	北陸自動車道(伊切町地内)	貨物自動車
5	3月27日	13時40分	大聖寺地方町(空地)	その他(空地)
6	4月5日	12時30分	山中温泉塚谷町	共同住宅
7	5月1日	14時40分	箱宮町	遊技場
8	7月19日	14時10分	篠原町	その他(田畑)
9	8月2日	13時30分	大聖寺上木町	その他(空地)
10	8月4日	19時00分	伊切町	原野
11	8月23日	11時40分	柴山町	その他(田畑)
12	8月30日	13時05分	中島町	その他(空地)
13	11月3日	8時00分	伊切町	住宅
14	11月14日	18時30分	七日市町	住宅
15	12月26日	13時10分	宇谷町	納屋

(5)－2 火災原因一覧

火災 番号	出火原因	焼損状況						出動隊員			出動車両			死傷者		初期 消火
		建 物 焼 損		林野	車両	その他	損害額	職員	団員	合計	職員	団員	合計	死者	負傷者	
		床面積	表面積													
		(㎡)	(㎡)	(a)	(台)		(千円)	(人)			(台)			(人)		
1	こんろ		1				4	26		26	7		7			◎
2	その他 (火のついたゴミ)	229	25				18,512	37	12	49	11	2	13			
3	その他 (籾殻の燐炭)		6				194	28	7	35	10	1	11			○
4	排気管				1		437	15		15	4		4			◎
5	その他 (その他の火種)					ゴミ 法面		15		15	6		6			
6	電灯・電話線等の 配線	9					905	6		6	2		2			◎
7	たばこ	29			1		2,030	24	2	26	9		9			◎
8	たき火					枯草		7		7	3		3			
9	その他 (火のついたゴミ)					枯草		18	5	23	6	1	7			○
10	たばこ			412				74	59	133	20	7	27			
11	たき火					枯草		6		6	2		2			
12	その他 (自然発火)					堆肥		33		33	12		12			
13	電気機器	98					2,217	34	22	56	9	3	12			
14	不明					寝具	136	18		18	5		5			◎
15	放火	107	10				2,227	27	10	37	9	1	10			○
合 計		472	42	412	2	※	26,662	368	117	485	115	15	130	0	0	

※ 焼損状況のその他には、多種多様の火災が含まれるため合計することができない。

○・・・初期消火あり ◎・・・初期消火に成功

(6) 月別火災状況

月 別 種 別			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
火 災 種 別	建 物	(件)		2	1	1	1						2	1	8
	林 野									1					1
	車 両				1										1
	船 舶														
	そ の 他				1				1	3					5
	計			2	3	1	1		1	4			2	1	15
焼 損 程 度	全 焼	(棟)		3										1	4
	半 焼												1		1
	部 分 焼			2	1	1	1							3	8
	ば や			1									1		2
	計			6	1	1	1						2	4	15
り 災	世 帯	(世帯)		4		1							2	2	9
	人 員	(人)		8		1							9	9	27
焼 損 状 況	建 物	焼損床面積	(㎡)	229		9	29						98	107	472
		焼損表面積		26	6									10	42
	林 野	(a)								412					412
	車 両	(台)			1		1								2
	船 舶	(隻)													
	そ の 他	(件)													
損 害 見 積 額	建 物	(千円)		17,465	194	826	1,746						1,221	2,227	23,679
	内 容 物			1,051		79	244						1,132		2,506
	林 野														
	車 両				437		40								477
	船 舶														
	そ の 他														
	計			18,516	631	905	2,030						2,353	2,227	26,662
死 傷 者	死 者	(人)													
	負 傷 者														
	30日死者														

※その他には多種多様の火災が含まれ合計することができないことから、件数で表記している。

(7) 月／時間別火災件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0時～													
1時～													
2時～													
3時～													
4時～													
5時～													
6時～			1										1
7時～													
8時～		1									1		2
9時～			1										1
10時～													
11時～		1						1					2
12時～				1									1
13時～			1					2				1	4
14時～					1		1						2
15時～													
16時～													
17時～													
18時～											1		1
19時～								1					1
20時～													
21時～													
22時～													
23時～													
不明													
合計		2	3	1	1		1	4			2	1	15

(8) 曜日／月別火災件数

月 曜日	割合 (%)	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日曜日														
月曜日	26.7	4		2						1			1	
火曜日	6.7	1			1									
水曜日														
木曜日	13.3	2			1		1							
金曜日	20.0	3			1								1	1
土曜日	33.3	5				1			1	3				
合 計	100.0	15		2	3	1	1		1	4			2	1

(9) 用途別火災状況

種 別 用途別	件 数	割 合	損 害 額	り 災 世 帯	り 災 人 員	焼損程度				焼損状況				
						全	半	部	ぼ	建物 焼損 床面積	建物 焼損 表面積	林 野	焼 損 車 両	そ の 他
						焼	焼	焼	や	(㎡)	(㎡)	(a)	(台)	
建 物	住 宅	2	53.3	2,353	2	9	1		1	98				
	共 同 住 宅	2		909	2	2			1	1	9	1		
	飲 食 店													
	工 場	1		194					1		6			
	倉 庫													
	複 合 用 途	1		2,030					1	29				
	そ の 他	2		20,739	5	16	2			336	35			
林 野		1	6.7									412		
車 両		1	6.7	437									2	
そ の 他		5	33.3											
合 計		15	100.0	26,662	9	27	2	1	3	2	472	42	412	2 ※

※その他には、多種多様の火災が含まれるため合計することができない。

(10) 出火原因別火災状況

種 別 出火原因	火 災 種 別						焼 損 程 度					り災		焼損面積				損 害 額	死傷者		
	総	建	林	車	船	そ	全	半	部	ぼ	焼	世	人	建	建	林	そ		死	負	3
	数	物	野	両	舶	の	焼	焼	焼	や	損	帯	員	物	物	野	の		者	者	0
	(件)						(棟・台)					(世帯・人)		(㎡)		(a)			(人)		
たばこ	2	1	1						1		1			29		412		2,030			
たき火	2					2															
電灯・電話等の配線	1	1							1			1	1	9				905			
こんろ	1	1								1		1	1		1			4			
電気機器	1	1						1				1	5	98				2,217			
排気管	1			1							1							437			
放火	1	1					1		3			2	9	107	10			2,227			
その他	5	2				3	3		3			3	7	229	31			18,706			
不明	1	1								1		1	4					136			
合 計	15	8	1	1		5	4	1	8	2	2	9	27	472	42	412	※	26,662			

※その他には多種多様の火災が含まれるため合計することができない。

(11) 分団別火災状況

方 面	種 別 分団別	火 災 種 別						焼 損 状 況					損 害 額
		計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	建 床物 面焼 積損	建 表物 面焼 積損	林 野	車 両	そ の 他	
第 1 方 面	大 聖 寺 第 1 分 団												
	大 聖 寺 第 2 分 団	1					1					ゴミ 法面	
	大 聖 寺 第 3 分 団	1					1					枯草	
	橋 立 分 団												
	南 郷 分 団												
	三 木 分 団												
	三 谷 分 団												
	塩 屋 分 団												
	合 計	2					2					※	
第 2 方 面	片 山 津 分 団												
	作 見 分 団	1	1						6				194
	金 明 分 団	2	1				1	229	25			枯草	18, 512
	湖 北 分 団	4	1	1	1		1	98		412	1	枯草	2, 654
	動 橋 分 団	1					1					堆肥	
	分 校 分 団	1	1					29			1		2, 030
	合 計	9	4	1	1		3	356	31	412	2	※	23, 390
第 3 方 面	山 代 第 1 分 団	1	1						1				4
	山 代 第 2 分 団												
	庄 分 団	1	1									寝具	136
	勅 使 分 団	1	1					107	10				2, 227
	東 谷 口 分 団												
	合 計	3	3					107	11			※	2, 367
第 4 方 面	山 中 第 1 分 団												
	山 中 第 2 分 団												
	山 中 第 3 分 団	1	1					9					905
	山 中 第 4 分 団												
	合 計	1	1					9				※	905
総 合 計		15	8	1	1		5	472	42	412	2	※	26, 662

※焼損状況のその他は多種多様の火災が含まれるため、合計することができない。

(12) 過去5年間の分団別火災状況

方 面	種 別 分団別	令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年			合 計
		計	建 物	そ の 他	計	建 物	そ の 他	計	建 物	そ の 他	計	建 物	そ の 他	計	建 物	そ の 他	
第 1 方 面	大聖寺第1分団							1	1		3	3					4
	大聖寺第2分団	1		1	2	1	1	1		1				1	1		5
	大聖寺第3分団	1		1													1
	橋立分団				1	1		2		2	1		1				4
	南郷分団				2	2		1	1		1	1		1	1		5
	三木分団				1	1		1	1		2	1	1	2	1	1	6
	三谷分団																
	塩屋分団										1		1	1		1	2
	合 計	2		2	6	5	1	6	3	3	8	5	3	5	3	2	27
第 2 方 面	片山津分団							1		1	1		1				2
	作見分団	1	1		1	1					2	2		1	1		5
	金明分団	2	1	1							2		2	1	1		5
	湖北分団	4	1	3	2	1	1	1		1	1		1	1	1		9
	動橋分団	1		1	2		2	1		1	2	1	1				6
	分校分団	1	1		3		3				1		1				5
	合 計	9	4	5	8	2	6	3		3	9	3	6	3	3		32
第 3 方 面	山代第1分団	1	1		1	1		3	2	1	4	3	1	2	1	1	11
	山代第2分団				1		1										1
	庄分団	1	1					3		3				1	1		5
	勅使分団	1	1											1		1	2
	東谷口分団							2	2								2
	合 計	3	3		2	1	1	8	4	4	4	3	1	4	2	2	21
第 4 方 面	山中第1分団				2	2								1		1	3
	山中第2分団				2		2				1	1		1	1		4
	山中第3分団	1	1		2	2					1	1		1	1		5
	山中第4分団							1	1								1
	合 計	1	1		6	4	2	1	1		2	2		3	2	1	13
総 合 計		15	8	7	22	12	10	18	8	10	23	13	10	15	10	5	93

(13) 消防隊火災出動状況

ア 出動回数

区分	年 別 消防隊	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
出動回数	消 防 署	15	21	13	21	11
	消 防 団	7	9	5	10	7
	応 地 域 自 衛 消 防 隊	1	1	2	3	2
	事 業 所 自 衛 消 防 隊					
	市 外 消 防 隊					
	合 計	23	31	20	34	20

イ 出動隊員数

区分	年 別 消防隊	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
出動隊員数	消 防 署	368	394	219	499	278
	消 防 団	117	84	52	242	96
	応 地 域 自 衛 消 防 隊		4	27	21	10
	事 業 所 自 衛 消 防 隊					
	市 外 消 防 隊					
	合 計	485	482	298	762	384

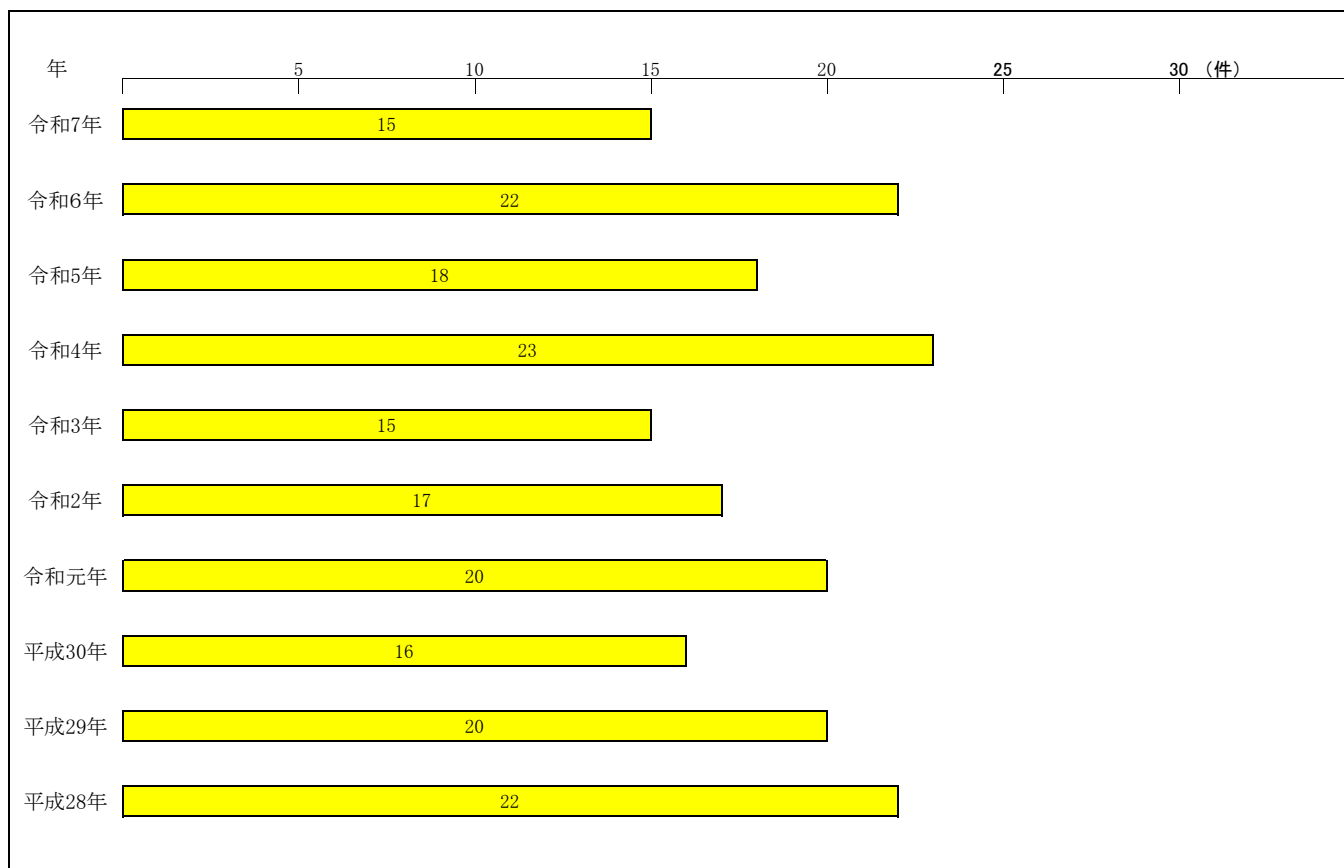
ウ 出動車両数

区分	年 別 消防隊	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
出動車両数	消 防 署	115	124	67	148	81
	消 防 団	15	12	7	28	15
	応 地 域 自 衛 消 防 隊		1			
	事 業 所 自 衛 消 防 隊					
	市 外 消 防 隊					
	合 計	130	137	74	176	96

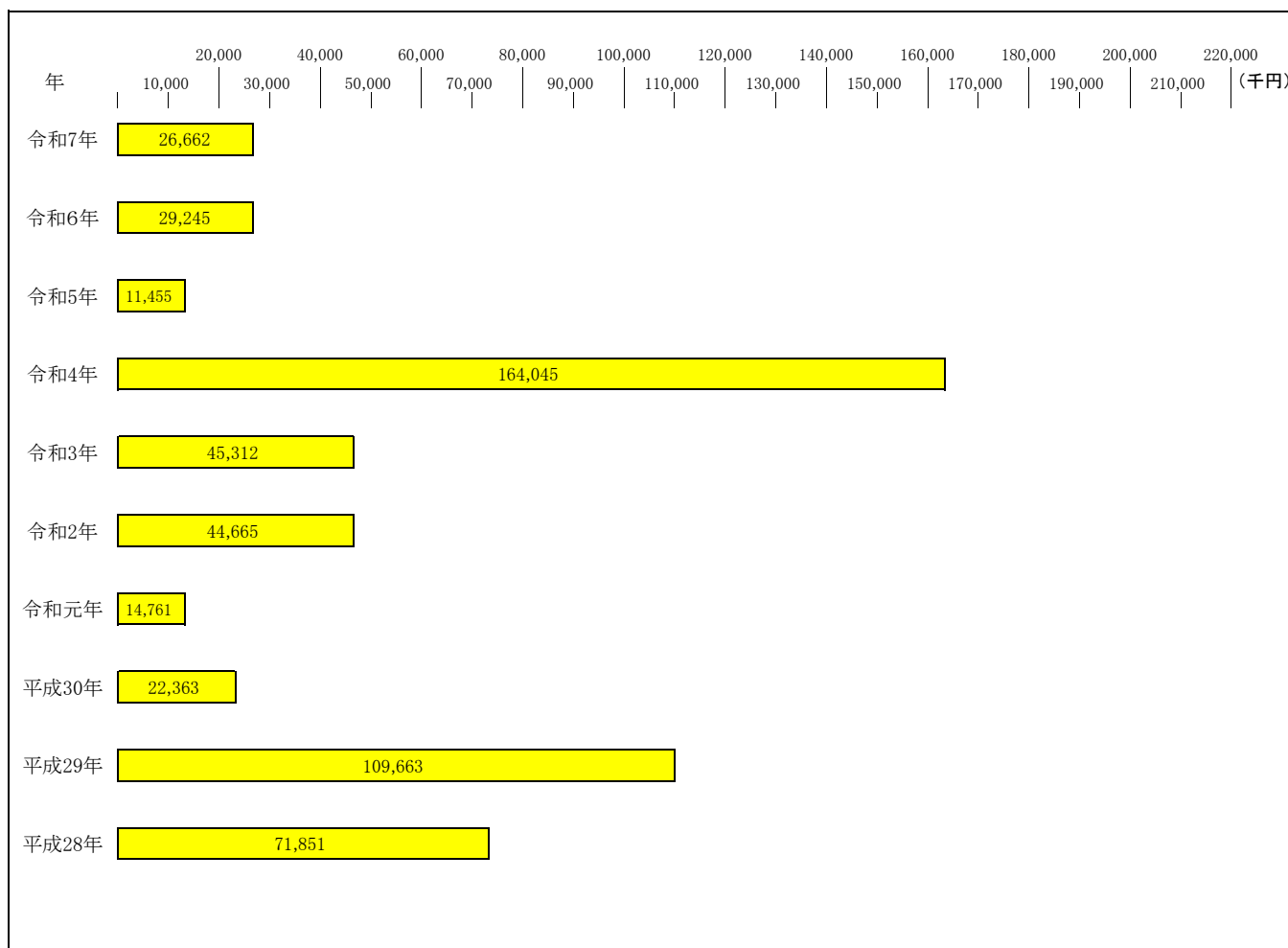
エ 放水ポンプ数

区分	年 別 消防隊	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
放水ポンプ数	消 防 署	33	23	11	48	17
	消 防 団	5	1	2	10	5
	応 地 域 自 衛 消 防 隊				3	1
	事 業 所 自 衛 消 防 隊					
	市 外 消 防 隊					
	合 計	38	24	13	61	23

(14) 過去10年間の火災件数



(15) 過去10年間の火災損害額



(16) 昭和33年以降の主な火災(焼損床面積1,000㎡以上)

番号	発生年月日	出火時刻 (時分)	発生場所	用途	原因	焼損床面積 (㎡)	損害額 (百万円)	死者	負傷者
1	昭和 44 年 5 月 18 日	13:20	片山津温泉2区	旅館	不明	33,846	2,322		16
2	平成 3 年 4 月 10 日	03:18	大聖寺番場町	作業場	乾燥機	4,585	225		
3	昭和 50 年 7 月 7 日	04:30	山代温泉8区	旅館	蚊取り線香	4,542	473		2
4	平成 5 年 11 月 10 日	08:10	桑原町	工場	たき火	2,173	96		
5	昭和 37 年 5 月 8 月	17:30	山中温泉大内町	住宅 兼工場	取灰	2,075	24	1	1
6	昭和 63 年 4 月 5 日	04:44	中代町	工場	不明	1,980	108		
7	昭和 55 年 3 月 15 日	04:15	田尻町	割烹	たばこ	1,869	164		3
8	昭和 42 年 3 月 15 日	03:40	片山津温泉1区	旅館	たばこ	1,819	50		1
9	平成 10 年 4 月 27 日	00:12	大聖寺鍛冶町	住宅 兼店舗	不明	1,711	468		4
10	昭和 37 年 1 月 1 日	19:30	山代温泉5区	旅館	石油ストーブ	1,562	80	1	10
11	昭和 36 年 2 月 24 日	05:10	大聖寺耳聞山町	機業場	モーターの 過熱	1,320	25		
12	昭和 57 年 1 月 24 日	00:10	山代温泉5区	土産店	不明	1,273	147		11

※番号については、焼損床面積の多い火災から順に記載している。

3 救 急



救急活動訓練

令和7年中 救急統計

(1) 救急概要

ア 救急出動件数

令和7年中の救急出動件数は4,075件で前年比54件の減少であり、1日平均11.2件、1か月平均339.6件の出動となる。
また、不搬送件数は299件で前年比10件の増加である。

イ 事故種別

事故種別では急病が2,846件(全体の69.9%)と過半を占め、一般負傷692件(同17.0%)、転院搬送291件(同7.1%)、交通事故160件(同3.9%)と続く。

ウ 搬送人員

搬送人員は3,793人で内訳は急病2,613人(全体の68.9%)、一般負傷660人(同17.4%)、転院搬送290人(同7.6%)、交通事故159人(同4.2%)、その他71人(同1.9%)で、搬送人員のうち中等症者は全体の46.5%を占め、また65歳以上の搬送人員は全体の74.9%を占めており、市民16.3人に1人が救急車を利用したことになる。

エ 収容機関

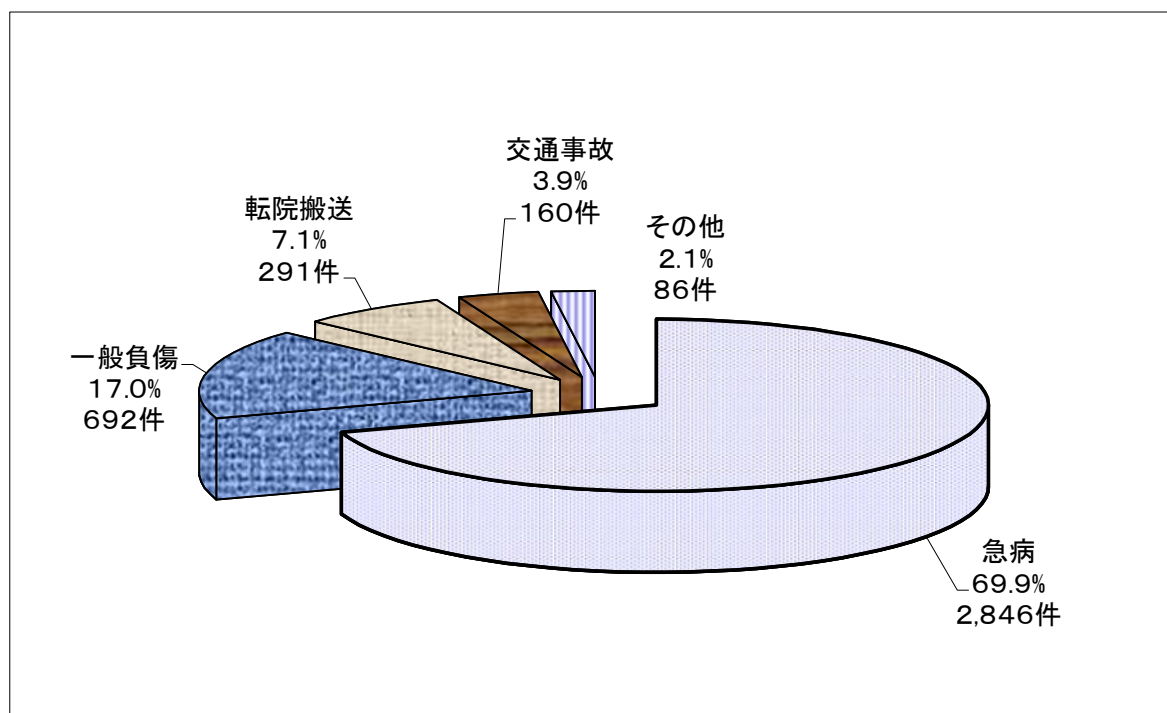
医療機関の収容については、搬送人員3,793人のうち市内医療機関に3,322人(全体の87.6%)、小松市内医療機関に278人(同7.3%)、金沢市内医療機関に79人(同2.1%)、県内その他の地域医療機関に30人(同0.8%)、福井県内医療機関に83人(同2.2%)を収容している。

オ 所要時間

1件当たりの現場到着所要時間(入電から現場到着まで)の平均は、7.4分で出動件数のうち555件(全体の13.6%)は5分未満に現場に到着している。

また、1件あたりの医療機関収容所要時間(入電から医療機関、医師引継ぎまで)の平均は、33.6分で搬送人員3,793人のうち1,619人(全体の42.7%)が30分未満に医療機関等に収容されている。

出動件数4,075件



(2) 前年との救急概要比較

区 分		年	救急隊別出動状況			令和7年 (a)	令和6年 (b)	前年比 (a)－(b)
			消防署	大聖寺	山中			
火 災	出 動 件 数						4	△ 4
	搬 送 人 員						3	△ 3
	不 搬 送 件 数						1	△ 1
自 然 災 害	出 動 件 数							－
	搬 送 人 員							－
	不 搬 送 件 数							－
水 難	出 動 件 数			1	1	2	8	△ 6
	搬 送 人 員			1	1	2	6	△ 4
	不 搬 送 件 数						4	△ 4
交 通 事 故	出 動 件 数		106	34	20	160	171	△ 11
	搬 送 人 員		104	32	23	159	166	△ 7
	不 搬 送 件 数		13	4		17	20	△ 3
労 働 災 害	出 動 件 数		20	11	4	35	54	△ 19
	搬 送 人 員		20	11	4	35	54	△ 19
	不 搬 送 件 数							－
運 動 競 技	出 動 件 数		4	3	1	8	14	△ 6
	搬 送 人 員		4	3	1	8	15	△ 7
	不 搬 送 件 数							－
一 般 負 傷	出 動 件 数		411	145	136	692	643	49
	搬 送 人 員		389	139	132	660	601	59
	不 搬 送 件 数		22	6	4	32	43	△ 11
加 害	出 動 件 数		8	1		9	10	△ 1
	搬 送 人 員		6	1		7	10	△ 3
	不 搬 送 件 数		2			2	1	1
自 損 行 為	出 動 件 数		9	4	9	22	17	5
	搬 送 人 員		6	4	7	17	16	1
	不 搬 送 件 数		3		2	5	1	4
急 病	出 動 件 数		1,645	675	526	2,846	2,940	△ 94
	搬 送 人 員		1,490	641	482	2,613	2,735	△ 122
	不 搬 送 件 数		155	34	45	234	214	20
そ の 他	転院搬送	出 動 件 数	233	44	14	291	261	30
		搬 送 人 員	232	44	14	290	261	29
		不 搬 送 件 数	1			1		1
	医師搬送	出 動 件 数						－
		搬 送 人 員						－
		不 搬 送 件 数						－
	資機材等輸送	出 動 件 数						－
		搬 送 人 員						－
		不 搬 送 件 数						－
	その他	出 動 件 数	6		4	10	7	3
		搬 送 人 員	2			2	2	－
		不 搬 送 件 数	4		4	8	5	3
計	出 動 件 数		2,442	918	715	4,075	4,129	△ 54
	搬 送 人 員		2,253	876	664	3,793	3,869	△ 76
	不搬送件数		200	44	55	299	289	10

(△は減少)

(3) 事故種別搬送人員

ア 年齢別

事故種別		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
新生児	生後28日未満												
乳幼児	生後28日以上 7歳未満				5			13			52	2	72
少年	7歳以上 18歳未満				11		6	17	1	1	51	7	94
成人	18歳以上 65歳未満			1	79	27	2	94	6	11	506	59	785
高齢者	65歳以上			1	64	8		536		5	2,004	224	2,842
計				2	159	35	8	660	7	17	2,613	292	3,793

イ 管内管外別

事故種別 区分	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
管内に住所を有する者			1	115	22	6	598	6	16	2,384	246	3,394
管外に住所を有する者			1	41	13	2	61	1	1	224	44	388
その他				3			1			5	2	11
計			2	159	35	8	660	7	17	2,613	292	3,793

※ その他とは外国人旅行者等をいう。

ウ 傷病程度別

事故種別 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡			1	1			10		5	69	2	88
重症				12	5		32		2	174	79	304
中等症				37	12	2	299	2	8	1,220	183	1,763
軽症			1	109	18	6	319	5	2	1,150	28	1,638
その他												
計			2	159	35	8	660	7	17	2,613	292	3,793

※ その他とは医師の診断がないものをいう。

エ 発生場所別

事故種別 場 所	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
住 宅	1,860	1	395	23	2,279
公 衆 出 入 場 所	608	7	156	308	1,079
仕 事 場	55		4	20	79
道 路	70	150	79	4	303
そ の 他	20	1	26	6	53
計	2,613	159	660	361	3,793

オ 医療機関収容所要時間別

事故種別 収容所要時間	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
10分未満	1				1
うち管外					
10分以上 20分未満	51	11	28	50	140
うち管外				2	2
20分以上 30分未満	1,040	60	280	98	1,478
うち管外	2			4	6
30分以上 60分未満	1,440	80	340	169	2,029
うち管外	185	14	21	126	346
60分以上 120分未満	78	8	12	41	139
うち管外	60	4	10	41	115
120分以上	3			3	6
うち管外	3			2	5
計	2,613	159	660	361	3,793
うち管外	250	18	31	175	474
最 短 (分)	9	10	11	11	－
最 長 (分)	152	116	104	188	－
平 均 (分)	33.4	33.8	31.7	38.2	33.6

カ 転送回数別

事故種別 転送回数	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
0 回	2,610	158	660	359	3,787
1 回	3	1		2	6
計	2,613	159	660	361	3,793

(4) 医療機関別搬送人員

加 賀 市 内	搬送人員	割合	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
加賀市医療センター	3,223	84.97%	272	237	263	258	213	261	313	298	287	271	269	281
石 川 病 院	51	1.34%	3	3	2	10	3	4	4	2	11	4	4	1
久 藤 総 合 病 院	34	0.89%	6	3	5	2	1	2	6	3	1	3	2	
加賀こころの病院	12	0.32%	1			1	1	1	1		3	1	2	1
竹 谷 小 児 科	1	0.03%											1	
松 下 内 科	1	0.03%			1									
小 計	3,322	87.58%	282	243	271	271	218	268	324	303	302	279	278	283
小 松 市 内	搬送人員	割合	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小 松 市 民 病 院	217	5.72%	24	20	24	13	18	11	16	15	17	14	29	16
やわたメディカルセンター	26	0.69%	4	2	4	5	2		1	2		4		2
南加賀急病センター	21	0.55%	2	2	2		2		1	5	1	2	2	2
森 田 病 院	6	0.16%		1	1		1			1	1	1		
小 松 ソフィア 病 院	3	0.08%						1		1	1			
東 野 病 院	1	0.03%	1											
栗津神経サナトリウム	1	0.03%										1		
川 北 レイク サイド	1	0.03%					1							
そ の 他	2	0.05%			1	1								
小 計	278	7.34%	31	25	32	19	24	12	18	24	20	22	31	20
金 沢 市 内	搬送人員	割合	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
石川県立中央病院	49	1.29%	9	1	4	8	5	3	5	4	1	4	3	2
金沢大学附属病院	24	0.63%	1	2	2	1	2	1	1	3	3	4	2	2
金 沢 循 環 器 病 院	3	0.08%				1		1					1	
松 原 病 院	2	0.05%			2									
城 北 病 院	1	0.03%			1									
小 計	79	2.08%	10	3	9	10	7	5	6	7	4	8	6	4
そ の 他 の 地 域	搬送人員	割合	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
金沢医科大学病院	13	0.34%		1	3	1	1		1	2	1	2		1
松任石川中央病院	9	0.24%	4	1	1			1			1	1		
能 美 市 立 病 院	3	0.08%		1							1	1		
芳 珠 記 念 病 院	2	0.05%			2									
石川県立こころの病院	1	0.03%		1										
そ の 他	2	0.05%		1										1
小 計	30	0.79%	4	5	6	1	1	1	1	2	3	4		2
県 外	搬送人員	割合	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
福 井 大 学 病 院	42	1.10%	8	5	4	2	3	1	4	2	3	4	3	3
福井循環器病院	26	0.68%	5	6	3		2	1	1	4	1		2	1
福井県済生会病院	6	0.16%	2		1					1	2			
福 井 県 立 病 院	4	0.11%			1				3					
福 井 総 合 病 院	2	0.05%		1						1				
木 村 病 院	2	0.05%		2										
あ わ ら 病 院	1	0.03%											1	
富 山 大 学 病 院	1	0.03%			1									
小 計	84	2.21%	15	14	10	2	5	2	8	8	6	4	6	4
合 計	3,793	100%	342	290	328	303	255	288	357	344	335	317	321	313

(5) 事故種別出動件数

ア 月・曜日・時間別

事故種別 区 分		火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												搬 送 院	搬 送 師	等 資 輸 機 材	そ の 他	
計				2	160	35	8	692	9	22	2,846	291			10	4,075
月	1				13	2		60	2	4	266	25			2	374
	2				9	5		52	3	3	236	28				336
	3				15	1	1	66		2	235	33			1	354
	4			1	18	2	1	63		1	210	23			1	320
	5				10	2		56		2	181	22			1	274
	6				11	1	3	38			246	16				315
	7				10	6	1	50		5	271	30			1	374
	8			1	17	4	2	54	2	2	258	21			1	362
	9				13	6		66			243	26				354
	10				18	2		57			235	28				340
	11				13	1		54		2	247	18			1	336
	12				13	3		76	2	1	218	21			2	336
曜 日	月				26	6	2	104	2	1	416	56				613
	火				24	5		82	1	3	388	49				552
	水			1	21	4		110		4	394	54			2	590
	木				26	6	1	107	1	4	424	47			4	620
	金			1	20	4		104	1	5	394	47			2	578
	土				23	5	2	89		3	420	24			2	568
	日				20	5	3	96	4	2	410	14				554
時 間	0 ～				2	1		27	2	1	134	4				171
	2 ～				5	1		5			101	2				114
	4 ～				2	3		14			109	2			3	133
	6 ～				10	4		55		3	249	7			1	329
	8 ～			1	29	2	2	110	1	1	413	44				603
	10 ～				20	3		95		2	369	56			1	546
	12 ～				22	9	2	88	2	1	278	57			1	460
	14 ～			1	19	6		76		1	261	42				406
	16 ～				23	1	2	75	1	5	245	41			1	394
	18 ～				16	2	2	46		6	281	17				370
	20 ～				7	1		63	2	1	228	14			1	317
	22 ～				5	2		38	1	1	178	5			2	232

イ 現場到着所要時間別

事故種別 区 分	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
0分 ～ 3分未満	17	1	0	8	26
3分 ～ 5分未満	302	17	79	131	529
5分 ～ 10分未満	2,028	115	484	194	2,821
10分 ～ 20分未満	493	24	129	43	689
20分以上	6	3	0	1	10
計	2,846	160	692	377	4,075
最 短 (分)	0	0	2	0	－
最 長 (分)	46	25	17	24	－
平 均 (分)	7.5	7.7	7.4	6	7.4

ウ 北陸自動車道

事故種別 区 分		急病	交通事故	一般負傷	その他	計	年			
							5	4	3	2
上り線	片山津 IC (140.7kp)									
	＼									1
	尼御前 SA (137.0kp)	1		1		2	5	6	4	1
	＼		3			3			1	1
	加 賀 IC (128.2kp)						1	2		
	＼		1			1		1	2	1
	金 津 IC (120.9kp)									
下り線	加 賀 IC (128.2kp)	1				1				
	＼				1	1		1		
	尼御前 SA (137.0kp)	5			2	7	6	1	1	
	＼							1	2	
	片山津 IC (140.7kp)									
	＼									
	安 宅 PA (144.7kp)							1	2	1
	＼						1			1
	小 松 IC (149.3kp)									
出 動 件 数		7	4	1	3	15	13	13	12	6
搬 送 人 員		6	3	1	2	12	12	14	5	10
不 搬 送 件 数		1	2		1	4	1		1	

エ 理由別不搬送件数

事故種別 理 由	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 行 損 害	急 病	そ の 他	計
辞 退 (到 着 前)				1			2			3		6
辞 退 (到 着 後)				13			23	2		158	1	197
拒 否							2			14		16
明 ら か な 死 亡							2		4	45		51
他 車 (隊) 搬 送				1								1
傷 病 者 な し				2			2		1	5	3	13
誤 報 ・ 悪 戯										4	3	7
そ の 他							1			5	2	8
計				17			32	2	5	234	9	299

(6) 方面別出動状況

区分 地区	区 分 1			区 分 2			
	出動件数	現 場 到 着 所 要 時 間 (平均)	医療機関収容 所 要 時 間 (平均)	地区の区分	出動件数	現 場 到 着 所 要 時 間 (平均)	医療機関収容 所 要 時 間 (平均)
第1方面	1,007	7.2	34.2	大 聖 寺	465	6.0	32.9
				橋 立	159	10.6	38.9
				南 郷	163	6.9	30.3
				三 木	104	7.5	36.1
				三 谷	76	6.4	33.6
				塩 屋	40	11.2	41.6
第2方面	1,441	7.4	33.1	片 山 津	424	7.8	31.8
				作 見	578	6.1	33.9
				金 明	91	9.1	33.9
				湖 北	90	10.7	36.6
				動 橋	151	7.3	30.4
				分 校	107	9.0	34.4
第3方面	1,086	8.0	32.2	山 代	767	8.1	32.1
				別 所	46	6.9	33.7
				庄	126	6.5	28.8
				勅 使	111	8.9	35.2
				東 谷 口	36	8.3	33.9
第4方面	523	6.0	36.0	西 谷	35	9.9	43.6
				温 泉	258	5.2	37.1
				河 南	199	5.9	32.4
				東 谷	31	9.7	41.1
高速道路	15	13.5	48.9	上 り	4	18.5	58.0
				下 り	1	12.0	－
				S A	9	12.0	48.1
				P A	－	－	－
				I C	1	8.0	28.0
管轄外	3	15.3	50.0	小松市内	3	15.3	50.0
				福井県内	－	－	－
				その他	－	－	－
計	4,075	7.4	33.6				

※ 時間の単位は分

(7) 1日当たりの出動件数

出動件数 区 分	0～1 (件)	2～3 (件)	4～5 (件)	6～7 (件)	8～9 (件)	10～ (件)
日 数 (日)	0	3	13	41	61	247
割 合 (%)	0.0%	0.8%	3.6%	11.2%	16.7%	67.7%

(8) 救急隊員の行った応急処置件数

事故種別 処置対象人員 処置項目	急 病	交 通 事 故	一 般 負 傷	そ の 他	計
	2,611	159	659	360	3,789
止 血	7	3	32	4	46
固 定	10	59	54	17	140
人 工 呼 吸	18		1		19
胸 骨 圧 迫	22		4	2	28
心 肺 蘇 生	91	1	10	10	112
酸 素 吸 入	430	9	26	61	526
気 道 確 保	118	3	12	11	144
(経鼻エアウェイ)	(2)		(2)		(4)
(喉頭鏡・鉗子等での異物除去)	(1)				(1)
(ラリングアルチューブ等)	(47)	0	(3)	(1)	(51)
(気管挿管)	(2)	0	(2)	(1)	(5)
保 温	109	1	23	11	144
被 覆	9	19	111	6	145
在 宅 療 法 継 続	2				2
除 細 動	8				8
血 圧 測 定	2,485	153	632	346	3,616
聴 診	1,161	57	143	66	1,427
血 中 酸 素 飽 和 度	2,527	157	644	351	3,679
心 電 図	2,510	132	613	339	3,594
薬 剤 投 与	58		9	7	74
静 脈 路 確 保	112	1	11	11	135
(うちブドウ糖投与)	(17)				(17)
(うちC P A 前)	(32)		(1)	(4)	(37)
(うちC P A 後)	(66)	(1)	(10)	(7)	(84)
血 糖 測 定	371	1	21	5	398
エ ピ ペ ン 投 与	1		1		2
ブ ド ウ 糖 投 与	17				17
そ の 他	2,472	140	626	311	3,549
処 置 項 目 の 合 計 数	12,538	736	2,973	1,558	17,805

※ 気道確保欄は用手気道確保も含む。

(9) ドクターヘリ要請状況

事故種別 区分	火災	交 通 故	労 働 害	一 般 傷	自 損 為	急病	転 院 搬 送	計
要 請 件 数		3	1	3		2	3	12
医師介入件数		2		3		2	3	10
ヘリ搬送		2		2		1	3	8
救急搬送				1		1		2
不 応 需 (キャンセル)		1	1					2

種類 区分	官地	民地	計
ドクターヘリ 離着陸場	39	12	51

(10) ドクターカー要請状況

事故種別 区分	火災	交 通 故	労 働 害	一 般 傷	自 損 為	急病	転 院 搬 送	計
要 請 件 数		4		1	2			7
出 動 件 数		2						2

(11) 救急支援出動状況(PA連携)

事故種別 区分	火災	交 通 故	労 働 害	一 般 傷	自 損 為	急病	その他	計
出 動 件 数		51	3	31	9	210	1	305
消 防 署		5	1	1	1	16		24
大 聖 寺 分 署		16		5		40		61
山 中 分 署		2		12	3	31	1	49
片 山 津 分 署		5	1	6	2	53		67
山 代 分 署		23	1	7	3	70		104

※ドクターヘリ離着陸場所の警戒出動は除く。

(12) 救急出動等の5年間比

ア 年齢別搬送人員

年 区分	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
新 生 児			2	1	1
乳 幼 児	72	110	119	88	90
少 年	94	96	90	82	75
成 人	785	819	797	821	708
高 齢 者	2,842	2,844	2,744	2,551	2,172
計	3,793	3,869	3,752	3,543	3,046

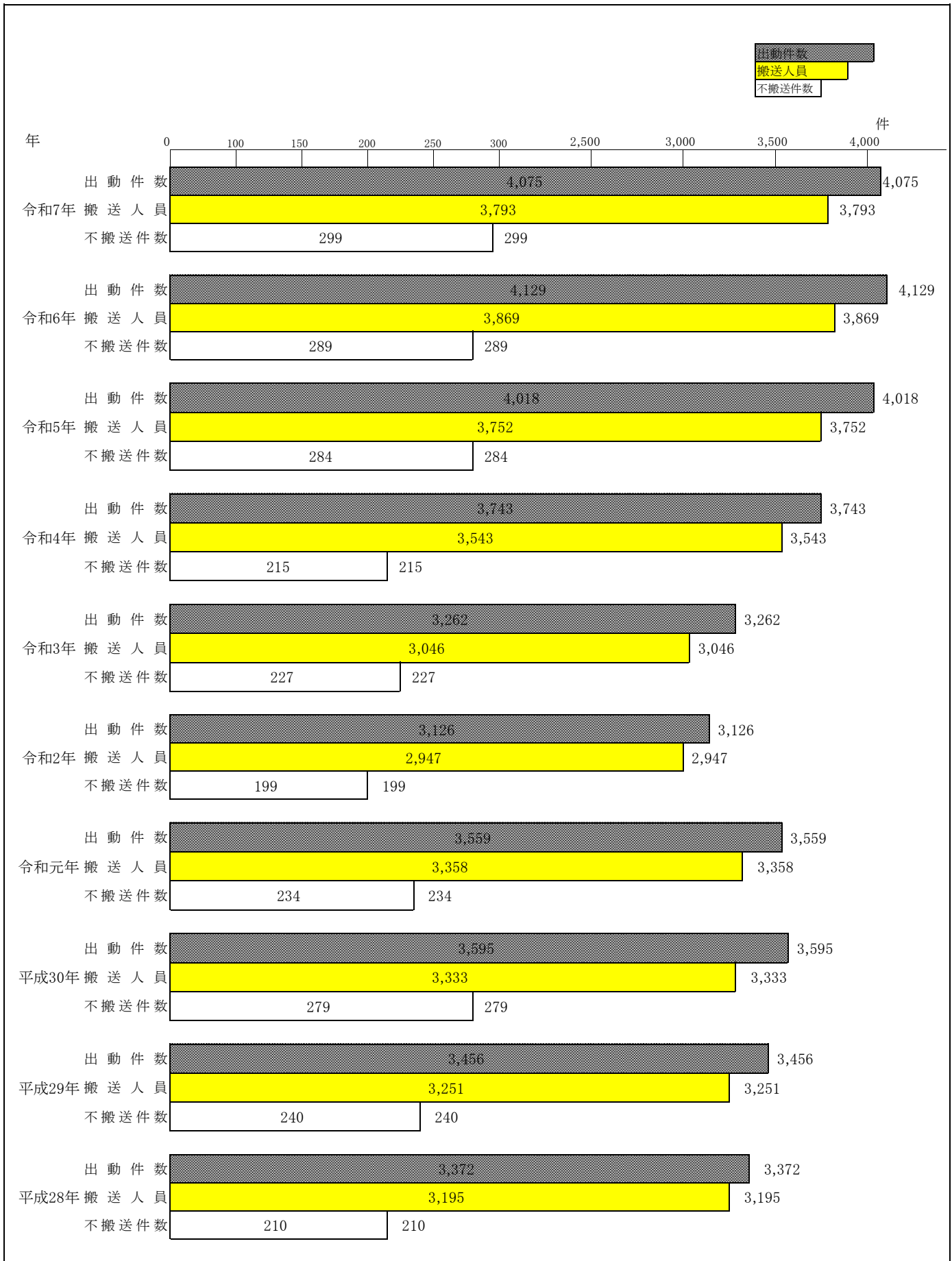
イ 出動状況

年 区分		令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
出 動 件 数		4,075	4,129	4,018	3,743	3,262
	消 防 署	2,442	2,526	2,446	2,339	2,033
	大聖寺分署	918	878	894	760	676
	山 中 分 署	715	725	678	644	553
搬 送 人 員		3,793	3,869	3,752	3,543	3,046
	消 防 署	2,253	2,364	2,275	2,233	1,901
	大聖寺分署	876	827	853	735	641
	山 中 分 署	664	678	624	575	504
不 搬 送 件 数		299	289	284	215	227
	消 防 署	200	176	180	117	143
	大聖寺分署	44	60	48	29	35
	山 中 分 署	55	53	56	69	49
一日平均出動件数		11.2	11.3	11.0	10.3	8.9
	消 防 署	6.7	6.9	6.7	6.4	5.6
	大聖寺分署	2.5	2.4	2.5	2.1	1.9
	山 中 分 署	2.0	2.0	1.9	1.8	1.5
現場到着所要時間 (平均:分)		7.4	7.2	7.7	8.5	8.1
	消 防 署	7.8	7.7	8.2	8.9	8.4
	大聖寺分署	7.1	6.7	7.1	8.0	7.8
	山 中 分 署	6.4	6.4	6.8	7.7	7.3
医療機関収容所要時間 (平均:分)		33.6	33.1	34.2	35.6	35.3
	消 防 署	32.8	32.9	34.2	36.1	34.9
	大聖寺分署	34.6	31.9	33.8	35.4	36.5
	山 中 分 署	34.8	35.1	35.0	34.2	35.3
人 口 (1月)		61,686	62,527	63,461	64,262	65,295
人口に対する搬送人員		16	16	17	18	21
一日の最多出動件数		21	23	23	23	19

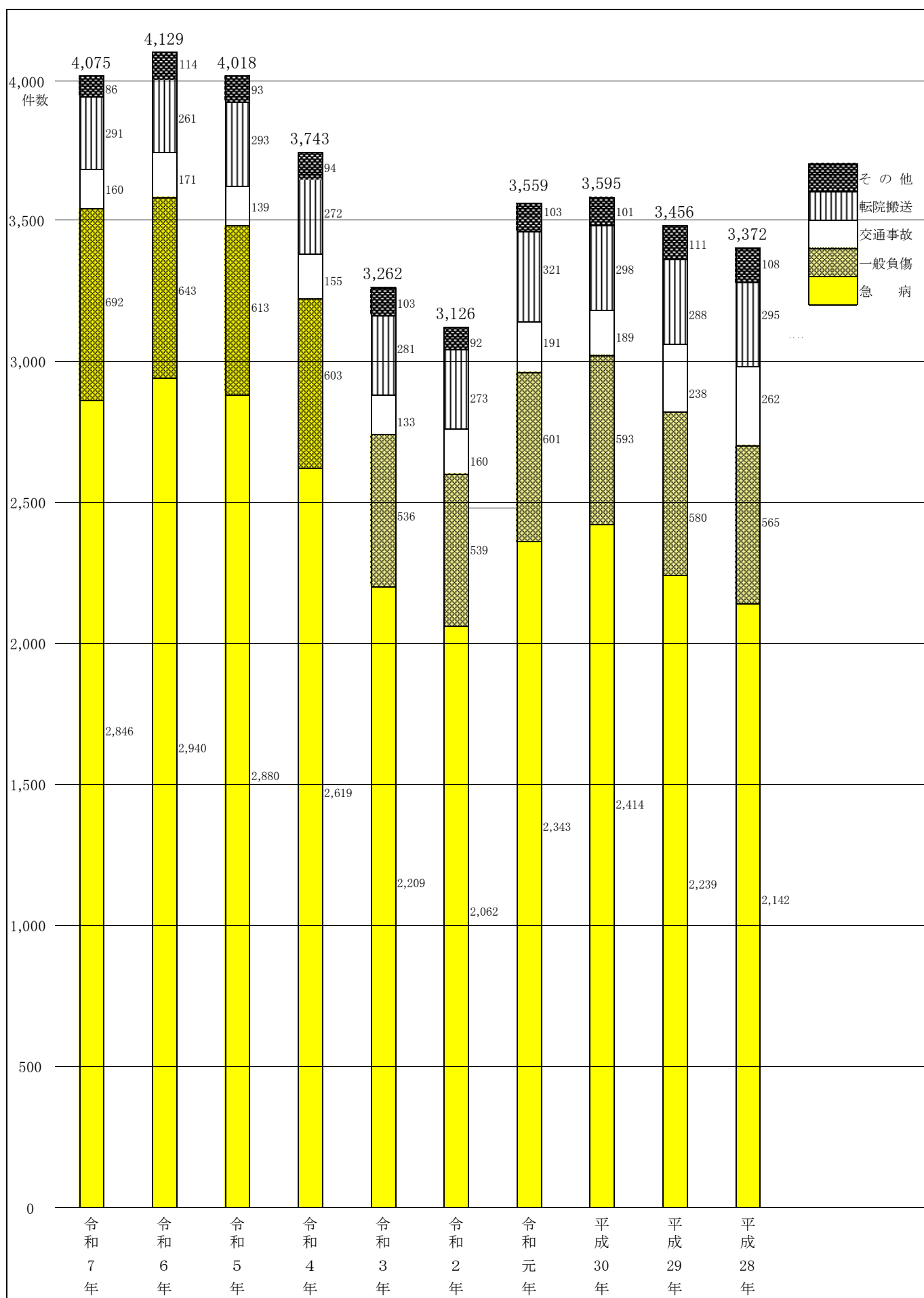
ウ 救急講習実施状況

年 区分		令和7年		令和6年		令和5年		令和4年		令和3年	
内容		回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救 命 入 門 コ ー ス		5	89			5	78	6	121	13	416
普 通 救 命 講 習		10	178	13	208	21	330	14	235	10	134
上 級 救 命 講 習		1	12	1	13						
いざというときの 救 急 講 座		55	1,354	56	1,273	51	1,240	36	858	18	458
指導員・普及員講習											
救急アクションカード		1	14								

(13) 過去10年間の救急出動状況



(14) 過去10年間の救急出動種別



このページは意図的に空白にしています

4 救 助



救助訓練（錦城山）

令和7年中 救助統計

(1) 救 助 概 要

ア 救助出動件数

令和7年中における救助出動件数39件であり、前年比6件の減少で、1か月平均3.25件の出動となる。

イ 救助活動件数及び救助人員

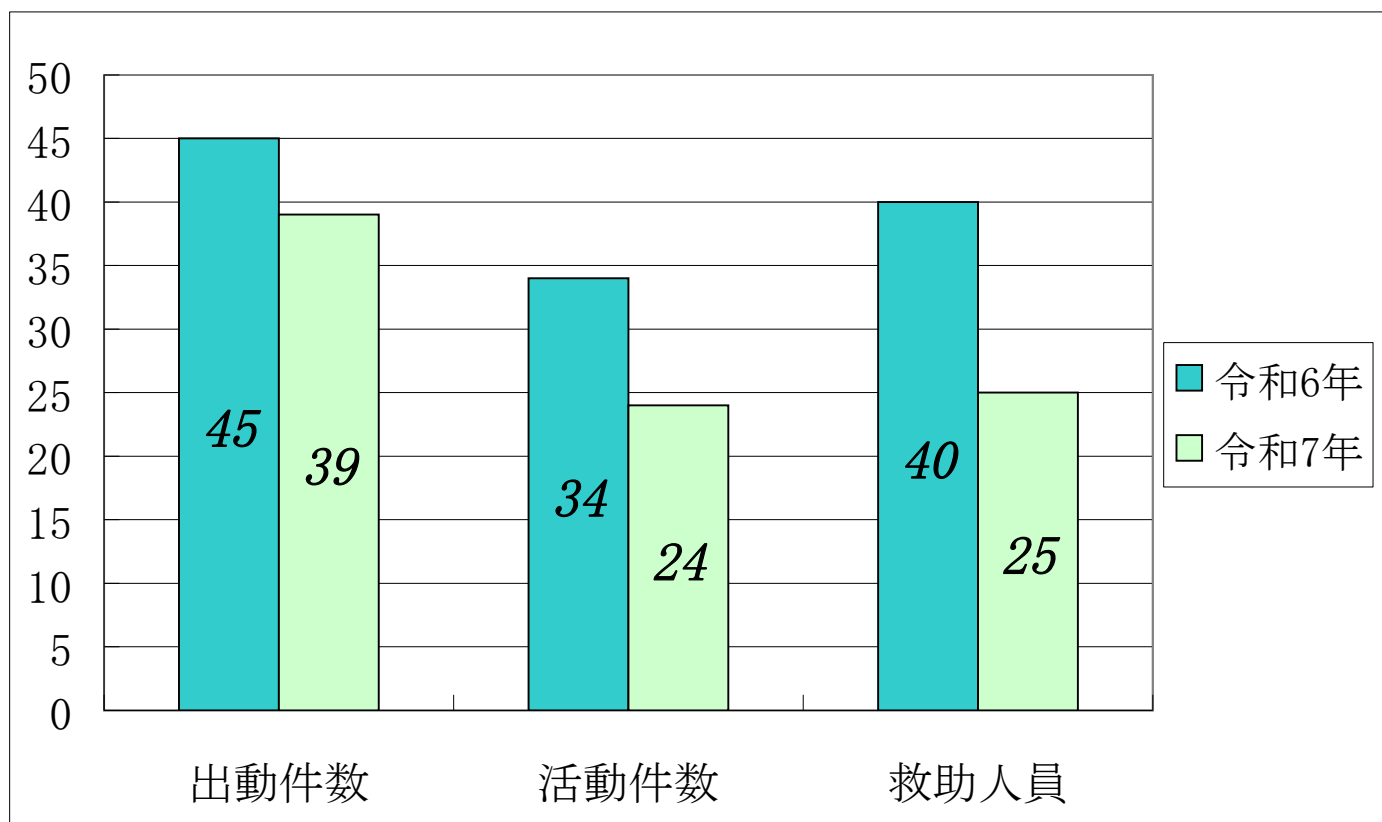
救助出動件数39件のうち、24件(前年34件)で救助活動を行い、25人(前年40人)を救助している。

ウ 救助出動事故種別

救助出動件数39件のうち、交通事故及びその他の事故が共に14件で最も多く、全体の35.9%を占めている。

(2) 事故種別出動件数

事故種別 区 分		令和7年									令和6年								
		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故
出 動 件 数		39	14	3		1	7			14	45	2	23	5		1	9		5
活 動 件 数		24	6	1		1	6			10	34	2	15	4		1	9		3
救 助 人 員		25	7	1		1	6			10	40	2	16	6		1	12		3
内 訳	死 亡	2		1						1	6	1	1	3			1		
	重 症	3	3								5		5						
	中等症	4					2			2	4	1	1			2			
	軽 症	11	4				1			6	14		6	3		1	2		2
	怪我無	5				1	3			1	11		3			7			1



(3) 発生場所別出動件数

令和7年

事故種別 発生場所			火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
屋 内	住 居	出動件数		1				6			1	8
		救助人員						5				5
	その他の屋内	出動件数						1				1
		救助人員						1				1
屋 外	高 速 道 路	出動件数		2								2
		救助人員										
	その他の道路 (高速道除く)	出動件数		11							2	13
		救助人員		7						1		8
	内 水 面	出動件数			3							3
		救助人員			1							1
	外 水 面	出動件数								1		1
		救助人員								1		1
	山 岳	出動件数								1		1
		救助人員								1		1
	その他の屋外	出動件数					1				9	10
		救助人員					1			7		8
地 下		出動件数										
		救助人員										
そ の 他		出動件数										
		救助人員										
合 計		救助件数		14	3		1	7			14	39
		救助人員		7	1		1	6			10	25

令和6年

火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
2				1	5				8
2				1	5				8
					1				1
					4				4
	3								3
	3								3
	16								16
	11								11
		5							5
		6							6
	1							1	2
								1	1
								1	1
	3				3			3	9
	2				3			2	7
2	23	5		1	9			5	45
2	16	6		1	12			3	40

(4) 月別出動件数

令和7年

事故種別 月		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
1月	出 動 件 数		1							1	2
	活 動 件 数		1							1	2
2月	出 動 件 数		2				3			3	8
	活 動 件 数						2			2	4
3月	出 動 件 数		2							3	5
	活 動 件 数									2	2
4月	出 動 件 数		2	1			1			2	6
	活 動 件 数		1	1			1			1	4
5月	出 動 件 数		2				1			2	5
	活 動 件 数		2				1			1	4
6月	出 動 件 数		1								1
	活 動 件 数										
7月	出 動 件 数					1	1				2
	活 動 件 数					1	1				2
8月	出 動 件 数		1	1						1	3
	活 動 件 数		1							1	2
9月	出 動 件 数		1				1			1	3
	活 動 件 数						1			1	2
10月	出 動 件 数		1								1
	活 動 件 数										
11月	出 動 件 数									1	1
	活 動 件 数									1	1
12月	出 動 件 数		1	1							2
	活 動 件 数		1								1
合計	出 動 件 数		14	3		1	7			14	39
	活 動 件 数		6	1		1	6			10	24

令和6年

火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
	2			1	1				4
				1	1				2
1	2				1				4
1	2				1				4
	3								3
	3								3
		1							1
		1							1
	3	1							4
	2								2
	3				1			1	5
	2				1			1	4
	2	2						1	5
	2	2							4
	2				1			1	4
	1				1			1	3
1	3	1			2			1	8
1	2	1			2			1	7
					1				1
					1				1
	1				1			1	3
					1				1
	2				1				3
	1				1				2
2	23	5		1	9			5	45
2	15	4		1	9			3	34

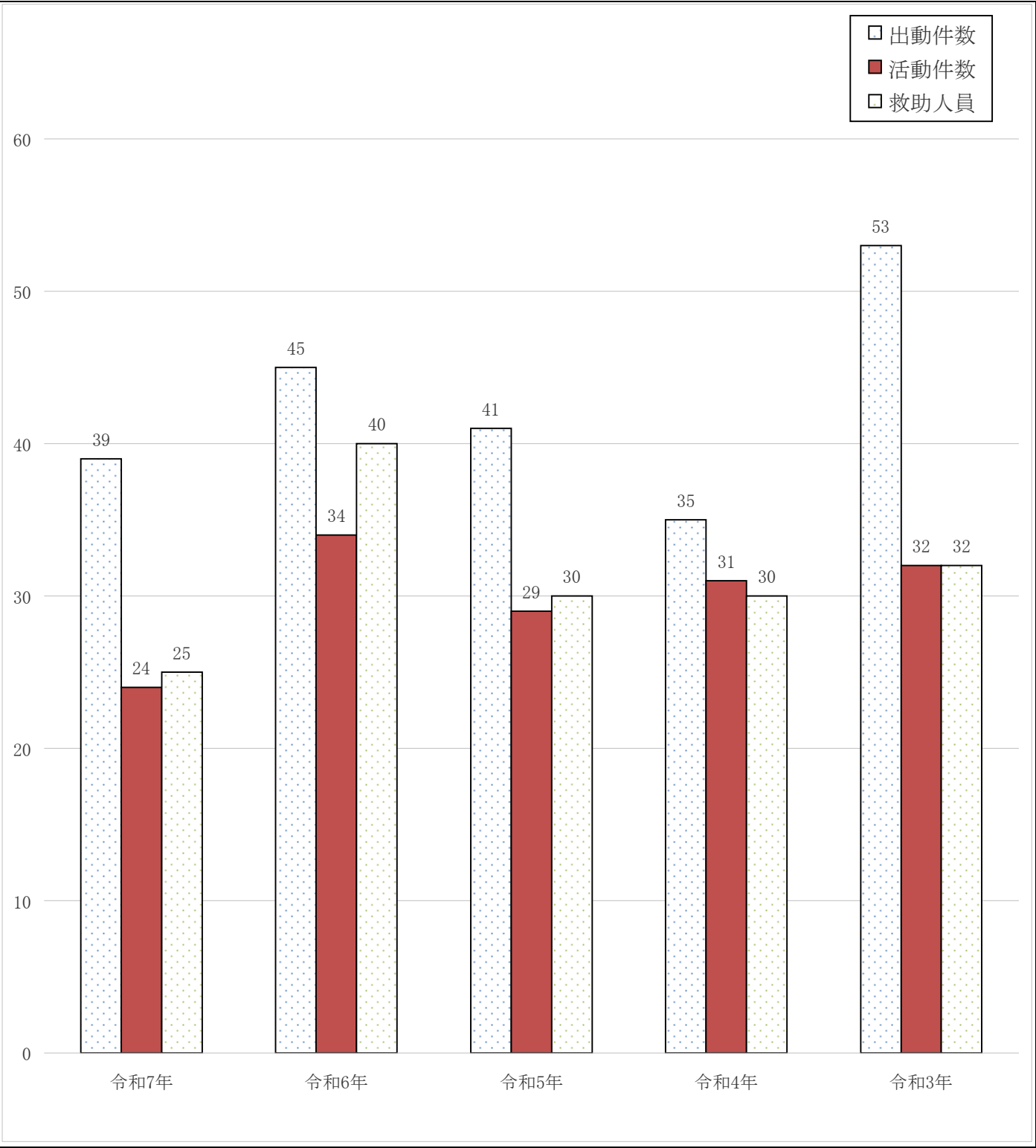
(5) 曜日・時間別出動件数

事故種別 計		火災	交通事故	水難事故	風水害等自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	計
			14	3		1	7			14	39
曜日	日曜日		2								2
	月曜日		5				3			2	10
	火曜日		2				2			2	6
	水曜日		3	1		1	1			2	8
	木曜日		1				1			2	4
	金曜日			2						2	4
	土曜日		1							4	5
時間	0 ～		1				1				2
	2 ～		1							1	2
	4 ～										
	6 ～						1				1
	8 ～		3	1			1			2	7
	10 ～		2							2	4
	12 ～						2			2	4
	14 ～			1			1			1	3
	16 ～		4			1				2	7
	18 ～		1				1			2	4
	20 ～		1							1	2
	22 ～		1	1						1	3

(6) 救助活動人員

年 区分	令和7年	令和6年
救助隊員	60	118
ポンプ隊員	49	100
その他の隊員	58	84
計	167	302

(7) 過去5年間の救助出動状況



Ⅲ 装備施設

1 装 備



消防ポンプ自動車（加賀4）令和7年3月山中分署配備

1 装 備

(1) 消防自動車保有状況

令和8年4月1日現在

所 属	車 名		登 録 番 号	登録年月日	ポ ン プ		備 考
					級 別	製 作	
消防本部	査 察 広 報 車	トヨタ	800 す 8 - 68	R3 . 3 . 9			防衛省交付金事業(再編)
	査 察 広 報 車	トヨタ	800 す 17	H30 . 3 . 8			防衛省交付金事業(9条)
	広 報 兼 原 因 調 査 車	日 産	800 さ 85 - 02	H24 . 12 . 26			防衛省交付金事業(再編)
	資 機 材 搬 送 車	三 菱	800 さ 85 - 57	H25 . 3 . 6			総務省消防庁貸与(緊援隊)
加賀市消防署	指 令 車	三 菱	800 さ 74 - 47	H21 . 2 . 23			日本消防協会寄贈
	ポ ン プ 車	日 野	830 さ 16 - 01	H28 . 1 . 15	A-2	長野ポンプ	防衛省補助事業(8条)
	小型動力ポンプ付水槽車	三 菱	88 た 10 - 14	H9 . 2 . 6	B-3	ラ ビ ッ ト	防衛省補助事業(8条)
	梯 子 車	日 野	800 は 5 - 82	H19 . 2 . 27			防衛省補助事業(8条)
	救 助 工 作 車	日 野	800 は 8 - 63	H29 . 2 . 22			防衛省補助事業(8条)
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	800 す 8 - 39	R3 . 1 . 28			防衛省補助事業(8条)
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	800 す 7 - 56	R2 . 10 . 6			緊急防災・減災事業債
	機 材 車	日 産	800 さ 92 - 06	H27 . 3 . 31			総務省消防庁貸与(消防団)
	機 材 車	トヨタ	800 す 14	H30 . 2 . 27			防衛省交付金事業(再編)
	機 材 車	スズキ	480 さ 53 - 56	R5 . 10 . 25			加賀ライオンズクラブ寄贈
大聖寺分署	ポ ン プ 車	日 野	800 す 5 - 97	R2 . 3 . 25	A-2	モ リ タ	緊急防災・減災事業債
	水 槽 付 ポ ン プ 車	日 野	800 は 7 - 48	H26 . 2 . 21	A-2	モ リ タ	総務省補助事業(緊援隊)
	高 規 格 救 急 車	日 産	830 さ 19 - 02	H31 . 2 . 26			防衛省補助事業(8条)
	広 報 車	トヨタ	800 さ 94 - 02	H28 . 1 . 12			防衛省交付金事業(再編)
片山津分署	ポ ン プ 車	日 野	800 す 13 - 22	R4 . 12 . 26	A-2	長野ポンプ	防衛省補助事業(8条)
	化 学 車	日 野	800 は 7 - 95	H27 . 3 . 4	A-2	日 本 機 械	防衛省補助事業(8条)
	広 報 車	三 菱	800 さ 93 - 89	H27 . 12 . 14			日本消防協会寄贈
山代分署	ポ ン プ 車	日 野	800 す 24 - 01	R6 . 2 . 13	A-2	長野ポンプ	緊急防災・減災事業債
	水 槽 付 ポ ン プ 車	日 野	800 は 7 - 91	H27 . 2 . 9	A-2	モ リ タ	防衛省交付金事業(再編)
	広 報 車	トヨタ	800 さ 94 - 03	H28 . 1 . 12			防衛省交付金事業(再編)
山中分署	ポ ン プ 車	日 野	830 す 25 - 02	R7 . 2 . 17	A-2	長野ポンプ	総務省補助事業(緊援隊) 過疎対策事業債
	水 槽 付 ポ ン プ 車	日 野	800 は 9 - 19	H30 . 12 . 14	A-2	日 本 機 械	過疎対策事業債
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	830 さ 24 - 10	R6 . 10 . 15			塩浜節子氏寄贈
	広 報 車	日 産	800 す 11 - 00	R4 . 2 . 3			日本消防協会寄贈
	機 材 車	スバル	480 う 91 - 93	H21 . 3 . 18			第4方面消友会寄贈

(2) 地域自衛消防隊小型動力ポンプ保有状況

所 属 分 団		No.	配 置 場 所	ポンプ名	型式名	製造番号	級別	取得年月
第 1 方 面	大 聖 寺 第 2 分 団	1	大 聖 寺 中 町	ラビット	P382S	1647	C－1	平成 15 年 5 月
	大 聖 寺 第 3 分 団	2	大 聖 寺 上 木 町 本 村	ラビット	P381SV	1632	C－1	平成 11 年 5 月
		3	大 聖 寺 上 木 町 出 村	ラビット	P382S	3138	C－1	平成 20 年 6 月
		4	大 聖 寺 錦 城 ケ 丘 町	ラビット	P380S	1238	C－1	平成 5 年 8 月
	橋 立 分 団	5	片 野 町	シバウラ	FT300	100210	C－1	平成 29 年 1 月
		6	黒 崎 町	シバウラ	FT300	102523	C－1	令和 2 年 12 月
		7	高 尾 町	ラビット	P380S	1144	C－1	平成 4 年 7 月
		8	深 田 町	ラビット	P380S	1584	C－1	平成 9 年 3 月
		9	宮 町	ラビット	P380S	1067	C－1	平成 3 年 6 月
		10	田 尻 町	ラビット	P455S	1925	B－3	平成 11 年 5 月
		11	小 塩 町	ラビット	P455	5347	B－3	平成 19 年 5 月
		12	橋 立 町	ラビット	P380S	1488	C－1	平成 7 年 9 月
	南 郷 分 団	13	南 郷 町	ラビット	P381S	1923	C－1	平成 12 年 6 月
		14	下 河 崎 町	ラビット	P380S	1058	C－1	平成 3 年 6 月
		15	上 河 崎 町	ラビット	P382S	1973	C－1	平成 16 年 6 月
		16	吸 坂 町	ラビット	P303	2877	C－1	昭和 53 年 6 月
		17	黒 瀬 町	ラビット	P328S	2895	C－1	平成 19 年 6 月
		18	保 賀 町	ラビット	P407RS	2508	B－3	平成 2 年 6 月
		19	中 代 町	ラビット	P380S	1603	C－1	平成 8 年 7 月
	三 木 分 団	20	奥 谷 町	ラビット	P380S	1582	C－1	平成 8 年 7 月
		21	三 木 町	ラビット	P381SV	1638	C－1	平成 11 年 5 月
		22	熊 坂 町	ラビット	P383M	301733	C－1	平成 24 年 6 月
		23	永 井 町	シバウラ	FT300	101402	C－1	平成 30 年 12 月
		24	吉 崎 町	シバウラ	FT300	101365	C－1	平成 30 年 12 月
	三 谷 分 団	25	直 下 町	ラビット	P382S	2339	C－1	平成 17 年 7 月
		26	日 谷 町	ラビット	P450M	2554	B－3	平成 7 年 7 月
		27	曾 宇 町	ラビット	P450M	3328	B－3	平成 9 年 7 月
		28	幸 町	ラビット	P303B	6829	C－1	昭和 57 年 9 月
		29	細 坪 町	シバウラ	FT300	101179	C－1	平成 30 年 8 月
		30	美 谷 が 丘	ラビット	P382S	1969	C－1	平成 16 年 5 月
	塩 屋 分 団	31	大 聖 寺 瀬 越 町	ラビット	P450S	1200	B－3	平成 3 年 6 月
		32	塩 屋 町	トーハツ	V20ES	3354	C－1	平成 20 年 10 月
合 計		32隊		B-3 6台 ／ C-1 26台				

所 属 分 団		No.	配 置 場 所	ポンプ名	型式名	製造番号	級 別	取得年月
第 2 方 面	作 見 分 団	1	松 が 丘	シバウラ	FT300	100722	C－1	平成 29 年 8 月
		2	西 山 田 町	ラビット	P407S	5214	B－3	昭和 58 年 7 月
		3	東 山 田 町	ラビット	P303B	9518	C－1	昭和 63 年 7 月
		4	弓 波 町	ラビット	P303B	7817	C－1	昭和 59 年 3 月
			富 塚 町					
		5	白 山 台	ラビット	P382S	1637	C－1	平成 15 年 5 月
	金 明 分 団	6	塩 浜 町	シバウラ	FT310	101043	C－1	令和 7 年 11 月
		7	篠 原 町	ラビット	P407S	2442	B－3	昭和 54 年 6 月
		8	篠 原 新 町	ラビット	P407S	4045	B－3	昭和 56 年 8 月
		9	千 崎 町	ラビット	P455DAN	7421	B－3	平成 28 年 5 月
		10	大 畠 町	シバウラ	FT310	100246	C－1	令和 6 年 5 月
		11	小 塩 辻 町	ラビット	P407AS	7782	B－3	昭和 61 年 6 月
		12	野 田 町	ラビット	P383S	302445	C－1	平成 28 年 3 月
		13	宮 地 町	ラビット	P450S	1040	B－3	平成 3 年 5 月
	湖 北 分 団	14	伊 切 町	ラビット	P407AS	7282	B－3	昭和 59 年 7 月
		15	柴 山 町	ラビット	P455BS	4753	B－3	平成 17 年 7 月
		16	新 保 町	シバウラ	FT300	101665	C－1	令和 元 年 6 月
	動 橋 分 団	17	合 河 町	ラビット	P383S	301841	C－1	平成 24 年 6 月
		18	中 島 町	ラビット	P382S	7623	C－1	平成 18 年 6 月
		19	動 橋 町	ラビット	P383S	302394	C－1	平成 27 年 9 月
		20	八 日 市 町	ラビット	P303BS	2180	C－1	平成 元 年 12 月
	分 校 分 団	21	箱 宮 町	ラビット	P407S	2128	B－3	昭和 54 年 6 月
		22	高 塚 町	ラビット	P380S	1723	C－1	平成 9 年 7 月
		23	打 越 町	トーハツ	V20FS	0366	C－1	令和 2 年 3 月
24		分 校 町	シバウラ	FT300	104082	C－1	令和 5 年 4 月	
合 計		24隊		B-3 9台 ／ C-1 15台				

所 属 分 団		No.	配 置 場 所	ポンプ名	型式名	製造番号	級別	取得年月	
第	山 代 第 1 分 団	1	桂 谷 町	ラビット	P380S	1583	C－1	平成 8 年 7 月	
		2	大 和 町	シバウラ	FT300	100546	C－1	平成 29 年 10 月	
3	山 代 第 2 分 団	3	河 南 町	ラビット	P383S	301436	C－1	平成 22 年 7 月	
		4	淀 町	ラビット	P380S	1143	C－1	平成 4 年 7 月	
	庄 分 団	5	西 島 町	ラビット	P380S	1602	C－1	平成 8 年 7 月	
		6	加 茂 町	ラビット	P380S	1240	C－1	平成 5 年 6 月	
		7	桑 原 町	ラビット	P407AS	7877	B－3	昭和 60 年 6 月	
		8	庄 町	ラビット	P303BS	2347	C－1	平成 2 年 6 月	
	方	勅 使 分 団	9	勅 使 町	ラビット	P380S	1969	C－1	平成 4 年 10 月
			10	松 山 町	ラビット	P328S	1314	C－1	平成 14 年 6 月
11			二 子 塚 町	ラビット	P380S	1311	C－1	平成 6 年 6 月	
12			宇 谷 町	ラビット	P380S	1147	C－1	平成 4 年 7 月	
13			栄 谷 町	ラビット	P381S	1168	C－1	平成 10 年 6 月	
面	東 谷 口 分 団	14	横 北 町	ラビット	P382S	2618	C－1	平成 18 年 6 月	
		15	塔 尾 町	ラビット	P303BS	2056	C－1	昭和 63 年 10 月	
			柏 野 町						
			須 谷 町						
合 計		15隊		B-3 1台 / C-1 14台					

所 属 分 団		No.	配 置 場 所	ポンプ名	型式名	製造番号	級別	取得年月
第 4 方 面	山 中 第 1 分 団	1	山 中 温 泉 我 谷 町	シバウラ	FT300M	102536	C－1	令和 2 年 10 月
		2	山 中 温 泉 栢 野 町	トーハツ	V20B	985	C－1	昭和 59 年
		3	山 中 温 泉 菅 谷 町	トーハツ	V2001	1332	C－1	平成 14 年
	山 中 第 2 分 団	4	山 中 温 泉 下 谷 町	ラビット	P383	302165	C－1	平成 26 年 5 月
		5	山 中 温 泉 こ お ろ ぎ 町	ラビット	P382S	2410	C－1	平成 17 年
	山 中 第 3 分 団	6	山 中 温 泉 塚 谷 町	ラビット	P383M	301582	C－1	平成 23 年 6 月
		7	山 中 温 泉 上 原 町	ラビット	P382M	2846	C－1	平成 19 年 6 月
		8	山 中 温 泉 中 田 町	ラビット	P382	2889	C－1	平成 19 年 6 月
		9	山 中 温 泉 長 谷 田 町	トーハツ	V2001	8031	C－1	平成 8 年
	山 中 第 4 分 団	10	山 中 温 泉 滝・中津原町	トーハツ	V2001	8483	C－1	平成 9 年
		11	山 中 温 泉 菅 生 谷 町	トーハツ	V15A	4549	C－1	昭和 55 年
		12	山 中 温 泉 今 立 町	ラビット	P380	1241	C－1	平成 5 年
		13	山 中 温 泉 荒 谷 町	ラビット	P380	1303	C－1	平成 5 年
		14	山 中 温 泉 大 土 町	ラビット	P380	1155	C－1	平成 4 年
合 計		14隊		C-1 14台				
総 合 計		85隊		B-3 16台 ／ C-1 69台				

2 水 利



公設防火水槽

(1) 地区別消防水利状況一覧表

令和8年4月1日 現在

水利別 方面／地区別		消 防 水 利		
		消 火 栓	防 火 水 槽	合 計
第1方面	大 聖 寺	307	54	361
	橋 立	105	25	130
	南 郷	145	23	168
	三 木	74	23	97
	三 谷	86	5	91
	塩 屋	29	4	33
	小 計	746	134	880
第2方面	片 山 津	150	15	165
	作 見	253	40	293
	金 明	79	31	110
	湖 北	73	22	95
	動 橋	114	24	138
	分 校	91	30	121
	小 計	760	162	922
第3方面	山 代	320	30	350
	別 所	55	5	60
	庄	107	11	118
	勅 使	86	21	107
	東 谷 口	44	10	54
	小 計	612	77	689
第4方面	西 谷	53	11	64
	温 泉	108	14	122
	河 南	135	28	163
	東 谷	24	4	28
	小 計	320	57	377
合 計		2,438	430	2,868

(2) 基準水利状況一覧表

令和8年4月1日現在

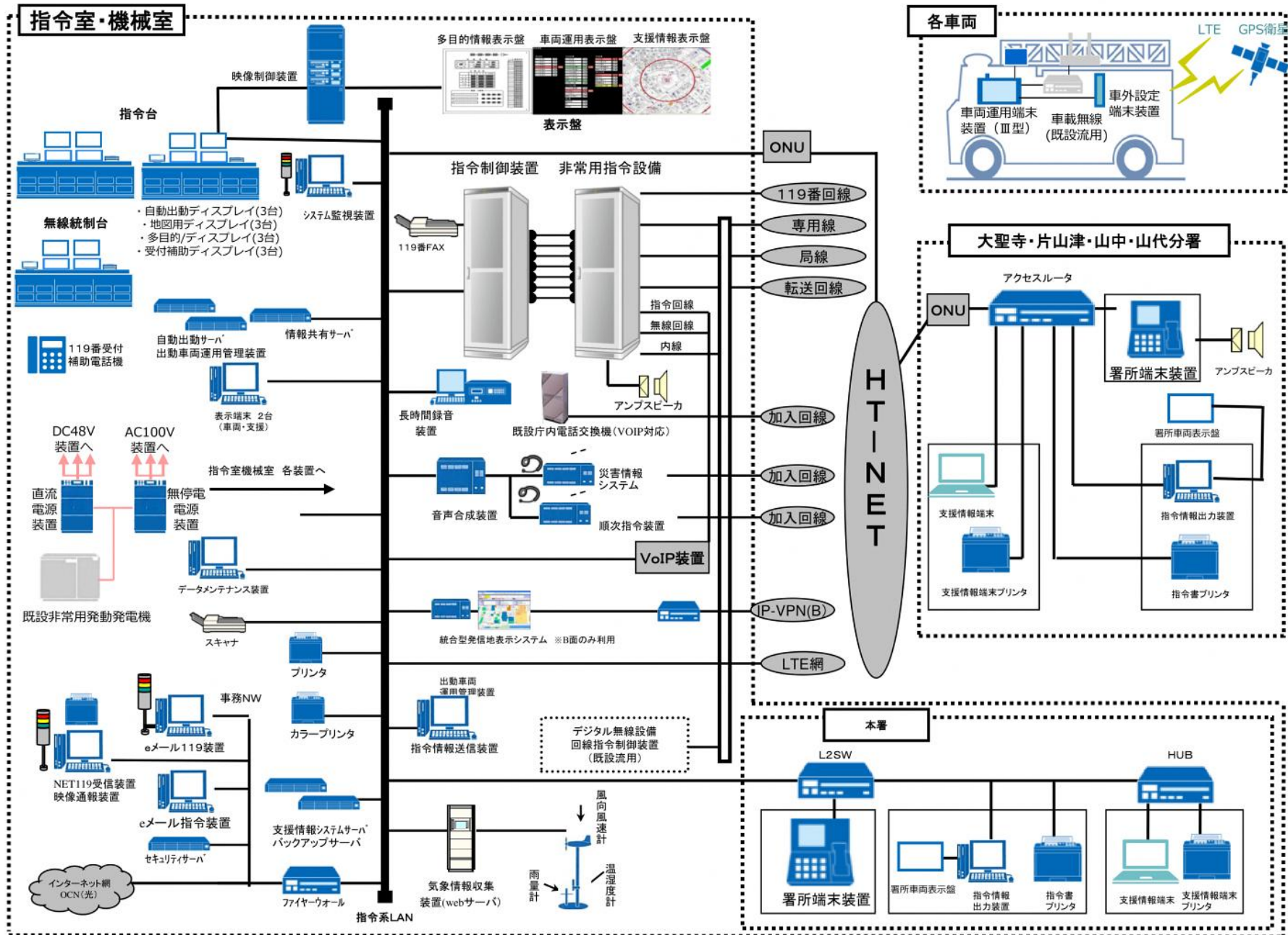
地域別		基準数合計	消火栓	消火栓以外	不足	充足率
加賀市全域		1,349	702	477	170	87
市街地	大聖寺地区	165	97	55	13	92
	片山津地区	264	132	94	38	86
	山代地区	149	99	33	17	89
	山中地区	124	64	50	10	92
準市街地	塩屋地区	40	23	14	3	93
	三木地区	58	31	24	3	95
	三谷地区	39	28	5	6	85
	南郷地区	54	22	17	15	72
	橋立地区	58	17	34	7	88
	金明地区	67	29	32	6	91
	湖北地区	68	28	27	13	81
	分校地区	60	25	25	10	83
	庄地区	86	59	18	9	90
	勅使地区	45	16	21	8	82
	東谷口地区	43	22	15	6	86
その他の地域		29	10	13	6	79

3 通信・気象

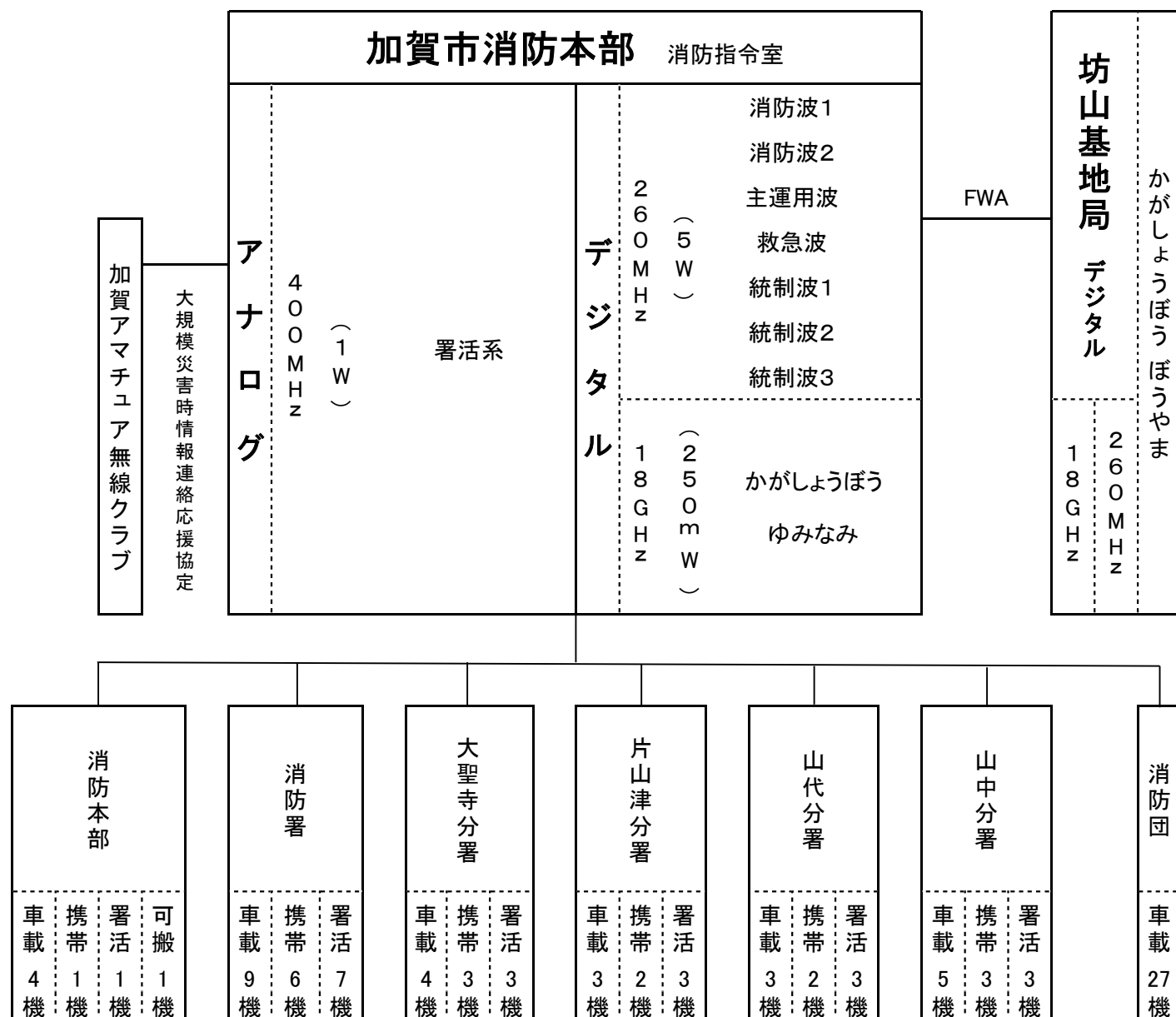


高機能消防指令システム
(令和7年10月更新整備)

高機能消防指令システム系統図



無線通信系統図



(1) 高機能消防指令システム機器概要

令和8年4月1日現在

施 設 名	数 量	施 設 の 内 容
無線統制台	1台	無線統制、管理監視制御卓により基地局設備を監視、遠隔装置、卓上型移動無線装置を装備
指令台	2台	119番受付から各署への出動指令、消防車、救急車の無線通信、医療機関等への連絡、災害事案の処理及び支援業務の操作が119番通報輻輳時にモード切替により4台で受付が可能
自動出動指定装置	3台	出動隊の自動編成・署所選択・自動指令・事案管理等指令システム自動化機能を制御
地図等検索装置	3台	災害地点決定までの検索、各種地図表示
多目的情報端末	3台	指令台・無線統制台に搭載し各種消防活動支援情報を表示
指令制御装置	1台	指令台の回線制御、データ制御
非常用指令設備	1台	指令制御装置と同等機能を有し指令制御装置障害発生時の自動切替
統合型位置情報通知装置	1式	携帯電話・IP電話・固定電話からの119番通報の発信位置受信、自動出動指定装置・地図等検索装置に表示
映像制御装置	1式	マトリックススイッチャ、映像信号分配器、録画再生装置、遠隔制御器
車両運用表示盤	1面	署所端末装置・出動車両運用管理装置と連動、車両運用状況を表示
支援情報表示盤	1面	指令制御装置・自動出動指定装置・気象情報収集装置と連動、各出動件数・119番受付件数・気象情報を表示
多目的情報表示盤	1面	災害地点・災害状況・地図検索装置・その他映像装置等の表示
システム監視装置	1式	指令システムの監視機能、障害発生時の通知機能
指令電送装置	1式	出動指令情報等のデータを消防ネットワークで署所へ伝送
署所端末装置	5式	災害出動指令の受令、トーン指令・電話機指令・放送指令を自動受令
出動車両運用管理装置	1式	車両動態・車両位置情報を自動指定出動装置・車両運用表示盤に反映
音声合成装置	1式	指令・案内メッセージの音声合成
順次指令装置	1式	災害発生時、消防職員・団員及び関係機関に順次電話呼び出しによる案内を行う
eメール指令装置	1式	送信依頼された指令情報を予め登録されている連絡先に対してメール送信を行う
FAX119受信装置	1式	119番通報受信用FAXとして指令台と連動
eメール119受信装置	1式	eメールを利用した緊急通報メールを受信し専用端末装置に表示
NET119受信装置	1式	WEB環境を利用した緊急通報を受信し専用端末装置に表示
映像通報装置	1式	通報者の端末に対して映像要請のSMSを送信し、通報者からの映像を専用端末装置に表示
災害状況等自動案内装置	1式	加入電話による災害・病院の問い合わせに対する自動音声案内
長時間録音装置	1台	119番通報・音声指令・無線交信等・指令台等で取り扱う全ての通話内容を自動及び手動制御で録音
気象情報収集装置	1式	各種気象情報自動観察・記録、指令システムとの連動
避雷設備	1式	商用電源から侵入する誘導雷サージあるいは接地雷サージによる破壊衝撃から指令システム設備を構成する各機器を保護
電源設備	1式	指令システム各装置の瞬断防止装置、無停電電源装置、直流電源装置、蓄電池設備より構成
消防ネットワーク機器	1式	高機能指令システム指令系LAN及び指令系WANを有機的に統合
駆け込み通報装置	5式	署所不在時や夜間等に発生する駆け込み通報に対して、消防指令室に接続
支援情報システム	1式	警防、予防、総務の各管理業務の事務の効率化、消防活動を支援するための装置

(2) 覚知別通報受信状況

令和7年1月1日～令和7年12月31日

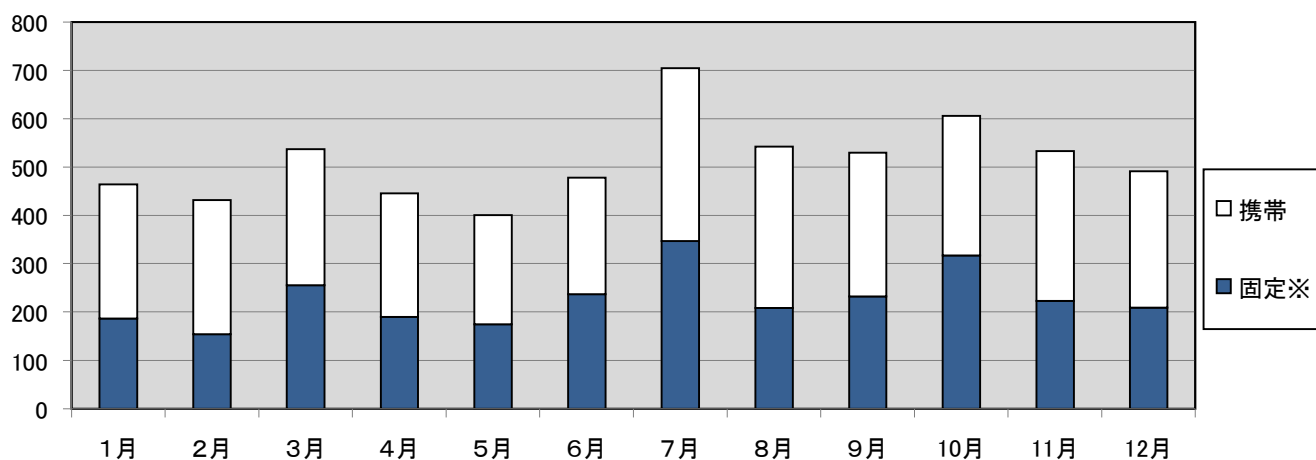
覚知種別 受付種別	119		加入電話 72-0119	駆付	専用		自己覚知	事後聞知	FAX 119	メール 119	NET 119	その他	合計
	固定※	携帯			警察	高速							
火 災	9	24	2			1						6	42
救 急	1,357	2,584	245	12	8	1	15	1				51	4,274
救 助	5	25	3		2								35
その他 災 害	19	38	30	2	8		10	1				2	110
間違い	158	241											399
いたずら	6												6
訓 練	498	115			2							2	617
試 験	605	152							24	27	11		819
問い合わせ	67	188										3	258
転送したとき	7	55											62
その他	3	7		1									11
合計	2,734	3,429	280	15	20	2	25	2	24	27	11	64	6,633

- ・火災、救急、救助、その他災害は再通報を含む。
- ・覚知種別その他：NET119、衛星電話、他消防本部から転送されたときなど。
- ・NET119は10月1日（運用開始）以降の件数。

(3) 119番月別通報受信状況

令和7年1月1日～令和7年12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固定※	186	154	256	190	175	237	347	208	232	317	223	209	2,734
携帯	278	278	281	255	226	241	357	334	298	289	310	282	3,429
合計	464	432	537	445	401	478	704	542	530	606	533	491	6,163



※固定件数にはI P電話からの入電件数も含まれています。

(4) 令和7年月別気象通報発令状況

種別 \ 月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
警 報	大 雨								1					1
	洪 水								1					1
	大 雪		1											1
	暴 風											1		1
	暴風雪											1		1
	波 浪	2	1									4		7
	高 潮													
注 意 報	大 雨						3	1	4	8	3	4		23
	洪 水							1	3	5	2	1		12
	大 雪	2	5							8				16
	強 風	6	3	7	6	3	2		2	5	7	6	12	59
	風 雪	4	5										2	11
	波 浪	7	6	3	1	3			1		4	4	11	39
	高 潮	1								1				5
	濃 霧			1	3		1							5
	雷	10	4	5	8	4	2	12	8	12	5	5	11	86
	乾 燥			5	4	5	3	3				5	1	26
	なだれ		4	2	1									7
	着 氷													
	着 雪	3	6										2	11
	融 雪			2	5									7
	霜			7	5	1						4		17
	低 温		3	1									1	5
	津 波													
火災気象通報		6	5	1										12
合 計		41	43	34	34	14	11	17	20	42	21	29	47	353

※梅雨入り6月10日 梅雨明け7月18日

(5) 令和7年月別気象状況

種別 \ 月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 / 平均値
風速 (m/s)	最 大	23.3	27.1	22.4	22.1	21.2	22.9	2.7	16.8	15.8	15.2	18.7	11.6	
	平 均	2.3	2.2	2.0	2.0	1.8	1.5	1.4	1.4	1.4	1.1	1.4	2.1	1.7
気温 (℃)	最 高	13.6	14.9	26.2	29.5	32.7	35.7	37.1	37.0	35.7	29.6	20.9	20.3	
	平 均	4.1	2.7	8.2	13.0	18.2	23.5	27.3	28.3	25.7	18.4	11.5	7.8	15.7
	最 低	-1.6	-3.7	-1.5	1.4	6.5	12.8	23.6	21.2	15.4	5.4	2.8	-1.0	
湿度 (%)	平 均	85.3	85.5	76.5	77.0	75.5	77.7	72.7	76.3	77.6	79.3	76.1	75.1	77.8
	最 低	33.6	80.6	26.6	17.4	16.3	27.4	36.0	36.5	39.0	39.0	30.4	30.8	
最 多 風 向		南	南西	東北東	南西	南南東	南西	北東	南西	南西	北東	南西	南	
降水量 (mm)	最大	249.0	179.0	136.5	79.5	97.0	146.0	46.0	143.0	207.0	232.5	158.5	235.5	
	合計	249.0	179.0	136.5	79.5	97.0	146.0	46.0	143.0	207.0	232.5	158.5	235.5	1,909.5

※ 加賀市消防本部独自のデータ

このページは意図的に空白にしています

IV 消防団



加賀市消防出初式

(1) 消防団組織一覧表

令和8年4月1日現在

分団名 / 階 級		団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
加 賀 市 消 防 団 本 部		1	4						5
第 1 方面	方 面 長		(1)						(1)
	大聖寺第1分団			1	2		3	8	14
	大聖寺第2分団			1	1		6	19	27
	大聖寺第3分団			1	1		3	7	12
	橋 立 分 団			1	1		3	10	15
	南 郷 分 団			1	1		3	11	16
	三 木 分 団			1	1		3	8	13
	三 谷 分 団			1	1		3	10	15
	塩 屋 分 団			1	1		3	10	15
	小 計		(1)	8	9	0	27	83	127
第 2 方面	方 面 長		(1)						(1)
	片 山 津 分 団			1	1		6	15	23
	作 見 分 団			1	1		3	8	13
	金 明 分 団			1	1		3	9	14
	湖 北 分 団			1	1		3	10	15
	動 橋 分 団			1	1		3	9	14
	分 校 分 団			1	1		3	9	14
第 3 方面	方 面 長		(1)						(1)
	山代第1分団			1	1		6	11	19
	山代第2分団			1	1		3	9	14
	庄 分 団			1	1		3	11	16
	勅 使 分 団			1	1		3	10	15
	東 谷 口 分 団			1	1		3	11	16
	小 計		(1)	5	5	0	18	52	80
第 4 方面	方 面 長		(1)						(1)
	山中第1分団			1	1		3	8	13
	山中第2分団 (山中温泉部)			1	1	1	4	17	25
	山中第2分団 (東 谷 部)					1			
	山中第3分団			1	1		6	20	28
	小 計		(1)	3	3	2	13	45	66
合 計		1	4	22	23	2	79	240	371

※()は兼務を表す。

(2) 年齢別消防団員数

令和8年4月1日現在

階級 年数区分	団 長	副団長	分団長	副分団長	部長	班 長	団 員	計
18歳～20歳								0
21歳～25歳							20	20
26歳～30歳							54	54
31歳～35歳						2	33	35
36歳～40歳				3		11	51	65
41歳～45歳			2	3		16	47	68
46歳～50歳			6	4	2	28	26	66
51歳～55歳			10	10		19	7	46
56歳～60歳		2	2	2		2	1	9
61歳 以 上	1	2	2	1		1	1	8
計	1	4	22	23	2	79	240	371
平 均 年 齢	62.0	59.8	52.1	49.7	49.0	46.9	36.4	40.5

(3) 在職年数別消防団員数

令和8年4月1日現在

階級 年数区分	団 長	副団長	分団長	副分団長	部長	班 長	団 員	計
～ 5年未満						1	89	90
5年～10年未満				2		5	70	77
10年～15年未満			1	3	1	19	47	71
15年～20年未満			3	8		26	30	67
20年～25年未満		1	7	5	1	19	3	36
25年～30年未満		1	8	5		6		20
30年以上	1	2	3			3	1	10
計	1	4	22	23	2	79	240	371

(4) 報酬等

(単位:円)

	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
年報酬	82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500
出動報酬	災害:8,000円/回 ・ 警戒:2,000円/回 ・ 訓練:2,000円/回 (災害で4時間以下の時:4,000円/回)						

(5) 退職団員在職年数

令和7年4月1日～令和8年3月31日

年数区分/階級	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
～ 5年未満							4	4
5年未満 ～ 10年未満							8	8
10年未満 ～ 15年未満							3	3
15年未満 ～ 20年未満			1			1	1	3
20年未満 ～ 25年未満						1	1	2
25年未満 ～ 30年未満			3			1		4
30年以上			1					1
合 計			5			3	17	25

(6) 退職報償金支給状況

令和7年4月1日～令和8年3月31日

年度	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計	支給総額	一人当たり(平均)	
	長	長	長	長	長	長	員			年数	支給額
令和3年度		1	2			3	4	10	3,439,000	13.6	343,900
令和4年度	1		2	1		2	7	13	5,405,000	17.2	415,769
令和5年度		1	5			6	11	23	9,430,000	17.6	410,000
令和6年度		2	5	4		6	8	25	11,012,000	18.0	440,480
令和7年度			5			3	13	21	7,879,000	15.6	375,190

(7) 分団車庫一覧表

所 属		項 目	所 在 地	種 別	構 造	面積(㎡)	建築年月
第1方面	方	大聖寺第1分団	大聖寺永町33-11	車 庫	木造瓦平屋建	68.3	平成21年 9月
		大聖寺第2分団	大聖寺南町口3-3	車 庫	鉄筋コンクリート造 2階建	142.7	平成24年 4月
		大聖寺第3分団	大聖寺下福田町1-2	車 庫	木造瓦平屋建	63.7	昭和63年11月
		橋立分団	橋立町は6	車 庫	木造瓦平屋建	59.6	平成17年12月
		南郷分団	上河崎町カ138-1	車 庫	木造瓦平屋建	55.3	昭和63年12月
		三木分団	三木町ト154-3	車 庫	木造GL2階建	71.4	令和2年 3月
		三谷分団	曾字町へ甲3-1	車 庫	木造瓦平屋建	59.6	平成10年 3月
		塩屋分団	塩屋町ハ7-3	車 庫	木造瓦平屋建	46.3	平成 6年 3月
第2方面	方	片山津分団	片山津温泉七1-32	車 庫	鉄骨造2階建	121.6	平成26年 3月
		作見分団	作見町口110-1	車 庫	木造瓦平屋建	63.3	平成25年 3月
		金明分団	小塩辻町1	車 庫	木造瓦平屋建	59.5	平成22年 2月
		湖北分団	柴山町ヨ64-1	車 庫	木造瓦平屋建	59.5	平成28年 3月
		動橋分団	動橋町ワ36-1	車 庫	木造GL平屋建	62.9	令和2年 3月
		分校分団	分校町ホ15-2	車 庫	木造瓦平屋建	59.5	平成16年12月
第3方面	方	山代第1分団	山代温泉桔梗丘3丁目47-2	車 庫	鉄骨造2階建	113.7	平成27年4月
		山代第2分団	別所町富士見丘12-4	車 庫	木造瓦平屋建	46.3	平成 2年12月
		庄分団	西島町カ148	車 庫	木造瓦平屋建	62.0	平成27年6月
		勅使分団	勅使町ル41-4	車 庫	木造瓦平屋建	49.7	昭和62年 3月
		東谷口分団	水田丸町ト108-3	車 庫	木造瓦平屋建	51.2	平成 5年 3月
第4方面	方	山中第1分団	山中温泉菅谷町へ60	車 庫	鉄骨瓦平屋建	38.5	平成8年11月
		山中第2分団 (山中温泉部)	山中温泉薬師町ム30	車 庫	鉄筋コンクリート造 3階建 旧庁舎内	433.0	昭和39年11月
		山中第2分団 (東谷部)	山中温泉中津原町ハ5-1	車 庫	鉄骨平屋建	27.5	昭和62年11月
		山中第3分団	山中温泉宮の杜1丁目5	車 庫	鉄骨瓦2階建	149.0	平成25年 5月

(8) 消防ポンプ車保有状況

令和8年4月1日現在

所 属		シ ャ シ	車両番号		ポンプ		登録年月日
					級別	製作所	
第1方面	大聖寺第1分団	イスズ	800	さ 93 - 62	A-3	モ リ タ	平成 27年 11月 12日
	大聖寺第2分団	イスズ	800	さ 77 - 58	A-2	日 本 機 械	平成 22年 3月 5日
		ニッサン	800	さ 82 - 72	(人員兼資機材搬送車)		平成 24年 3月 30日
	大聖寺第3分団	イスズ	800	さ 90 - 65	A-2	モ リ タ	平成 26年 11月 17日
	橋立分団	日 野	800	さ 82 - 71	A-2	日 本 機 械	平成 24年 3月 29日
	南郷分団	イスズ	800	さ 99 - 46	A-2	モ リ タ	平成 29年 12月 3日
	三木分団	イスズ	800	す 2 - 81	A-2	モ リ タ	平成 31年 3月 13日
	三谷分団	イスズ	800	さ 80 - 29	A-2	モ リ タ	平成 23年 3月 11日
第2方面	片山津分団	日 野	800	す 13 - 51	A-2	モ リ タ	令和 5年 2月 8日
		トヨタ	800	さ 88 - 32	(人員兼資機材搬送車)		平成 26年 2月 20日
	作見分団	日 野	800	す 12 - 47	A-2	モ リ タ	令和 4年 8月 29日
	金明分団	イスズ	800	さ 80 - 30	A-2	モ リ タ	平成 23年 3月 11日
	湖北分団	日 野	800	さ 85 - 75	A-2	モ リ タ	平成 25年 3月 22日
	動橋分団	日 野	800	す 48	A-2	モ リ タ	平成 30年 3月 29日
	分校分団	イスズ	800	さ 77 - 56	A-2	モ リ タ	平成 22年 3月 1日
第3方面	山代第1分団	イスズ	800	す 18 - 83	A-2	日 本 機 械	令和 6年 12月 5日
		トヨタ	800	さ 91 - 62	(人員兼資機材搬送車)		平成 27年 2月 24日
	山代第2分団	イスズ	800	さ 97 - 03	A-2	日 本 機 械	平成 29年 1月 26日
	庄分団	イスズ	800	さ 90 - 66	A-2	モ リ タ	平成 26年 11月 17日
	勅使分団	イスズ	800	す 8 - 48	A-2	モ リ タ	令和 3年 2月 9日
	東谷口分団	イスズ	800	す 5 - 33	A-2	モ リ タ	令和 2年 2月 14日
第4方面	山中第1分団	イスズ	800	さ 90 - 31	A-2	モ リ タ	平成 26年 10月 15日
	山中第2分団 (山中温泉部)	イスズ	800	す 10 - 01	A-2	モ リ タ	令和 3年 9月 7日
	山中第2分団 (東谷部)	イスズ	800	さ 96 - 87	A-2	モ リ タ	平成 29年 1月 17日
	山中第3分団	イスズ	800	す 5 - 34	A-2	モ リ タ	令和 2年 2月 14日
		ニッサン	800	さ 85 - 96	(人員兼資機材搬送車)		平成 25年 3月 28日

(9) 消防団出動状況

令和7年1月1日～令和7年12月31日

区 分	火 災	風水害	演習訓練等	広報・指導	特別警戒	捜 索	その他	合 計
出 動 回 数	5	0	95	6	41	0	16	163
出動延人員	122	0	5,526	146	2,602	0	742	9,138

参考

旧加賀市消防と旧山中町消防の沿革

旧加賀市消防のあゆみ

沿革史	
年次	内 容
明治初期	大聖寺町に鳶が設置される。鳶人足43名
明治 4 年 7 月 14 日	廃藩置県により大聖寺県を経て江沼郡となる。1町134ヶ村
明治 11 年 1 月	大聖寺町鳶を大聖寺町火消組の東組・西組の2組に編成する。組員106名
明治 15 年	動橋区に動橋村火消組が組員12名で設置される。
明治 21 年 9 月 5 日	塩屋村消防組が設置される。
明治 22 年 4 月 1 日	町村制が施行され、江沼郡1町134ヶ村を1町24ヶ村に統合する。 大聖寺町・塩屋村・瀬越村・三木村・福田村・三谷村・南郷村・黒崎村・橋立村 作見村・塩津村・篠原村・動橋村・分校村・山代村・庄村・勅使村・東谷口村 山中村・河南村・西谷村・東谷奥村・那谷村・矢田野村・月津村
明治 22 年 4 月 1 日	勅令15号により消防組規則2月9日発布、施行される。
明治 22 年 7 月 10 日	橋立区に橋立村消防組が設置される。
明治 24 年 1 月 5 日	山代区に山代村消防組が組員48名で設置される。
明治 24 年 頃	庄村に村全域を区域とした鳶人足の組織が設置される。
明治 25 年	動橋村に村全域を区域とした動橋村消防組が組織される。
明治 26 年 4 月	分校村に村全域を区域とした分校村消防組が組員30名で組織される。
明治 27 年 2 月 9 日	勅令により消防組規則が制定され、公設消防組の設置が促進される。
明治 27 年 5 月 27 日	山代村に公設山代村消防組が組員48名で創設される。
明治 27 年 6 月 1 日	塩屋村に公設塩屋村消防組が組員33名で創設される。
明治 27 年 7 月 16 日	動橋村に公設動橋村消防組が組員33名で創設される。
明治 27 年	片山津区に片山津消防組が設置される。
明治 28 年 1 月	大聖寺町に公設大聖寺町消防組が組員86名で創設される。
明治 29 年 5 月 27 日	庄村に公設庄村消防組が創設される。
明治 31 年 9 月 1 日	作見村に公設片山津消防組が組員38名で創設される。
大正 2 年 3 月 10 日	山代村が町制を施き、山代町消防組に改称する。
大正 2 年 12 月	大聖寺町消防組に郡内で初めて蒸気ポンプを購入する。
大正 4 年 8 月 21 日	南郷村に公設南郷村消防組が組員30名で創設される。
大正 6 年 11 月 8 日	篠原村に公設篠原村消防組が組員40名で創設される。
大正 6 年 12 月 25 日	三谷村に公設三谷村消防組が組員30名で創設される。
大正 7 年 1 月 25 日	勅使村に公設勅使村消防組が組員34名で創設される。
大正 7 年 3 月	橋立村に公設橋立村消防組が組員28名で創設され、県下では松任町に次いで二番目に手引ガソリンポンプを購入する。
大正 7 年 4 月 1 日	三木村に公設三木村消防組が組員33名で創設される。
大正 7 年 4 月 20 日	分校村に公設分校村消防組が組員34名で創設される。
大正 7 年 6 月 2 日	東谷口村に公設東谷口村消防組が組員30名で創設される。
大正 7 年 6 月 10 日	黒崎村に公設黒崎村消防組が組員32名で創設される。
大正 7 年 7 月 1 日	福田村に公設福田村消防組が組員30名で創設される。
大正 8 年 4 月 1 日	塩津村に公設塩津村消防組が組員38名で創設される。
大正 13 年 1 月 5 日	片山津温泉所が片山津・潮津区から独立、片山津温泉区消防組が設置される。
昭和 3 年 6 月 1 日	作見村・塩津村組合立の公設片山津温泉消防組が組員30名で創設される。
昭和 5 年 1 月 1 日	橋立村と黒崎村が合併し橋立村となり、新しく橋立村消防組に組織変更する。
昭和 6 年 7 月	大聖寺町消防組に郡内で初めてフォードのポンプ自動車を購入する。
昭和 9 年 2 月 24 日	大聖寺町消防組に常備員を採用する。毎日1名機関員として常駐する。
昭和 10 年 7 月 1 日	大聖寺町に福田村が編入合併、福田村消防組を大聖寺町消防組第5部とする。
昭和 14 年 3 月 31 日	勅令20号により警防令が公布にされ、郡内の消防組すべてが解散する。
昭和 14 年 4 月 1 日	勅令20号により警防団令施行される。 大聖寺町警防団が創設される。 定員251名、実員247名 塩屋村警防団が創設される。 定員 33名、実員 33名 三木村警防団が創設される。 定員 38名、実員 38名 三谷村警防団が創設される。 定員 34名、実員 38名 南郷村警防団が創設される。 定員 60名、実員 60名 橋立村警防団が創設される。 定員 40名、実員 40名 篠原村警防団が創設される。 定員 30名、実員 30名 動橋村警防団が創設される。 定員 39名、実員 42名 分校村警防団が創設される。 定員 34名、実員 34名 山代町警防団が創設される。 定員105名、実員102名

年 次	内 容
昭和 14 年 4 月 1 日	庄村警防団が創設される。 定員 30名、実員 34名 勅使村警防団が創設される。 定員 35名、実員 35名 東谷口村警防団が創設される。 定員 30名、実員 41名 作見村・塩津村組合立の片山津警防団を創設、旧片山津・片山津温泉・塩津消防組を各々分団とする。 定員119名、実員119名 瀬越村に初めて消防組織の瀬越村警防団を創設する。 定員30名、実員20名 大聖寺町警防団に常備部が創設される。 定員13名、実員10名内外 江沼郡消防組連合会を解散し、江沼郡警防団連合会が発足する。
昭和 17 年 10 月 25 日	庄村が山代町に編入合併し、山代町警防団に統合組織する。
昭和 17 年 11 月 3 日	作見村・塩津村が合併し片山津町が誕生、片山津警防団を片山津町警防団に組織改称する。
昭和 18 年 1 月 6 日	片山津町警防団に作見分団を創設し4ヶ分団とする。
昭和 19 年 6 月 1 日	片山津町警防団に常備員を4名採用する。毎日2名が機関員として常駐する。 山代町警防団に常備員を4名採用する。毎日2名が機関員として常駐する。
昭和 22 年 4 月 1 日	動橋村は町制を施行し、動橋町警防団に組織改称する。
昭和 22 年 4 月 30 日	勅令第18号により消防団令が施行され、警防団令が廃止される。
昭和 22 年 7 月 2 日	勅使村消防団に改組する。 定員 31名、実員 20名
昭和 22 年 7 月 24 日	塩屋村消防団に改組する。 定員 29名、実員 29名
昭和 22 年 8 月 7 日	三木村消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名
昭和 22 年 8 月 13 日	南郷村消防団に改組する。 定員 60名、実員 60名 動橋町消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名
昭和 22 年 9 月 1 日	片山津町消防団に改組し、塩津分団を新設し5ヶ分団とする。 定員152名、実員150名
昭和 22 年 9 月 9 日	大聖寺町消防団に改組する。 定員140名、実員108名
昭和 22 年 9 月 28 日	三谷村消防団に改組する。 定員 27名、実員 25名
昭和 22 年 9 月 29 日	山代町消防団に改組する。 定員 80名、実員 80名
昭和 22 年 10 月 1 日	東谷口村消防団に改組する。 定員 31名、実員 24名 分校村消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名 橋立村消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名 瀬越村消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名 篠原村消防団に改組する。 定員 30名、実員 30名
昭和 24 年 1 月 1 日	江沼郡警防団連合会を解散し、江沼郡消防団連合会が発足する。
昭和 27 年 6 月 10 日	橋立村が町制を施行し、橋立町消防団に組織改称する。
昭和 29 年 3 月 10 日	大聖寺町に瀬越村が編入合併し、瀬越村消防団を大聖寺町消防団第5分団と改組する。 定員140名、実員124名
昭和 29 年 4 月 1 日	片山津町に篠原村が編入合併し、篠原村消防団を片山津町消防団第6分団改組する。
昭和 29 年 11 月 3 日	動橋町が分校村を吸収合併し、動橋町消防団第1・第2分団に改組する。
昭和 30 年 1 月 5 日	山代町消防団に常備員8名を採用し常備部を創設する。
昭和 30 年 1 月 20 日	勅使村・東谷口村が山代町へ編入合併し、山代町消防団勅使・東谷口分団に改組する。
昭和 30 年 4 月 1 日	月津村柴山区が片山津町へ編入合併し、月津村消防団柴山分団を片山津町消防団第7分団に改組する。
昭和 31 年 4 月 1 日	片山津町消防団に常駐員8名を採用し常備部を創設する。 片山津町消防団常備部設置に伴い、片山津温泉・片山津・塩津分団を廃止し7ヶ分団を4ヶ分団に機構改革する。
昭和 33 年 1 月 1 日	加賀市制施行 大聖寺地区を第1消防団とし、10ヶ分団に編成する。 片山津地区を第2消防団とし、6ヶ分団に編成する。 山代地区を第3消防団とし、4ヶ分団に編成する。 分団総数20ヶ分団、団員総数532名 連合団長に北出秀雄氏が就任する。
昭和 33 年 4 月 1 日	加賀市消防本部を創設する。大聖寺・片山津・山代の各消防団常備部を消防署とし、消防長以下35名の職員を以って発足する。
昭和 33 年 5 月 1 日	初代消防長に林 理一氏が就任する。
昭和 35 年 6 月 1 日	加賀市消防団を一本化に整備統合し、旧団を各々第1・第2・第3方面とする。 初代団長に北出秀雄氏が就任する。 分団総数21ヶ分団、団員総数411名
昭和 35 年 6 月 1 日	消防本部の機構を改革する。 大聖寺消防署を加賀市消防署に、片山津消防署・山代消防署を片山津分署・山代分署に改組する。
昭和 37 年 5 月 1 日	二代消防長に須谷良達氏が就任する。

年 次	内 容
昭和 37 年 10 月 1 日	加賀市防火協会を創設する。初代会長に高山次郎氏が就任する。
昭和 38 年 10 月 2 日	消防職員の条例定数を 38 名に改正する。
昭和 39 年 4 月 1 日	消防団員の条例定数を 370 名に改正する。
昭和 39 年 11 月 8 日	加賀市消防署で任意により救急業務を開始する。 加賀市ライオンズクラブより救急車の寄贈を受ける。
昭和 39 年 12 月 25 日	消防職員の条例定数を 39 名に改正する。
昭和 41 年 3 月 29 日	消防職員の条例定数を 40 名に改正する。
昭和 41 年 4 月 1 日	山中町・小松市と消防救急応援協定を締結する。
昭和 42 年 1 月 20 日	加賀市に初めて化学消防車を購入し配備する。
昭和 42 年 3 月 29 日	消防職員の条例定数を 45 名に改正する。
昭和 42 年 11 月 3 日	元副団長 笹島武雄氏が叙勲、勲 5 等瑞宝章を受章する。
昭和 43 年 12 月 1 日	三代消防長に白方弘蔵氏が就任する。
昭和 45 年 6 月 23 日	消防職員の条例定数を 51 名に改正する。
昭和 46 年 12 月 25 日	加賀市に初めて 16m 級屈折消防ポンプ梯子車を購入、片山津分署に配備する。 (いすゞ TXG50 改 価格 12,750 千円)
昭和 47 年 3 月 24 日	消防職員の条例定数を 59 名に改正する。
昭和 47 年 4 月 1 日	別所町漆器団地に山代南部分団を新設し定員 15 名で発足する。 消防団員の定数を 376 名に改正する。
昭和 48 年 4 月 1 日	加賀市消防署救助隊を組織し隊員 10 名で発足する。
昭和 48 年 4 月 29 日	元三谷村消防団長 綿谷信一氏が叙勲、勲 6 等単光旭日章を受章する。
昭和 48 年 10 月 4 日	高速自動車国道北陸自動車道の消防救急応援協定並びに覚書を福井県丸岡町・福井県嶺北消防組合と締結する。
昭和 48 年 10 月 17 日	10月17日北陸自動車道の共用開始に伴い、県内 5 市町と高速自動車国道の消防救急業務応援協定並びに覚書を締結する。
昭和 49 年 2 月 20 日	消防団長 北出秀雄氏が藍綬褒章を受章する。
昭和 49 年 3 月 20 日	山代分署庁舎を 19 区から 11 区へ移転新築する。 (鉄筋コンクリート造 2 階建、延べ 455.5㎡・敷地面積 919㎡・工費 12,750 千円)
昭和 49 年 12 月 26 日	各署に分散配置の 119 番専用回線を消防本部へ統合、通信指令室を設け一斉指令装置を購入して通信施設の充実を図る。(工費 9,897 千円)
昭和 50 年 3 月 26 日	消防職員の条例定数を 60 名に改正する。
昭和 51 年 3 月 25 日	昭和 47 年 10 月 4 日 防衛施設庁協定の周辺地域防火水槽 41 基の内、2 基完成する。
昭和 51 年 5 月 31 日	福井県嶺北消防組合と消防相互応援協定を締結する。
昭和 51 年 6 月 18 日	二代消防団長に山岸喜平氏が就任する。
昭和 51 年 11 月 3 日	元三谷分団班長増村長治氏が叙勲、勲 7 等青色桐葉章を受章する。
昭和 52 年 4 月 8 日	三代消防団長に井村康一氏が就任する。
昭和 53 年 3 月 17 日	消防職員の条例定数を 68 名に改正する。
昭和 53 年 4 月 1 日	四代消防長に児玉千秋氏が就任する。消防職員数 65 名となる。
昭和 53 年 5 月 16 日	片山津分署庁舎を片山津町から手塚町へ移転新築する。 (鉄筋コンクリート造 2 階建 277.78㎡・敷地 1,040.8㎡・工費 32,200 千円)
昭和 53 年 6 月 2 日	片山津本部分団並びに山代本部分団に普通ポンプ自動車を購入し、全分団に消防車の配備を完了する。
昭和 53 年 7 月 21 日	消防団 8 ケ分団名を改称する。 大聖寺本部分団を大聖寺第 4 分団、片山津本部分団を片山津第 1 分団 片山津温泉分団を片山津第 2 分団、小塩辻分団を金明分団、柴山分団 を湖北分団、山代本部分団を山代第 1 分団、山代温泉分団を山代第 2 分団、山代南部分団を山代第 3 分団とする。
昭和 54 年 4 月 1 日	五代消防長に中島敏雄氏が就任する。消防職数 68 名となる。 条例改正により消防本部に課制度を施行する。総務課・消防課を設ける。
昭和 54 年 8 月 1 日	福井県坂井郡芦原町と消防相互応援協定を締結する。
昭和 55 年 4 月 1 日	加賀市消防本部組織に関する規則の一部改正により署長補佐制を施行する。 加賀市消防団に関する規則の一部改正により本部司令を廃止する。
昭和 55 年 9 月 30 日	加賀市消防署に初の小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型(10t 級)を配備する。 (消防庁補助事業 価格 18,860 千円)
昭和 55 年 10 月 1 日	加賀市婦人防火クラブ発足する。加賀市少年消防クラブ発足する。
昭和 55 年 10 月 8 日	消防本部庁舎完成により移転業務開始する。大聖寺分署を新設し一署三分署体制となる。
昭和 55 年 10 月 17 日	消防本部庁舎竣工する。(総工事費 415,191 千円 鉄筋コンクリート造 3 階建、 延べ 2,053.082㎡・敷地面積 5,108.557㎡)

年 次	内 容
昭和 55 年 11 月 3 日	元消防団本部司令 矢島 政氏が叙勲、勲 6 等単光旭日章を受章する。
昭和 56 年 4 月 29 日	元消防団本部司令福村喜作氏が叙勲、勲 7 等青色桐葉章を受章する。
昭和 56 年 9 月 30 日	加賀市消防署に初の救助工作車を購入配備する。(消防庁補助事業 価格 21,960千円)
昭和 56 年 11 月 3 日	元消防長 須谷良達氏が叙勲、勲 5 等瑞宝章を受章する。
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員の条例定数を 70 名に改正する。 三分署に配置体制の救急車を消防署に集め、救急・救助業務の集中配備体制をスタートする。
昭和 57 年 4 月 25 日	加賀市中央ロータリークラブよりショベルローター除雪車の寄贈を受け除雪体制が確立する。
昭和 57 年 7 月 30 日	消防本部庁舎に自家発電装置を設置する。(発電力 50 kW・工費 5,050千円)
昭和 57 年 10 月 1 日	加賀市幼年消防クラブ発足する。
昭和 58 年 1 月 5 日	市内 19ヶ所の消防サイレンに無線制御装置を設置し、難聴地域 4ヶ所にも消防サイレンを新設竣工する。(工費 15,500千円)
昭和 58 年 9 月 30 日	山代分署に小型動力ポンプ付水槽車 I 型(5 t 級)を配備する。(価格 14,950千円)
昭和 58 年 11 月 9 日	加賀市防火協会に財団法人日本防火協会より防火広報車(ワンボックス型 9 人乗り)の贈呈を受く。
昭和 59 年 3 月 28 日	元消防団長 北出秀雄氏が死去し死亡叙勲、勲 4 等瑞宝章を受章する。
昭和 59 年 4 月 1 日	六代消防長に西田雅博氏が就任する。
昭和 59 年 9 月 17 日	高速道金津インター共用開始に伴い、福井県嶺北消防組合と消防救急応援協定の一部改正を締結する。
昭和 60 年 1 月 30 日	消防指令装置(NEC・301E)B 型を更新整備する。(工費 18,000千円)
昭和 60 年 7 月 1 日	加賀アマチュア無線クラブ・山代ハムクラブと災害時の消防情報応援協定を締結する。
昭和 61 年 4 月 29 日	元消防団長 山岸喜平氏が叙勲、勲 6 等瑞宝章を受章する。
昭和 61 年 11 月 3 日	元橋立分団長 町出太郎氏が叙勲、勲 6 等瑞宝章を受章する。
昭和 62 年 1 月 27 日	片山津分署に当市で初めて CD-I 型の消防ポンプ車を購入配備する。 (防衛施設庁補助事業 価格 11,500千円)
昭和 62 年 11 月 15 日	救急車の更新整備で、初めて 4WD・II B 型を購入配備する。
昭和 62 年 11 月 30 日	救急専用無線波を初めて採用整備する。(工費 3,290千円)
昭和 62 年 12 月 15 日	消防署車庫の一部を増築する。(RC 造平屋建 147m ² 工事費 21,300千円)
昭和 63 年 11 月 3 日	元片山津第 1 分団長 大杉秀雄氏が叙勲、勲 6 等瑞宝章を受章する。
昭和 63 年 12 月 25 日	消防気象観測装置更新整備する。(価格 6,200千円)
平成 1 年 12 月 26 日	大型救助資器材を購入配備する。(県費補助事業 価格 5,932千円)
平成 2 年 4 月 1 日	消防職員の条例定数を 75 名に改正する。消防職員数 72 名となる。
平成 2 年 4 月 2 日	七代消防長に奥埜喜一氏が就任する。
平成 2 年 8 月 5 日	加賀市婦人防火クラブ創立 10 周年記念防火大会を開催する。 加賀市スポーツセンター・参加人員 1,300 名
平成 2 年 9 月 10 日	市役所別館竣工、大聖寺分署が別館の一角に移転し業務開始する。
平成 2 年 11 月 3 日	元大聖寺第 4 分団長 西村国次氏が叙勲、勲 7 等青色桐葉章を受章する。
平成 2 年 12 月 25 日	当市に初の 30 m 級梯子車を購入、消防署に配備する。 (消防庁補助事業 日産ディーゼル P-AZ 30D4WS 価格 92,494千円)
平成 3 年 4 月 1 日	消防職員数 74 名となる。
平成 3 年 5 月 15 日	加賀市防火協会創立 30 周年記念式典を開催する。加賀市文化会館、参加人員 170 名
平成 4 年 1 月 30 日	化学消防車を更新整備する。(防衛施設庁補助事業 価格 24,153千円)
平成 4 年 3 月 13 日	消防業務無線の周波数を加賀市単独周波数に切り換える。 (周波数 150.33MHZ. 工費 4,305千円)
平成 4 年 4 月 1 日	八代消防長に山下忠信氏が就任する。消防職員数 75 名となる。 消防団員の条例定数を 334 名に改正する。
平成 4 年 4 月 28 日	消防団長 井村康一氏が藍綬褒章を受章する。
平成 4 年 5 月 14 日	全国消防長会第 37 回救急委員会が片山津温泉で開催される。
平成 4 年 7 月 31 日	消防職員の条例定数を 85 名に改正する。
平成 4 年 10 月 1 日	加賀市財務オンラインシステムスタートし末端機稼動する。
平成 4 年 10 月 25 日	第 7 回国民文化祭が開催され皇太子殿下が来市される。
平成 4 年 11 月 3 日	元三谷分団長 車信一氏が叙勲、勲 6 等瑞宝章を受章する。
平成 4 年 11 月 30 日	消防団長 井村康一氏が死去し死亡叙勲、勲 5 等双光旭日章を受章する。
平成 4 年 12 月 25 日	四代消防団長に中野金治氏が就任する。
平成 5 年 4 月 1 日	消防職員数 79 名となる。
平成 5 年 9 月 13 日	救急車に初の防震担架を採用配備する。
平成 5 年 10 月 1 日	応急手当普及啓発活動を推進するため応急手当(普通・上級)講習会を開始する。
平成 5 年 10 月 13 日	救急救命士を養成開始、救急救命東京研修所へ職員を派遣する。

年 次	内 容
平成 5 年 10 月 27 日	第 10 回全国婦人消防操法大会に伊切町婦人消防隊が出場し、第 9 位に入賞する。
平成 5 年 11 月 18 日	自治体消防制度 45 周年記念式典に参加する。東京ドームへ職・団員 30 名を派遣する。
平成 6 年 4 月 1 日	消防職員数 83 名となる。
平成 6 年 7 月 29 日	救急訓練用生体シミュレーション 1 体購入整備する。 (価格 4,491 千円)
平成 7 年 1 月 18 日	1 月 17 日午前 5 時 46 分、阪神大震災発生 災害救助に応援隊 2 隊 11 名を派遣する。
平成 7 年 1 月 23 日	高規格救急車を新規購入整備する。 (トヨタ ハイメディック 4WD 消防庁補助事業 価格 34,711 千円)
平成 7 年 4 月 1 日	消防職員数 85 名となる。消防本部を総務課・予防課・消防課の三課制とする。
平成 7 年 8 月 27 日	日本消防協会より小型動力ポンプ積載車 1 台寄贈を受ける。
平成 7 年 8 月 29 日	石川県緊急消防援助隊発足のため加賀市消防防災援助隊編成する。
平成 7 年 11 月 3 日	元三谷分団長 水野栄七氏が叙勲、勲 7 等青色桐葉章を受章する。
平成 7 年 12 月 25 日	地震津波受発信装置設置される。 (消防庁補助事業 価格 12,978 千円)
平成 8 年 3 月 31 日	消防団全 22 ヶ分団の消防ポンプ自動車に消防無線機を設置する。 (消防庁補助事業 価格 11,330 千円)
平成 8 年 3 月 31 日	消防団全 22 ヶ分団に防災救助資機材 13 品目を整備する。 (消防庁補助事業 価格 25,527 千円)
平成 8 年 4 月 1 日	加賀市消防水難救助隊を組織し隊員 8 名で発足する。
平成 8 年 4 月 20 日	消防団員 44 名特殊無線技士養成講習、全員資格取得する。講習 2 日間
平成 8 年 6 月 9 日	加賀白山ロータリークラブより防災資機材運搬車両の寄贈を受ける。
平成 8 年 6 月 24 日	消防職員の条例定数を 94 名に改正する。
平成 8 年 7 月 1 日	加賀ケーブルテレビに消防情報提供サービス開始する。
平成 8 年 7 月 9 日	越前加賀みずといで湯の文化連邦災害時相互応援協定締結する。 山中町・福井県三国町・芦原町・金津町・丸岡町
平成 8 年 9 月 1 日	第 7 回加賀市防災総合訓練実施に伴い、友好都市災害時相互応援協定を締結する。 新潟県新発田市
平成 8 年 9 月 6 日	石川県下 8 市災害時の相互応援協定を締結する。
平成 8 年 11 月 1 日	石川県航空消防防災準備室員に 1 名を派遣する。
平成 9 年 1 月 7 日	ロシアタンカー重油漂着事故発生。加賀市対策本部を設置する。
平成 9 年 2 月 4 日	救助工作車を更新整備する。(Ⅱ型 日野 消防庁補助事業 価格 49,852 千円)
平成 9 年 2 月 6 日	大型水槽車(10 t 級)を更新整備する。(三菱 防衛施設庁補助事業 価格 27,089 千円)
平成 9 年 4 月 1 日	五代消防団長に辻 治重氏が就任する。消防職員数 88 名となる。
平成 9 年 4 月 22 日	石川県消防防災航空隊、ヘリコプターが就航する。
平成 9 年 4 月 27 日	ロシアタンカー重油流出事故加賀市対策本部を解散する。
平成 9 年 11 月 3 日	元団長 中野金治氏が叙勲、勲 5 等瑞宝章を受章する。
平成 9 年 12 月 25 日	高規格救急車購入整備する。(日産 消防庁補助事業 価格 28,980 千円)
平成 10 年 2 月 2 日	消防本部、各分署の代表電話番号を「△△-0119」に統一変更する。
平成 10 年 4 月 1 日	九代消防長に谷本直人氏が就任する。消防職員数 90 名となる。 携帯電話からの 119 番通報を小松市消防本部経由で受付開始する。
平成 10 年 4 月 29 日	元三木分団班長 水口清次氏が叙勲、勲 7 等青色桐葉章を受章する。
平成 10 年 5 月 17 日	自治体消防制度施行 50 周年記念石川県式典が石川県産業展示館で開催される。
平成 10 年 5 月 23 日	手取川・梯川連合水防演習が実施される。手取川簡易グラウンド 団員 80 名参加
平成 10 年 6 月 14 日	自治体消防 50 周年記念パレードに消防車 5 台参加する。
平成 10 年 8 月 25 日	全国農業青年交換大会が開催され、皇太子殿下・同妃殿下が来市される。 株式会社大同工業・奥谷梨田地視察
平成 10 年 10 月 30 日	緊急消防援助隊近畿中部ブロック訓練が福井県で実施、消火隊 1 隊参加する。
平成 11 年 1 月 10 日	加賀市消防出初式の日程を従来の 1 月 6 日から 1 月 4 日以降の最初の日曜日と改定する。
平成 11 年 2 月 26 日	消防本部庁舎一部を増築する。(増改築工事費 189,420 千円 増築 鉄筋コンクリート造 3 階建 敷地面積 485㎡・延べ 2,834㎡)
平成 11 年 4 月 1 日	県下初の女性消防士 1 名誕生する。消防職員数 94 名となる。
平成 11 年 5 月 30 日	北陸高速自動車国道石川県消防協議会主催の救急救助訓練が、尼御前サービスエリア上り線付近で初めて本線を使用して実施される。参加車両台数 44 台 参加人員 150 名
平成 11 年 6 月 21 日	加賀市施行 40 周年記念事業「加賀市消防のあゆみ」刊行する。
平成 11 年 8 月 2 日	加賀市連合消友会設立。初代連合消友会会長に中野金治氏が就任する。
平成 11 年 10 月 1 日	消防課(通信指令室専従員) 2 名増員し 10 名とする。
平成 11 年 10 月 19 日	全職員を対象に「危機管理対策研修会」を開催する。
平成 11 年 11 月 24 日	山代第 1 分団車を更新整備する。(消防庁補助事業 価格 15,173 千円)
平成 11 年 12 月 6 日	全職員を対象に「市長講話」が開催される。

年 次	内 容
平成 11 年 12 月 31 日	コンピューター西暦 2 0 0 0 年問題危機管理対策本部が設置される。
平成 12 年 1 月 31 日	消防団緊急伝達システム整備する。（消防庁補助事業 価格 28,350千円）
平成 12 年 2 月 24 日	全職員を対象に「ストレッチング講習会」を開催する。
平成 12 年 3 月 29 日	全職員を対象に「セクシャルハラスメント講習会」を開催する。
平成 12 年 3 月 31 日	消防緊急通信指令システムを整備する。（防衛施設庁補助 価格 151,725千円）
平成 12 年 5 月 16 日	平成11年度事業で防火水槽を 3 基新設する。大聖寺西町・千崎町・山代温泉10区
平成 12 年 9 月 19 日	元大聖寺第 4 分団長 油谷喜作氏が叙勲、勲 6 等瑞宝章を受章する。
平成 12 年 10 月 10 日	加賀白山ロータリークラブ創立 5 周年で超微粒子噴霧消毒機の寄贈を受ける。
平成 12 年 10 月 16 日	平成 1 2 年度石川県防災総合訓練・中部 7 県緊急援助隊訓練が実施される。
平成 12 年 11 月 15 日	北陸自動車道で塩化メチル（液化クロルメチル）積載車両横転事故が発生する。
平成 12 年 12 月 3 日	片山津第 2 分団車を更新整備する。（防衛施設庁補助 価格 15,015千円）
平成 12 年 12 月 13 日	加賀市婦人防火クラブ創立 2 0 周年記念防火大会が開催される。
平成 13 年 1 月 15 日	消防本部庁舎発電機を更新整備する。（価格 11,309千円）
平成 13 年 1 月 24 日	降雪が多く市災害（雪害）対策本部が設置される。
平成 13 年 2 月 8 日	熊坂町国道 8 号線で危険物（トリクロロシラン）積載車両漏洩事故が発生する。
平成 13 年 4 月 1 日	日本消防協会より防災広報車の贈呈を受ける。排気量1,800cc、ステーションワゴン）
平成 14 年 4 月 1 日	十代消防長に山本瑞夫氏が就任する。
平成 15 年 2 月 14 日	2 人目の女性消防士が誕生する。消防職員数 9 2 名となる。
平成 15 年 3 月 5 日	十一代消防長に下口昭氏が就任する。
平成 15 年 4 月 1 日	平成 6 年度新規配備の高規格救急車を更新整備する。
平成 15 年 11 月 1 日	（日産 4 WD 防衛施設庁補助事業 価格 25,100千円）
平成 16 年 4 月 1 日	金沢信用金庫から救急応急手当講習会及び救助活動用の資機材寄贈を受ける。
平成 16 年 4 月 29 日	市機構改革に伴い消防本部を消防総務課、予防課の二課制とし、通信指令室を消防署の配属とする。
平成 16 年 11 月 3 日	十二代消防長に松村勇一氏が就任する。
平成 17 年 4 月 1 日	市機構改革に伴い消防本部の消防総務課、予防課を統合し、消防課とする。
平成 17 年 4 月 1 日	自治体消防制度 5 5 周年記念式典に参加する。東京ドームへ職・団員 2 0 名を派遣する。
平成 17 年 9 月 30 日	消防職員数 9 0 名となる。
	元消防司令長 野田昭男氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
	元消防司令長 岩上正雄氏が危険業務従事者叙勲、瑞宝単光章を受章する。
	六代消防団長に川下 勉氏が就任する。
	加賀市・山中町の合併に伴う消防団統合検討委員会を組織する。
	加賀市を廃止する。

旧加賀市の歴代消防長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	林 理 一	昭和 33 年 5 月 1 日	昭和 35 年 5 月 31 日	
一	山 田 清次郎	昭和 35 年 6 月 1 日	昭和 37 年 4 月 30 日	市助役兼任
二 代	須 谷 良 達	昭和 37 年 5 月 1 日	昭和 43 年 3 月 31 日	
一	山 田 清次郎	昭和 43 年 4 月 1 日	昭和 43 年 11 月 30 日	市助役兼任
三 代	白 方 弘 蔵	昭和 43 年 12 月 1 日	昭和 53 年 3 月 31 日	
四 代	児 玉 千 秋	昭和 53 年 4 月 1 日	昭和 54 年 3 月 31 日	
五 代	中 島 敏 雄	昭和 54 年 4 月 1 日	昭和 59 年 3 月 31 日	
六 代	西 田 雅 博	昭和 59 年 4 月 1 日	平成 2 年 4 月 1 日	
七 代	奥 埜 喜 一	平成 2 年 4 月 2 日	平成 4 年 3 月 31 日	
八 代	山 下 忠 信	平成 4 年 4 月 1 日	平成 10 年 3 月 31 日	
九 代	谷 本 直 人	平成 10 年 4 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日	
十 代	山 本 瑞 夫	平成 13 年 4 月 1 日	平成 14 年 3 月 31 日	
十一代	下 口 昭	平成 14 年 4 月 1 日	平成 15 年 10 月 31 日	
十二代	松 村 勇 一	平成 15 年 11 月 1 日	平成 17 年 9 月 30 日	

旧加賀市の歴代消防団長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	北 出 秀 雄	昭和 33 年 1 月 1 日	昭和 51 年 6 月 13 日	
二 代	山 岸 喜 平	昭和 51 年 6 月 18 日	昭和 52 年 3 月 25 日	
三 代	井 村 康 一	昭和 52 年 4 月 8 日	平成 4 年 11 月 30 日	
四 代	中 野 金 治	平成 4 年 12 月 25 日	平成 9 年 3 月 31 日	
五 代	辻 治 重	平成 9 年 4 月 1 日	平成 17 年 3 月 31 日	
六 代	川 下 勉	平成 17 年 4 月 1 日	平成 17 年 9 月 30 日	

旧山中町消防のあゆみ

年 次		内 容
慶応 元 年	(1865年)	村火消として「イ組・ロ組」の二組に分け、組織する。
明治 18 年	3 月 20 日	手押ポンプ 1 台を購入後、山中消防組を組織する。
明治 24 年		消防記念碑を建立する。(現在、東山神社横)
明治 31 年	3 月 26 日	県令 2 8 号を以て、消防組規則及び施行細則公布と同時に新式飛行機型ガソリンポンプ車 1 台及び組員 5 0 名を以て組織編成する。
大正 9 年	1 月 14 日	鎮火祭、左義長が復活する。
大正 9 年	5 月	鈴木式 2 5 馬力ロータリーポンプ車を購入する。
大正 14 年	9 月	小沢式 1 2 馬力ロータリーポンプ車を購入する。
大正 14 年	10 月	消防互助会を設置する。
大正 15 年		予算において組員退職慰労金を申請し、1 0 年以上の勤続者に対して実施する。
昭和 2 年	4 月	組の編成替を申請し部制の認可を得て小頭 1 名増員する。
昭和 3 年	6 月	鉄骨望火台を建立し、消防紀功碑を移転再建する。(現在の薬師町)
昭和 4 年		消防手 1 0 名増員する。
昭和 6 年	5 月 7 日	山中温泉街大火となる。(焼失戸数852棟、損害額6,000千円、り災組員41名)
昭和 6 年	12 月	レオー 8 5 馬力ポンプ自動車を購入する。
昭和 7 年	5 月	小頭 2 名増員し消防組を 3 部制とする。(組員61名)
昭和 7 年	6 月	昭和 6 年の大火で焼失したポンプ置場等を新築し、不足各機具の充実に努める。
昭和 8 年		退職幹部及び組員を以て、予備消防隊を編成する。
昭和 10 年	5 月	インターナショナルポンプ自動車(8 5 馬力)を購入する。
昭和 11 年	5 月	西谷村字枯淵大火となる。
昭和 11 年	6 月	フォードトラック自動車を購入、鈴木ガソリンポンプ積載自動車を製作する。
昭和 13 年	5 月 22 日	東谷奥村字大土大火となる。
昭和 14 年	1 月 24 日	勅令第 2 0 号を以て、警防団令施行する。
昭和 14 年	3 月 8 日	県令第 6 2 号を以て、警防団令施行規則制定する。
昭和 14 年	4 月 1 日	山中町警防団創設する。
昭和 16 年	12 月	湯の出町の漆器産業陳列館一階を警防団本部とする。
昭和 20 年	8 月 25 日	山中海軍病院より、イスズ・ポンプ自動車を譲り受ける。
昭和 21 年	5 月 15 日	山中町警防団常備部当番司令以下 7 名で発足する。
昭和 22 年	4 月 30 日	勅令第 1 8 号を以て、消防団令施行する。
昭和 22 年	10 月 2 日	1 団・4 ケ分団の団員 7 1 名により、山中町消防団発足する。
昭和 24 年	6 月 4 日	1 ケ分団増設し、消防ポンプ自動車長野二段式タービン車を購入し配置する。
昭和 26 年	5 月 7 日	本年より、大火記念日に町内自衛消防隊消火栓放水競技大会を実施する。
昭和 29 年	12 月 1 日	現在の薬師町に消防団庁舎を新築する。(木造 2 階建、延べ231㎡、工費750千円)
昭和 30 年	4 月 1 日	豊田式小型四輪自動車ポンプを購入する。
昭和 30 年	4 月 1 日	町村合併促進法に基づき、1 町 3 村が合併し山中町となる。(山中町、河南村、西谷村、東谷奥村)
昭和 30 年	4 月 28 日	山中町消防本部を設立し、町長 田向 一太郎氏を職務執行者として消防長とし、署長以下 8 名にて消防署も発足する。(消防司令長 1 名・消防士長 2 名・消防士 6 名)
昭和 30 年	5 月 5 日	山中町消防団が、町村合併による消防団の統合により、1 団 6 ケ分団 1 1 4 名にて編成する。
昭和 30 年	5 月 5 日	初代消防団長 新井 長作氏が就任する。
昭和 32 年	9 月	消防長事務取扱 町長 尾野 彦次郎氏が就任する。
昭和 35 年	10 月 14 日	消防専用中短波無線電話基地局 1・移動局 2 で開設する。
昭和 38 年	1 月	第二代消防団長 田守 正哉氏が就任する。
昭和 38 年	4 月 1 日	3 8 豪雪となる。
昭和 38 年	4 月 1 日	全国消防長会に加入する。
昭和 39 年	11 月 25 日	薬師町ム30番地に消防庁舎を新築する。(鉄骨コンクリート 3 階建、延べ433㎡、工費13,213千円)
昭和 40 年	5 月 12 日	全国消防長会東近畿支部に加入する。
昭和 41 年	11 月 18 日	屈折梯子付ポンプ自動車 1 5 m 級を購入し、消防署に配置する。(8,670千円)
昭和 41 年	11 月 18 日	日本損害保険協会より、消防ポンプ自動車が寄贈され消防署に配置する。
昭和 42 年	5 月 5 日	消防長事務取扱 町長 桂田 又作氏が就任する。
昭和 42 年	9 月 30 日	消防職員を 6 名増員し、定員 1 4 名とする。
昭和 43 年	7 月 1 日	消防職員を 2 名増員し、定員 1 6 名とする。
昭和 43 年	5 月	石川県より救急車が寄贈され、消防署に配置する。
昭和 43 年	8 月	小型動力ポンプ 1 台を滝・中津原器具庫に配置する。
昭和 43 年	9 月	消防ポンプ自動車 1 台を購入し、消防署に配置する。
昭和 45 年	3 月 16 日	消防職員を 2 名増員し、定員 1 8 名とする。

年 次	内 容
昭和 46 年 5 月 5 日	消防長事務取扱 町長 山田 耕造氏が就任する。
昭和 46 年 11 月	超短波無線機 2 基購入し、屈折梯子車・第 2 分団車に配置する。
昭和 46 年 12 月 26 日	消防ポンプ自動車及び小型動力ポンプを購入し、第 5 分団に配置する。(3,150 千円)
昭和 47 年 9 月 5 日	消防ポンプ自動車を購入し、第 4 分団に配置する。(3,190 千円)
昭和 49 年 3 月 23 日	消防職員を 2 名増員し、定員 20 名とする。
昭和 49 年 3 月 30 日	消防ポンプ自動車及び小型動力ポンプを購入し、第 1 分団に配置する。(4,580 千円)
昭和 49 年 5 月	四輪駆動車を購入し、指令車として消防本部に配置する。(1,550 千円)
昭和 49 年 6 月 7 日	国の基準に基づく救急車を購入し、消防署に配置する。(2,640 千円)
昭和 50 年 10 月	上原漆器工業団地に資材器具庫を新築する。
昭和 51 年 9 月 16 日	河南地区に第 6 分団を発足。消防ポンプ自動車を購入し、第 6 分団に配置する。(5,280 千円)
昭和 52 年 3 月 23 日	消防職員 3 名増員し、条例定員 23 名とする。
昭和 53 年 12 月 23 日	消防ポンプ自動車を購入し、第 3 分団に配置する。
昭和 54 年 2 月 22 日	消防職員 1 名増員し、条例定員 24 名とする。
昭和 55 年 8 月 29 日	(財)日本消防協会より救急車が寄贈され、消防署に配置する。
昭和 55 年 9 月 2 日	消防ポンプ自動車を購入し、第 2 分団に配置する。
昭和 55 年 10 月 29 日	山中町少年婦人防火クラブ委員会を創設する。
昭和 55 年 10 月 30 日	枯淵町・片谷町婦人防火クラブを発足する。
昭和 55 年 11 月 1 日	山中幼稚園幼年消防クラブを発足する。
昭和 56 年 10 月 30 日	四十九院町婦人防火クラブを発足する。
昭和 56 年 12 月 8 日	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車が寄贈され、消防署に配置する。(14,000 千円)
昭和 57 年 4 月 1 日	山中町連合婦人少年幼年消防クラブを発足する。
昭和 57 年 4 月 29 日	消防団団長 田守 正哉氏が、藍綬褒章を受章する。
昭和 58 年 2 月 12 日	山中町西桂木町ヌ 17 番地の 2 に消防庁舎を新築する。 (鉄筋 3 階建、延べ 1,110.82 m ² 、工費 196,000 千円)
昭和 58 年 5 月 5 日	消防長事務取扱 町長 上出 弘氏が就任する。
昭和 58 年 9 月 1 日	水力発電施設周辺地域県費交付金にて指令車を購入し、消防本部に配置する。(2,930 千円)
昭和 58 年 10 月 1 日	山中・河南・若美弥保育所幼年消防クラブを発足する。
昭和 59 年 4 月 1 日	全国消防協会に加入する。
昭和 59 年 4 月 29 日	元消防団 第 2 分団分団長 江野 外義氏が、勲七等青色桐葉章を受章する。
昭和 60 年 4 月 1 日	上原漆器団地少年消防クラブを発足する。
昭和 60 年 4 月 29 日	元消防団 第 2 分団分団長 出口 國松氏が、勲七等青色桐葉章を受章する。
昭和 60 年 8 月 8 日	(財)日本消防協会より広報車が寄贈され、消防本部に配置する。(1,100 千円)
昭和 60 年 11 月 9 日	国庫補助により 16m 級屈折梯子付消防ポンプ自動車を更新する。(43,400 千円)
昭和 61 年 9 月 12 日	防災まちづくり事業により、加美谷台地区に第 4 分団車庫を新築する。(2,950 千円)
昭和 61 年 12 月 12 日	小型動力ポンプを購入し、日の出団地に配置する。
昭和 62 年 6 月 5 日	(財)日本防火協会より、山中町連合婦人少年幼年消防クラブに防火号が寄贈される。
昭和 62 年 11 月 30 日	防災まちづくり事業により、中津原町に第 5 分団車庫を新築する。(2,700 千円)
昭和 63 年 12 月 8 日	国庫補助により、救助資機材を購入する。(5,980 千円)
平成 元年 3 月 8 日	国庫補助により、消防ポンプ自動車 BD-I 型を購入し、消防署に配置する。(9,600 千円)
平成 元年 4 月 29 日	元消防団 第 6 分団 分団長 中山 重信氏が、勲六等瑞宝章を受章する。
平成 元年 12 月 22 日	消防職員 2 名増員し、条例定員 26 名とする。
平成 2 年 2 月 9 日	水力発電施設周辺地域県費交付金により、消防ポンプ自動車 BD-I 型を購入し、第 4 分団に配置する。(9,400 千円)
平成 3 年 2 月 5 日	災害用軽貨物車を購入し、消防署に配置する。(810 千円)
平成 3 年 3 月 30 日	下谷町元新家別邸より、手引消防ポンプ車(大正 15 年フォード製ガソリンエンジン、鈴木式ポンプ)が寄贈され、復元修理し、大火記念資料として展示する。(600 千円)
平成 3 年 7 月 8 日	(財)自治総合センターより補助を受け、訓練用消火標的を購入する。(600 千円)
平成 3 年 8 月 22 日	急逝された第二代消防団長 田守 正哉氏(勤続 42 年)より、消防団旗及び救助救急資機材が寄贈される。故田守 正哉氏が、死亡叙勲 従五位勲四等瑞宝章を受章する。
平成 3 年 10 月 1 日	第三代消防団長 山下 邦男氏が就任する。
平成 3 年 11 月 8 日	元消防団 本部分団分団長 霜 清一氏が、勲七等青色桐葉章を受章する。
平成 3 年 12 月 17 日	国庫補助により、消防ポンプ自動車 BD-I 型を購入し、第 1 分団に配置する。(9,500 千円)
平成 4 年 4 月 1 日	消防本部に専任初代消防長 細野 晋治氏が就任する。
平成 4 年 8 月 25 日	自治宝くじ助成により、小型動力ポンプを購入し、大土町に配置する。
平成 5 年 7 月 18 日	加美谷台婦人防火クラブを発足する。
平成 5 年 10 月 1 日	完全週休二日制を実施する。
平成 5 年 11 月 12 日	日本損害保険協会より救助工作車が寄贈され、特別予算約 6,000 千円を加え、特別機装工事及び装備の充実を図り、消防署に配置する。

年 次	内 容
平成 6 年 3 月 25 日	消防職員 2 名増員し、条例定員 2 8 名とする。
平成 6 年 10 月 1 日	第四代消防団長 塚田 謙二氏が就任する。
平成 6 年 11 月 10 日	元消防団 第 5 分団分団長 阿慈知 薫氏が、勲七等青色桐葉章を受章する。
平成 7 年 4 月 29 日	元消防署 署長（司令長） 西田 幸雄氏が、勲六等瑞宝章を受章する。
平成 7 年 6 月 1 日	中津原保育所幼年消防クラブを発足する。
平成 8 年 3 月 15 日	東桂木町ヌ 1 1 番地の 2 に救助訓練塔を建設する。（18,700 千円）
平成 8 年 3 月 29 日	国庫補助により水槽付消防ポンプ自動車購入し、消防署に配置する。（2,000 ^千 円、23,100 千円）
平成 8 年 4 月 1 日	第二代消防長 石蔵 博敏氏が就任する。
平成 8 年 4 月 29 日	元消防団団長 山下 邦男氏が、勲五等瑞宝章を受章する。
平成 8 年 10 月 1 日	山中町消防職員委員会を設置する。
平成 8 年 12 月 8 日	菅谷町に第 4 分団車庫を新築する。
平成 9 年 7 月 25 日	第 4 5 回石川県消防ポンプ車操法大会に第 3 分団が出場する。
平成 9 年 8 月 2 日	元消防団 本部分団分団長 故荒木 武雄氏が、死亡叙勲 勲六等瑞宝章を受章する。
平成 9 年 8 月 12 日	分庁舎防災サイレン吹鳴装置を役場本庁舎に移設する。
平成 9 年 9 月 5 日	自治宝くじ助成により小型動力ポンプを購入し、杉水町に配置する。
平成 9 年 11 月 1 日	消防団員等公務災害補償等基金助成により、防火衣 8 5 着、シコロ付安全帽 8 5 個を購入し、全団員に貸与する。（1,400 千円）
平成 9 年 11 月 25 日	国庫補助により、消防ポンプ自動車 B D - I 型 2 台を購入し、第 2 分団と第 4 分団に配置する。 (23,100 千円)
平成 10 年 1 月 1 日	消防団再編成のため、1 団、5 ヶ分団の団員定数 7 7 名とする。
平成 10 年 3 月 19 日	(財)日本消防協会より、防火防災訓練災害補償等共済自治体消防 5 0 周年記念事業として、組立式テントが寄贈される。
平成 10 年 5 月 17 日	自治体消防 5 0 周年記念パレードに第 2 分団車で参加する。
平成 10 年 8 月 20 日	昭和 6 0 年式 1 6 m 級屈折梯子付消防ポンプ自動車のオーバーホールを実施する。 (12,900 千円)
平成 10 年中	山中町消防本部発足以来、初の無火災の年となる。
平成 11 年 1 月 4 日	毎年 1 月 5 日に実施としていた消防出初式を本年より変更する。
平成 11 年 2 月 8 日	(財)日本消防協会より、山中町消防団に竿頭綬が授与される。
平成 11 年 3 月 4 日	国庫補助により、高規格救急車を購入し、消防署に配置する。（37,900 千円）
平成 11 年 4 月 1 日	救急救命士 3 名で、高規格救急車の運用を開始する。
平成 11 年 4 月 29 日	元消防団 第 2 分団分団長 中嶋 榮博氏が、叙勲 勲六等瑞宝章を受章する。
平成 12 年 4 月 3 日	消防長事務取扱 町長 田中 實氏が就任する。
平成 12 年 5 月 30 日	庁舎施設の修繕及び改修工事を実施する。（高圧線取替、キュービクル屋根修繕、浴室シャワー改修）（1,170 千円）
平成 12 年 8 月 10 日	四輪駆動車を購入し、指令車として消防本部に配置する。（5,270 千円）
平成 12 年 11 月 7 日	民間防火組織等の防火・防災普及啓発推進助成事業により、消火訓練用放水器具、模擬消火訓練装置を購入する。（610 千円）
平成 12 年 9 月 1 日	消防団強化事業により、夏用アポロキャップ 7 7 個・ヘルメット 5 5 個・革手袋 5 0 双を購入する。（700,000 円）
平成 12 年 10 月 3 日	救助資機材を一部更新する。（大型油圧スプレッダー・カッター）（4,710 千円）
平成 13 年 4 月 1 日	第三代消防長 出口 数夫氏が就任する。
	第五代消防団長 山本 勇氏が就任する。
平成 13 年 10 月 17 日	庁舎施設改修工事を実施する。（キュービクル取替）（6,250 千円）
平成 14 年 4 月 1 日	第四代消防長 勘崎 栄一氏が就任する。
平成 14 年 6 月 20 日	消防庁舎内エアコン新設する。（事務所・待機室・通信指令室）（2,310 千円）
平成 14 年 7 月 9 日	民間防火組織等の防火・防災普及啓発推進助成事業により、心肺蘇生訓練用的人形 2 体購入する。 (600 千円)
平成 15 年 9 月 25 日	県費補助により、ハイブリッド車用大型油圧救助器具を購入する。（絶縁コンビツール・3 段ストロークラムシリンダー・5 m 延長ホース）（2,550 千円）
平成 15 年 9 月 29 日	(財)消防試験研究センター石川県支部より補助を受け、小型動力ポンプ B - 3 級を更新し消防団に配置する。（950 千円）
平成 16 年 1 月 3 日	(財)救急振興財団より補助を受け、自動体外式除細動器（二相波形式）を購入する。 (2,150 千円)
平成 16 年 3 月 26 日	(財)日本消防協会より指揮広報車が寄贈され、消防本部に配置する。
平成 16 年 4 月 1 日	第五代消防長 末 一夫氏が就任する。
平成 16 年 11 月 24 日	自主防災組織育成事業により小型動力ポンプ B - 3 を購入し、山中町に配置する。（1,010 千円）

年 次	内 容
平成 17 年 1 月 21 日	(財)救急振興財団が行う救急普及啓発支援助成事業により心肺蘇生訓練用人形 2 基（成人、乳児用各 1 基）、感染防止用シールド 5 0 0 枚、応急手当講習テキスト 5 0 0 冊が寄贈される。
平成 17 年 3 月 14 日	県費補助により車載型無線電話装置（移動用 1 0 W）を購入し、広報車車載無線機を更新する。 (500千円)
平成 17 年 3 月 27 日	女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業により D-1 級小型動力ポンプ 2 台を購入し、四十九院町婦人防火クラブ、加美谷台婦人防火クラブに配置する。また、同事業により活動服広報用アーチ、視聴覚機材を購入する。
平成 17 年 9 月 27 日	消防防災施設等整備費補助金事業により、災害対応特殊消防ポンプ自動車（C D-I 型）を整備（更新）する。（長野ポンプ(株)製・ダブルサイドプルタイプ吸菅巻取り装置・加納式電動ホースカー・クラス A フォーム自動混合装置搭載・高圧ナトリウムランプ・動力フロントウインチ装備・シャシ日野デュトロ PD-XZU378M）（32,643千円）
平成 17 年 9 月 30 日	山中町を廃止する。

旧山中町の歴代消防長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	細 野 晋 治	平成 4 年 4 月 1 日	平成 8 年 3 月 31 日	
二 代	石 蔵 博 敏	平成 8 年 4 月 1 日	平成 12 年 3 月 31 日	
三 代	出 口 数 夫	平成 12 年 4 月 1 日	平成 14 年 3 月 31 日	
四 代	勘 崎 栄 一	平成 14 年 4 月 1 日	平成 16 年 3 月 31 日	
五 代	末 一 夫	平成 16 年 4 月 1 日	平成 17 年 9 月 30 日	

旧山中町の歴代消防団長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	新 井 長 作	昭和 30 年 4 月 28 日	昭和 35 年 10 月 - 日	
二 代	田 守 正 哉	昭和 35 年 10 月 14 日	平成 3 年 8 月 22 日	
三 代	山 下 邦 男	平成 3 年 10 月 1 日	平成 6 年 9 月 30 日	
四 代	塚 田 謙 二	平成 6 年 10 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日	
五 代	山 本 勇	平成 13 年 4 月 1 日	平成 17 年 9 月 30 日	